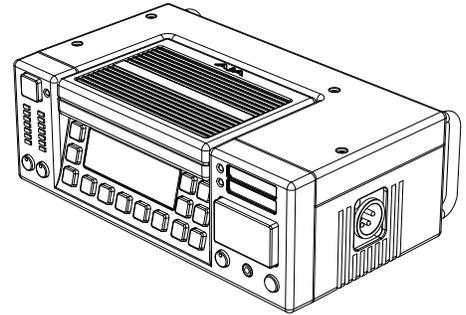


KiPRO



Published: 2/13/2012

バージョン 3.0

ユーザーズ マニュアル

商標

AJA[®]、KONA[®]、XENA[®] は、AJA Video Systems 社の登録商標です。
Ki Pro[™]、Io Express[™]、Io HD[™] および Io[™] は AJA Video Systems 社の商標です。
AirPort、Apple、Apple ロゴ、AppleShare、AppleTalk、FireWire、iPod、iPod Touch、
Mac および Macintosh は Apple Computer 社の登録商標です。Final Cut Pro、QuickTime
および QuickTime ロゴは、Apple Computer 社の商標です。その他本ドキュメントに
掲載のメーカー名または製品名等は、名称を所有する企業・団体などの商標である場
合があります。

著作権

Copyright © 2012 AJA Video Systems, Inc. 無断転載禁止。本マニュアルに記載したす
べての情報は、予告なしに変更されることがあります。AJA Inc. の明示的な書面によ
る許可なしに、本書のいかなる部分も、コピーや録音を含む、電子的または機械的な、
いかなる形あるいは手段によっても、複製したり、送信したりすることは禁じられて
います。

FCC 規格準拠

本装置は、FCC 規格パート 15 に準拠するクラス A デジタル装置の規制に適合してい
ます。これらの規制は、装置が商用環境で使用されたときに適切な受信障害防止策を
提供することを目的としています。本装置は、無線周波エネルギーを発生、使用し、
放射することがあります。製造者の取扱説明書に従って設置および使用されない場
合、受信障害を引き起こすことがあります。本装置を住宅地で使用すると、電波障害
を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求さ
れることがあります。AJA Video が明示的に承認しない、本装置の修正または改造を
行うと、電磁適合に影響を及ぼし、本装置を使用するためのユーザーの権限を無効に
することがあります。

サポート窓口

To contact AJA Video for sales or support, use any of the following methods:

Telephone: +1.800.251.4224 or +1.530.274.2048

Fax: +1.530.274.9442

Web: <http://www.aja.com>

Support Email: support@aja.com

Sales Email: sales@aja.com

製品保証

AJA Video 社は、本製品の購入日から 3 年間、故障の無償修理を保証いたします。保証期間内に万一故障が生じた場合は、AJA Video 社は故障した製品を無償で修理するか、故障した製品を交換します。

本保証書に基づいてサービスを受ける場合は、顧客は保証期間が終了する前に、不具合について AJA Video 社に告知し、サービスを受けるための適切な準備が必要です。顧客は責任を持って故障した製品を梱包し、AJA Video 社指定のサービスセンターへ、送料前払いで送付してください。返送先が AJA Video 社のサービスセンターと同一国内であれば、返送費用は AJA Video 社が負担いたします。その他の国の場合は、送料、保険料、税金など製品の返送に必要な費用は、顧客の責任においてお支払いください。

本保証書は、不適切な使用または不適切あるいは不十分な保守が原因の故障や不具合、損傷については適用されません。AJA Video 社は、以下の場合には本保証書での責を負いかねます a) AJA Video 社が認定した代理人以外による製品の設置、修理、サービスが原因での故障の修理 b) 不適切な使用や互換性のない機器との接続により生じた故障の修理 c) AJA Video 社製でない部品や消耗品の使用により生じた故障や不具合の修理 d) 改造あるいは他の機器の組み込みにより製品のサービスに余分な時間が必要になったり、困難になった場合のサービス。

本保証書は、AJA Video 社の他のあらゆる明示的あるいは暗示的保証に代わるものです。AJA Video 社およびその販売会社は、いかなる暗示的な商品性あるいは特定の目的のための適合性の保証も負いかねます。故障した製品の修理あるいは交換についての AJA Video 社の責任は、AJA Video 社あるいは販売会社が故障の可能性についてあらかじめ告知していたかどうかに関係なく、あらゆる間接的で、特殊な、偶発的あるいは結果的損害に関して、顧客への全体的および排他的救済です。



目次

商標.....	ii
著作権.....	ii
FCC 規格準拠.....	ii
サポート窓口.....	ii
製品保証.....	iii
第 1 章はじめに	
概要.....	7
機能.....	8
ハードウェア.....	8
ソフトウェア.....	9
オプション.....	9
パッケージの内容.....	11
システム要件.....	12
Apple ProRes 422 のメリット.....	13
本マニュアルの内容.....	13
第 2 章ご使用の前に	
概要.....	15
操作面.....	16
コントロールとインジケータ.....	16
ボタン.....	16
ディスプレイとインジケータ.....	19
正面パネルのその他の機能.....	20
接続面.....	20
コネクタ.....	21
LTC タイムコード 入出力.....	21
SDI 入出力.....	22
コンポーネント YPbPr.....	22
CVBS コンポジット NTSC/PAL 出力.....	22
HDMI.....	22
アナログ 2 チャンネルバランスドオーディオ入出力.....	23
アナログ 2 チャンネルアンバランスドオーディオ入出力.....	23
9pin コネクタ.....	23
Host (FireWire 800).....	23
CTRL/TC (FireWire 400).....	23
Ethernet.....	24
LANC Loop.....	24
Lens Tap.....	24
IEEE 802.11 通信機インジケータ (LED).....	24
電源コネクタ (本体側面).....	24
ストレージ.....	25
ExpressCard/34 メモリーカード.....	25
リムーバブルストレージモジュール (HDD または SSD).....	26
メディアのフォーマット.....	26
Ki Pro のメディアを Final Cut Pro で使う.....	26
設置.....	27

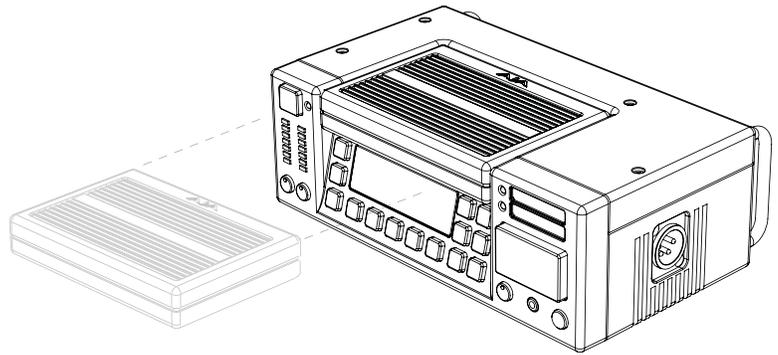
単体使用.....	28
Exo-Skeleton にカメラをマウント	28
.....	29
Exo-Skeleton のセットアップと調整	29
電源の供給.....	32
AC 電源を使うには	32
DC 電源を使うには.....	33
リモートネットワークコントロール	34
ネットワーク接続	34
TCP/IP 情報.....	35
DHCP 経由のネットワーク接続	35
固定 IP アドレスによるネットワーク接続.....	36
工場設定のデフォルト IP によるネットワーク接続	38
Ping によるネットワーク接続テスト	38
Mac での Ping 操作	38
WEB ブラウザからのコントロール.....	38
802.11b/g でのコントロール.....	39
第 3 章正面パネル操作	
概要.....	41
トランスポートモード (デフォルト)	43
クリップの収録	43
収録に関する注意	44
クリップの再生	44
クリップの削除	45
STATUS メニュー	46
収録および再生モード.....	46
アラームステータス	46
MEDIA メニュー.....	49
MEDIA メニューのパラメータ.....	49
12.1 MEDIA STATE.....	49
Data-LAN と Data-FW について	50
14.1 ENCODE TYPE.....	50
15.1 PLAY MEDIA.....	51
15.2 LOOP PLAY.....	51
15.3 PLAYLIST	51
16.1 FORMAT MEDIA	51
16.2 DELETE CLIPS	52
17.0 REEL NAME	52
17.2 CLIP NAME	52
クリップ名の 2 つの例.....	52
17.3 CLIP NUMBER	53
17.4 CLIP APPEND.....	54
17.5 ALPHA APPEND	54
17.8 TAKE	54
カスタムクリップネーミング	54
19.1 USE CUSTOM CLIP NAME	55
19.2 CUSTOM CLIP NAME.....	55
19.4 CUSTOM TAKE.....	55

22.1 GANG CLIP NAME	56
CONFIG メニュー	56
CONFIG メニューのパラメータ	56
1.1 RECORD TYPE	57
1.3 1080p PLAYBACK	58
1.4 IN CONVERT	58
1.5 OUT CONVERT	58
1.6 SDI OUT	58
1.7 COMPONENT OUT	59
1.8 HDMI OUT	59
1.9 SUPER OUT	59
2.1 VIDEO INPUT	59
2.2 AUDIO INPUT	59
2.3 AUDIO CHANNELS	60
3.1 COMPONENT IN LVL	60
3.2 COMPONENT OUT LVL	61
3.4 NTSC CONFIG	61
4.1 ANALOG AUDIO	61
5.1 UPCONVERSION	62
5.2 DOWNCONVERSION	63
6.1 GENLOCK	63
8.0 TC IN	64
8.1 TC VALUE	64
8.2 TC TYPE	64
8.3 ARM RECORDING	64
13.1 CAMERA DATA	65
13.1 でサポートされるカメラについての重要なご注意	66
32.0 Loss of Video	67
35.2 REMOTE CONTROL	67
41.1 VIDEO SG FRMT	69
41.2 VIDEO SG	69
41.3 AUDIO SG	69
50.1 IP CONFIG	70
50.2 IP ADDRESS	70
50.3 SUBNET MASK	71
50.4 STATIC GATEWAY	71
50.5 SYSTEM NAME	72
50.6 MAC ADDRESS	72
50.7 802.11 MAC ADDRESS	72
53.0 802.11 AVAILABLE	73
53.1 802.11 CONTROL	73
53.2 802.11 NETWORK	74
53.3 802.11 SECURITY	74
53.4 802.11 PASSWORD	74
53.5 HIDE 802.11 PASSWORD	74
54.1 802.11 IP CONFIG	75
54.2 802.11 IP ADDRESS	75
54.3 802.11 DHCP MASK	75
55.4 DATE SET	76

55.6 TIME SET	76
70.1 SCREEN SAVER	76
70.2 DISPLAY INTENSITY	77
70.3 FAN SPEED	77
80.1 SERIAL NUMBER	77
80.2 SW VERSION	77
91.1 RECALL PRESET	77
92.1 STORE PRESET	77
99.1 FACTORY RESET	78
第4章 ブラウザからのリモートコントロール	
リモートコントロールの概要	79
設定値を工場設定に戻す	79
Ethernet 経由の WEB ブラウザ	80
共通画面情報	80
Config 画面	82
Media 画面	85
Transport 画面	88
Presets 画面	90
Network 画面	92
Wireless 画面	94
Playlists 画面	95
Alarms 画面	97
Update Firmware 画面	98
ソフトウェア更新の準備	98
Ki Pro にソフトウェアをアップロードしてインストールするには	99
ワイヤレス機器の WEB ブラウザ	100
ワイヤレス機器からのコントロール	101
iPhone Ki Pro 画面	101
iPhone を使って Ki Pro をコントロールするには	102
Status	102
Alarms	103
Config	103
Media	105
Playlists	105
Transport	106
高度な機能	107
複数の Ki Pro のコントロール	107
ギャングレコーディング	107
例:	107
ギャングレコーディングの使いかた	108
ギャングレコーディングのまとめ	109
プレイリストの使用法	110
All Clips プレイリストの使用法	110
プレイリストの作成	111
プレイリストの再生	112
プリセットの使用法	113
プリセットの保存	113
プリセットの呼び出し	114

付録 A: 仕様	
ビデオ入力	117
デジタル	117
アナログ	117
ビデオ出力 (すべて同時出力可能)	117
デジタル	117
アナログ	117
オーディオ入力	117
デジタル	117
アナログ	117
オーディオ出力	118
デジタル	118
アナログ	118
ネットワーク	118
パネル表示 (UI)	118
タイムコード	118
コントロール	118
シリアルポート	119
FireWire	119
ハードウェアアップコンバージョン - 10bit	119
ハードウェアダウンコンバージョン - 10bit	119
ハードウェアクロスコンバージョン - 10bit	120
寸法・重さ	120
温度	120
電源	120
索引	121

第1章はじめに



概要

Ki Proは、撮影の現場とポストプロダクションをつなぐ最新ツールです。カメラのフォーマットに関わらず、Apple Final Cut Studio または Apple Final Cut Pro X 編集に最適な Apple ProRes 422 というコーデックの HQ、LT、Proxy など4タイプすべてで収録が可能で、簡単にポストプロダクションへ移行することができます。Ki Pro は、豊富なアナログ/デジタルのビデオ/オーディオ入出力を備えています。また、AJA の強力な 10bit リアルタイムアップ/ダウン/クロスコンバージョンも搭載しているため、編集・送出に使用するフォーマットで記録することが可能です。

小型で機動性の高い Ki Pro は、即座に編集が可能なプロフェッショナルデジタル映像制作のためのフィールドレコーダです。Ki Pro は、Apple ProRes 422 QuickTime ファイルを、標準的なメディアに記録することによって、Apple ファイルベースのワークフローをサポートしています。Ki Pro は、アナログおよびデジタルのビデオ/オーディオ入出力をサポートし、ExpressCard/34 メモリーカードまたはリムーバブルストレージモジュールに記録します。Ki Pro で使用できるストレージモジュールには、2.5 インチ SATA ハードドライブ（本体に標準で付属）またはオプションのソリッドステートドライブ（SSD）モジュールの2つのタイプがあります。ストレージモジュールは、取り外して Mac に接続し、一般的な FireWire 800 ドライブと同じように使用することができます。

注： ExpressCard/34 メモリーカードでのデータ保存は、バージョン 1.0、1.0.1、1.1、2.0 ではサポートしていません。ExpressCard/34 メモリーカードでのデータ保存がサポートされるのは、バージョン 3.0 以降です（ただしバージョン 3.0 ではスロット 1 のみサポート）。

汎用性を考慮したデザインと小型サイズにより、Ki Pro は単体でも、またカメラと一体化させて使用することもできます。単体使用時は、机などの平らな場所に設置してカメ

ラに接続します。カメラと一体化させて使用する場合は、オプションの Exo-Skeleton フレームを使用してカメラと三脚の間にマウントします。オプションのこのフレームは、業務用の三脚アタッチメントとして機能し、カメラとアクセサリ類を状況に応じて配置することができます。

Ki Pro はハードウェアで Apple ProRes 422 コーデックにネイティブ対応しており、ダイレクト且つリアルタイムに Apple ProRes 422 QuickTime ファイルへキャプチャすることができます。カメラ本体のテープやファイルベースのメモリへの記録と同時に、Ki Pro は同じ素材を ProRes としてキャプチャすることができ、リムーバブルストレージモジュールを Mac に接続するだけで編集を開始することができます。こうした柔軟性によって、時間や手間を省け、より早く高品質なプロジェクトを完成できます。

AJA の既存の KONA および Io HD といったデスクトップ製品と同様に、Ki Pro は比類ないコネクティビティを提供します。持ち運び可能な頑丈なボディに、SD/HD アナログ入出力、SDI、HD-SDI および HDMI を含め SD/HD デジタル入出力、ラインレベルとマイクレベルをスイッチで切り替え可能なバランスドおよびアンバランスドのアナログオーディオ 2 チャンネル、LTC タイムコード入出力を備えています。

各種コントロールにも柔軟に対応できます。RJ45 コネクタ経由で Ethernet 10/100/1000 接続が可能で、Mac や PC の WEB ブラウザからリモートコントロールや設定が可能です。

注：バージョン 1.0、1.0.1、1.1、2.0 では FireWire 400 をサポートしていません。バージョン 3.0 で、カメラからのコントロールやタイムコードの使用を可能にする FireWire 400 (1394a) コネクタがサポートされました。また同様にバージョン 3.0 から、Ki Pro 本体側の FireWire 800 接続で Mac に Ki Pro のストレージデバイス (SSD、HD、ExpressCard/34 メモリーカード) をマウントできるようになりました。

ワイヤレスコントロール用に、Ki Pro は iPhone、iPod Touch や、802.11 装備のコンピュータなどの無線機器に接続するための 802.11b/g アンテナおよび無線装置を内蔵しています。(Ki Pro のコネクタやコントロール機能について詳しくは、第 2 章を参照してください。)

本書では、Ki Pro およびオプションのアクセサリの設置と操作について説明します。

機能

Ki Pro は、高品質と操作性を迫及した数々の機能を備え、多種多様なワークフローおよび環境をサポートします。Ki Pro は、SD/HD が混在する環境で、ハードウェアアップ/ダウン/クロスコンバージョンを使用した柔軟な SD/HD 収録が可能で、様々なコントロール方法やストレージオプションを使用できます。

ハードウェア

- Apple ProRes 422 および Apple ProRes 422 HQ、Apple ProRes 422 LT、Apple ProRes 422 Proxy コーデック (SD、HD 720/1080、フル解像度 10bit 4:2:2、リアルタイム処理) にハードウェアで対応
- 10 bit、リアルタイム・アップ/ダウン/クロスコンバータ搭載
- SD/HD アナログコンポーネント入出力 (BNC × 6)
- コンポジットビデオ出力 (BNC × 1)

- HD/SD-SDI 入出力 (BNC × 2)
- HDMI 入出力 (HDMI × 2)
- 2チャンネルバランスド / アンバランスドアナログオーディオ入出力 (XLR × 4、RCA × 4)
- LTC 入出力 (BNC × 2、収録中は出力されません)
- IEEE 802.11 無線通信
- 10/100/1000 Ethernet LAN
- 操作パネルに VFD ディスプレイ (2 行文字表示)、14 個の操作ボタン、3 個の操作つまみ、および電源ボタンを装備
- Apple Mac[®] コンピュータ (HFS+ ファイルシステム) と使用するための FireWire 800 ポート付きストレージモジュール (HDD)
- 業界標準の 4 ピン XLR コネクタ付き DC12 V 用 AC アダプタ
- 3 年間保証

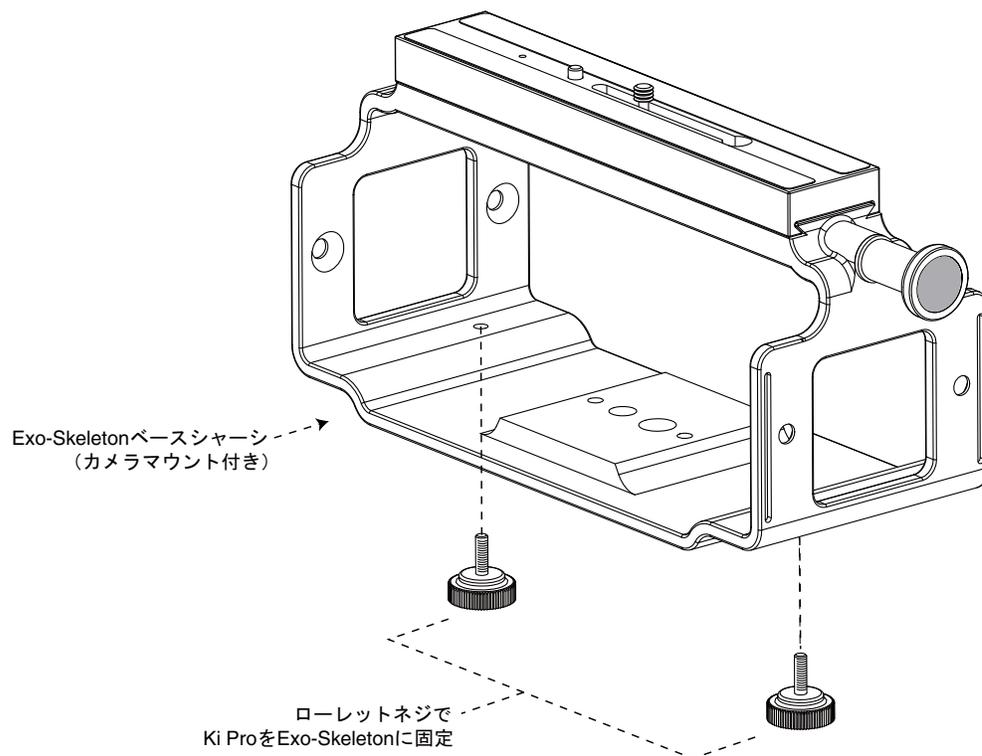
ソフトウェア

- リモートブラウザコントロールソフトウェア Ki Pro の Ethernet ポートを使用した接続、または 802.11b/g 接続に対応したデバイス (Mac[®]、PC、iPhone など) から、WEB ブラウザを介してリモートコントロールが可能
- システムプリセット設定を保存、呼び出し可能な 20 個のプリセットレジスタ
- 802.11b/g または LAN を介してリモートコントロールが可能な内蔵 WEB サーバを搭載
- 複数台の Ki Pro を 1 台のマスター Ki Pro でコントロールするギャングレコーディングが可能 (第 3 章の CONFIG パラメータ 35.4 をご覧ください)
- 編集アプリケーションから VTR 制御の RS422 で Ki Pro をコントロール (第 3 章の CONFIG パラメータ 35.2 をご覧ください)
- 注意が必要な状況を警告するアラーム

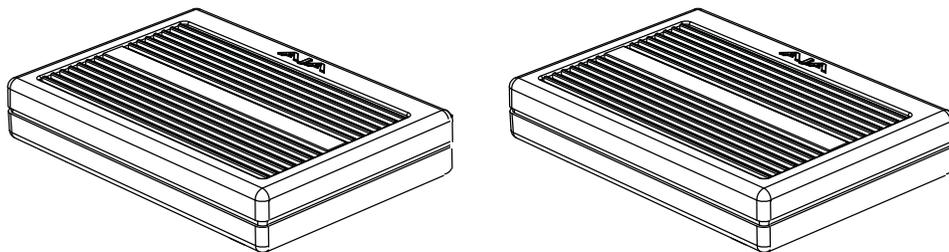
オプション

AJA Ki Pro は、いくつかの拡張用オプションをご用意しています。

- Ki Pro Exo-skeleton : Ki Pro を三脚にマウントし、上にカメラをマウントするためのシャーシです。コントロールボタンやつまみの操作がしやすいように設計されています。

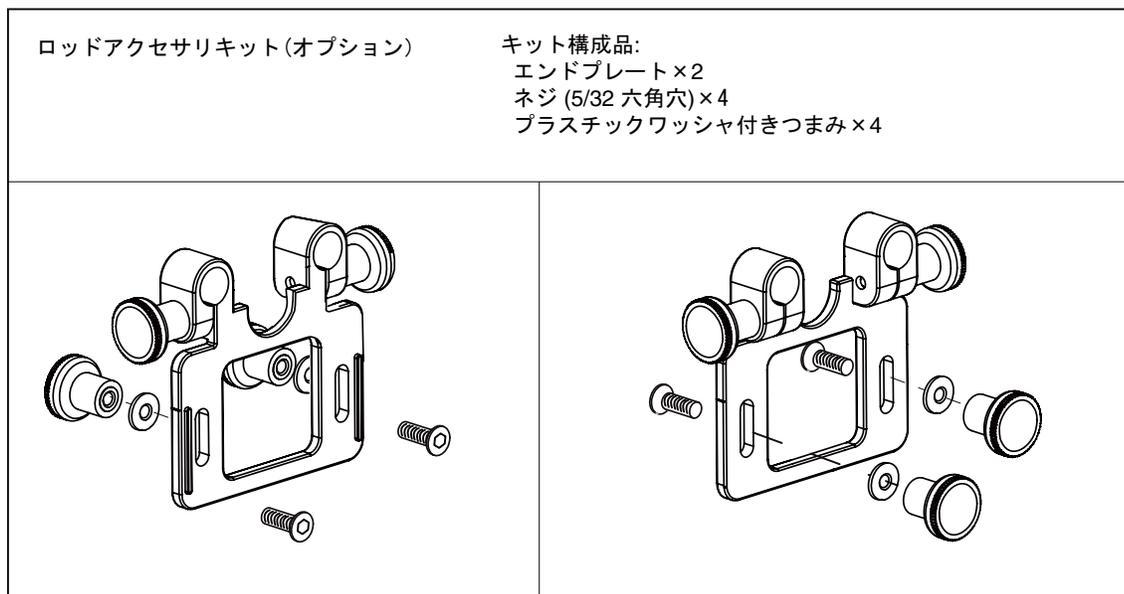


Ki Pro Exo-skeleton (エグゾスケルトン、オプション)



ストレージモジュール (オプション) : SSD またはハードドライブ

- Ki Pro SSD Storage Module: Ki Pro にはリムーバブル HDD ストレージモジュールが標準で付属していますが、オプションで SSD ストレージモジュールを使用することもできます。移動中の運用などで防振対策が必要な場合は、Ki Pro ソリッドステートストレージモジュール (SSD) のご使用をお勧めします。Ki Pro SSD Module で最高の信頼性が得られます。
- Ki Pro Hard Drive Storage Module : Ki Pro には、このリムーバブル HDD ストレージモジュールが標準で 1 台付属していますが、必要に応じて追加購入し、使用することができます。
- Ki Pro Rod Accessory Kit : Exo-Skeleton にエンドプレートを追加し、手持ちの 15mm のカメラアクセサリロッド 2 本の取り付けを可能にします。これらのエンドプレートには、カメラに対するロッドブラケットの高さを調整するためのつまみと、ロッドをブラケットに固定するためのつまみがあります。



ロッドアクセサリキット (オプション)

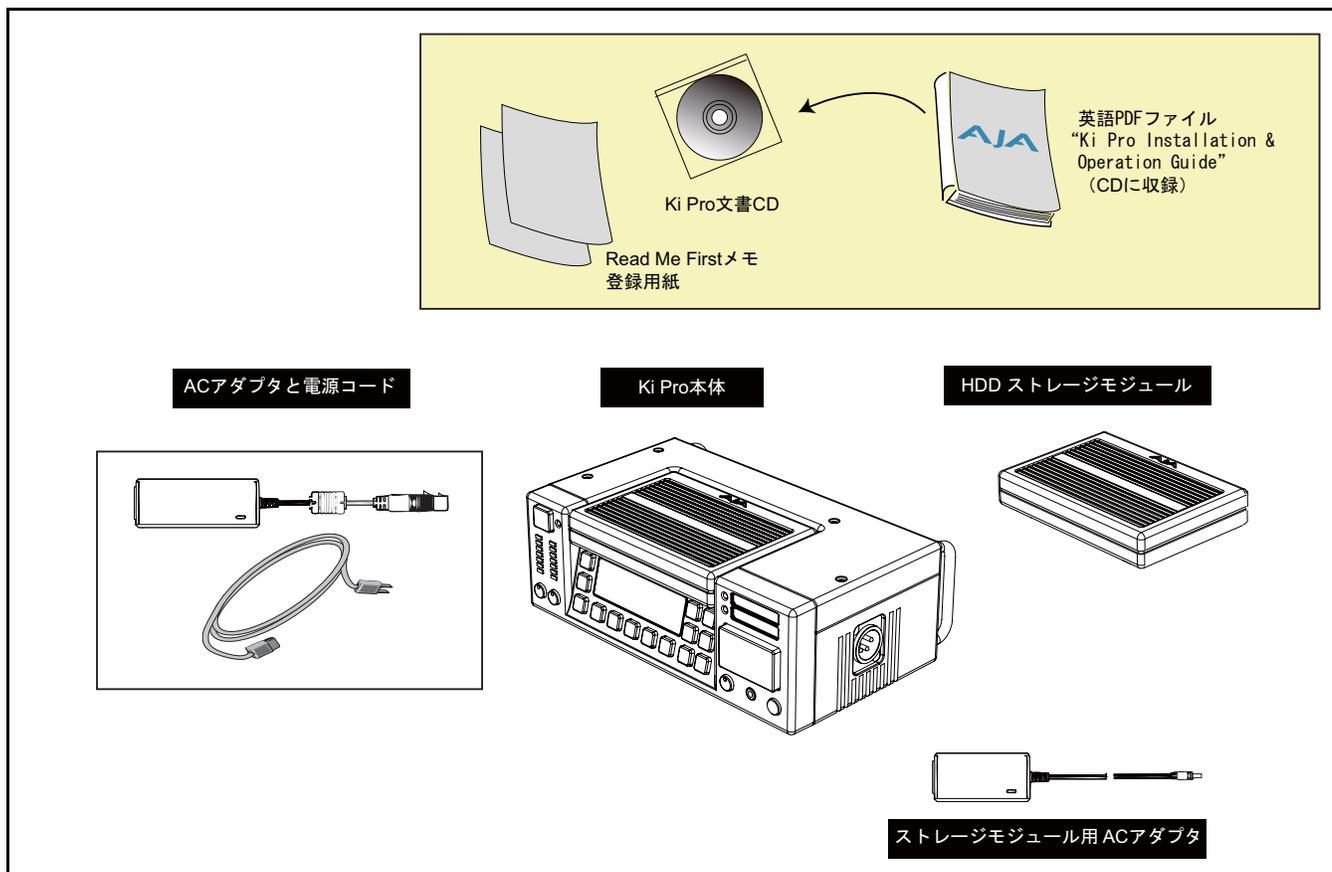
- AJA レンズタップケーブル : この AJA 独自のケーブルによって、レンズのレンズタップコントロールコネクタとカメラ本体を接続し、レンズコントロール信号をインターセプトすることによって Ki Pro で記録を開始・停止させることができます。バージョン 1.0、1.0.1、1.1、2.0 ではサポートしていません。

パッケージの内容

AJA Ki Pro のパッケージには、次のものが入っています。

- Ki Pro CD-ROM: この CD には PDF 形式のマニュアル(英語版)が収録されています。
- Ki Pro 本体
- Ki Pro 250GB ハードドライブストレージと AC アダプタ
- 業界標準の 4 ピン XLR コネクタ付き AC アダプタ : Ki Pro に電源を供給します。
- Read Me First (最初にお読みください) メモ : Ki Pro に関する追加情報や正誤表などが記載されています。
- 登録用紙 : メールやオンライン (詳細情報が提供されます) によるユーザー登録用です。

Ki Pro のパッケージや梱包材は保管しておいてください。修理に出す際や、システムの移動時には、この梱包材を使用して安全に輸送してください。



Ki Pro 梱包品



警告：

Exo-Skeleton など、製造元が指定・販売しているアタッチメントやアクセサリ以外は使用しないでください。



警告：

製品にマークされたり文書に記載されている注意や指示にはすべて従ってください。



警告：

本機を水の近くで使用しないでください。拭くときは必ず乾いた布を使用してください。

システム要件

Mac Pro または MacBook Pro を Ki Pro と使用するときは、FireWire 800 ポートを搭載し、十分な性能レベルで Apple ProRes 422 をサポートするマシンのご使用をお勧めします。編集用にシステムをセットアップしたり調整する場合は、Final Cut Pro のマニュアルを参照してください。ProRes 422 編集には、十分なストレージシステムとビデオ / オーディオインターフェイスが不可欠です。

Apple ProRes 422 のメリット

データレート : ProRes422 HQ-220Mb/ 秒、ProRes422-145Mb/ 秒、ProRes422 LT-100Mb/ 秒、ProRes422 Proxy-36Mb/ 秒 (コンピュータ内蔵ストレージまたは付属のストレージモジュールをサポート)

注 : ProRes 422 Proxy は、オリジナル同等のフレームサイズ、フレームレート、アスペクト比を持つ、高品質なオフライン編集に最適なコーデックです。

品質 : 放送用高品質

キャプチャしたメディアは、元々の非圧縮のソースと差がありません。さらに ProRes は編集中でも品質を保持し、世代劣化することなく繰り返しエンコード・デコードを行えます。通信・配信より、編集を優先して Apple が開発したコーデックです。

以下のようなメリットがあります。

- HD フル解像度 1920 × 1080 および 1280 × 720 に対応します。
- SD フル解像度 720 × 486 および 720 × 576 に対応します。
- 4:2:2 クロマサンプリング : シャープなカラーエッジで正確な画像合成を実現します。
- 10 bit サンプリング : 10 bit ソースの微妙な階調を保持します。(グリーンバック合成やグラフィック、カラーコレクションに最適です。)
- I frame-only エンコーディング : 個々のフレームで安定した品質が得られ、複雑な動きでもアーチファクトを回避します。
- 可変ビットレート (VBR) エンコーディング : 効率的なエンコーディングによって、イメージを分析し、より高いビットレートを複雑なフレームに割り当てます。
- 低データレートによって、各種ストレージを選択でき、少ないスペースで高品質ビデオを保存できます。
- 高効率のリアルタイムエフェクトに最適化されています。

本マニュアルの内容

第 1 章は、今お読みいただいている章で、特徴、パッケージの内容、システム要件などが記載されています。

第 2 章では、Ki Pro を初めてご使用になるときのために、正面および背面パネルの機能、コネクタ、インジケータ、および入手可能なオプションについて説明します。

第 3 章では、Ki Pro を正面パネルで操作する方法を説明します。

第 4 章では、Ethernet または 802.11b/g を介して WEB ブラウザで Ki Pro をリモートコントロールする方法を説明します。

付録 A には、本システムの様々な仕様が記載されています。

第 2 章 ご使用の前に

概要

Ki Pro を使用するときは、用途に応じて各種機器をメディアケーブルで接続します。第 2 章、第 3 章では、Ki Pro の操作方法と多くの設定項目について説明します。本章では、コンフィグレーション、電源、インジケータ、操作つまみ、コネクタ類について紹介し、Ki Pro を使って収録現場とポストプロダクションをつなぐために必要な情報を提示します。説明をシンプルにするため、下記の 2 通りの使いかたを例に説明します。

- 単体で使用する（スタンドアローン運用）：メディア収録のための単体使用では、Ki Pro 本体を机などの平らな場所に置き、カメラやカムコーダなどのビデオ / オーディオソースにケーブル接続します。メディア収録後、Ki Pro のストレージモジュールを取り外し、FireWire 800 を介して直接 Mac に接続することによって、収録したメディアを Mac 上で使用できます。また FireWire 800 ケーブルを使用して Ki Pro 本体を Mac に接続することもできます。
- Exo-Skeleton と合わせて使用する：導入時に最適な選択として、Exo-Skeleton（オプション）に Ki Pro をマウントし、三脚に取り付けて運用する方法があります。カメラは Exo-Skeleton の上に取り付けることができます。これによって、カメラで撮影するのと同時に Apple ProRes 422 メディアを収録するためのフル装備制作システムが構築されます。スタンドアローン運用時と同様に、撮影から編集システムへ移行する際にも、Ki Pro を三脚から取り外すことなく、ストレージメディアを簡単に着脱できます。Exo-Skeleton は、細かな調整が可能で、カメラをロッドやアクセサリに対し垂直 / 水平方向に調整するためのロッドエンドプレートがオプションで用意されています。

前面パネルのインジケータの表示で、操作モードや Ki Pro の状態を確認したり、エラーの原因などを知ることができます。操作パネルやコネクタ類を理解すると、システムの設置や設定、システム運用が容易になります。

次のページから、正面および背面パネルのすべてのコネクタとインジケータを、簡単なコメント入りの図で示します。それぞれのコネクタおよびインジケータについては詳しくは、図の後の文章で説明します。



注意：

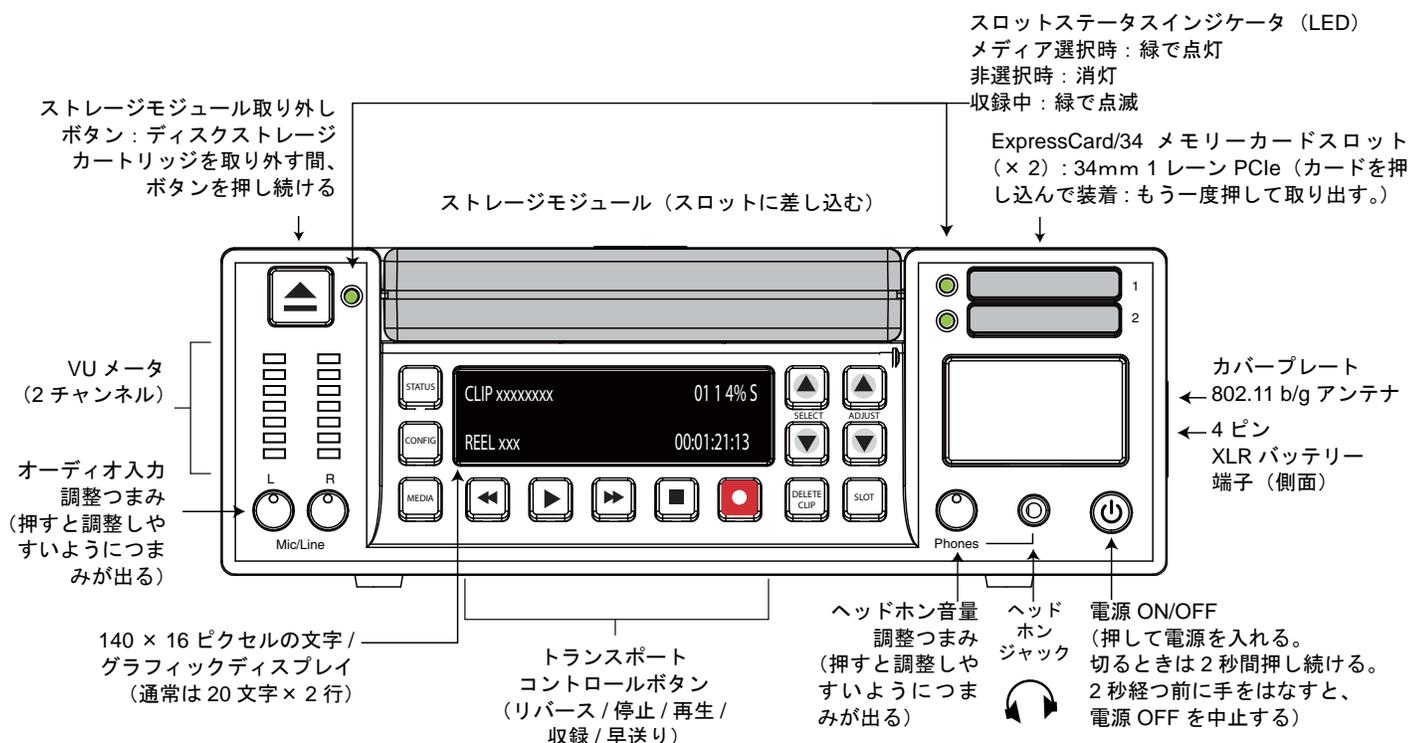
本機はクラス A 製品です。本装置を住宅地で使用すると、電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。



注意：

AJA Ki Pro 内部にはリチウム電池が半田付けされています。（交換はできません。）Ki Pro を廃棄するときは、地域で定められた方法に従って廃棄してください。リチウム電池を、直射日光や火など、高温にさらさないでください。

操作面



Ki Pro 操作面 (正面パネル)

コントロールとインジケータ

Ki Pro の操作面には、Ki Pro を直接操作するための様々なボタン、つまみ、端子、およびインジケータが備えられています。それぞれについて、以下に説明します。この部分は、Exo-Skeleton にマウントしたときカメラのオペレータが操作する部分と対応するため、「操作面」と呼びます。カメラの機能をコントロールするときも、Ki Pro の全コントロール機能を把握することによって、操作が容易になります。

Ki Pro の正面パネルは、トランスポートモード (デフォルト) とメニューモードの 2 つのモードで動作します。モードによって異なる働きをするつまみもあります。トランスポートモードでは、基本的な再生、収録、クリップ選択などの機能をコントロールします。メニューモードは、Ki Pro のセットアップおよび調整のためのモードです。STATUS、CONFIG、MEDIA の 3 系統のメニューがあります。これらのメニューは、ディスプレイの左側の対応するメニューボタンを押すことによって呼び出します。

ボタン

電源 ON/OFF ボタン：システムの電源を ON/OFF し、電源の状態を表示します (電源 ON で点灯)。電源を ON にするときは、ボタンを 1 回押します。強く押したり、押し込む必要はありません。内部プロセッサによるセンサ式のソフトボタンです。電源 OFF のときにボタンに触れると、スタートアップ処理が始まり、文字表示部に起動状況が表示されます。

電源を切るときは、電源ボタンを 2 秒間押し続ける必要があります。この動作によって、通常の使用時に誤って電源が切れるのを防ぐことができます。パワーダウン中でも 2 秒経つ前にボタンから手を離せば、パワーダウンプロセスを中止することができます。

STATUS ボタン：点灯していないときに押すと、STATUS メニューに入ります。点灯しているときに押すと、STATUS メニューを抜け、トランスポートモードに戻ります。STATUS メニューは、トランスポートモード（PLAY、RECORD、FF、REV）で動作している場合を含め、いつでも呼び出すことができます。表示部に表示されるアラーム状況は、STATUS メニュー時でも共通です。選択ボタンを使用して、アラームと入出力のステータスを順次切り替えることができます。メニューおよび正面パネルの操作については、第3章で説明します。

CONFIG ボタン：点灯していないときに押すと、CONFIG メニューに入ります。点灯しているときに押すと、CONFIG メニューを抜け、デフォルトのトランスポートモードに戻ります。CONFIG メニューは、STOP モードからのみ呼び出すことができます。CONFIG メニューでは、メニューを抜けたときのパラメータを記憶し、再度メニューに入ったときは同じパラメータに戻ります。

MEDIA ボタン：点灯していないときに押すと、MEDIA メニューに入ります。点灯しているときに押すと、MEDIA メニューを抜け、デフォルトのトランスポートモードに戻ります。MEDIA メニューは、STOP モードからのみ呼び出すことができます。MEDIA メニューでは、メニューを抜けたときのパラメータを記憶し、再度メニューに入ったときは同じパラメータに戻ります。

トランスポートコントロールボタン：これらのボタンは常に有効です。

STOP ■：STOP ボタンには2つの機能があります。クリップ再生（PLAY、FF、またはREV）時は、STOP を1回押すと PAUSE モードになります。再生が一時停止し、クリップの現在点が表示され、STOP ボタンが点滅します。もう1回 STOP ボタンを押すと、再生が完全に停止し、Ki Pro の出力は E to E モード（現在選択されている入力そのまま出力されるモード）になります。STOP ボタンが点滅している場合は、PAUSE モード（一時停止状態）です。STOP（停止）モードでは、STOP ボタンは点灯状態になります。

PLAY ▶：PLAY ボタンを押すと、現在のクリップを標準速度で再生します。

RECORD ●：赤い REC ボタンを押すと、収録を開始します。RECORD モードに入ると、STOP ボタンを除く他の動作ボタンはロックされます。

FFWD ▶▶：F FWD ボタンを押すと、現在のクリップの高速再生が始まります。押すごとに、2倍速から、4倍速、8倍速、16倍速に切り替わります。（16倍速になったあとは、ボタンを押しても動作は切り替わりません。）高速再生中は、オーディオはミュートされます。

REV ◀◀：点灯していないときにこのボタンを押すと、現在のクリップを1倍速でリバース再生します。押すごとに、1倍速から、2倍速、4倍速、8倍速、16倍速に切り替わります。（16倍速になったあとは、ボタンを押しても動作は切り替わりません。）リバース再生中は、再生速度に関わらずオーディオはミュートされます。



SELECT Up/Down ボタン：この2つのボタンは、Ki Pro がトランスポートモードかメニューモードかによって機能が異なります。トランスポートモードでは、SELECT ボタンは、クリップ選択の前キー、次キーとして機能します。クリップを選択すると、選択したクリップを頭出しします。クリップの再生順は、クリップの名称ではなく、タイムスタンプ（作成日）に基づいて決定されます。ただし、プレイリスト内での再生は、プレイリストで設定した順番で行われます。メニューモードでは、SELECT ボタンで調整するパラメータを選択します。どちらかのボタンを押し続けると、上記の動作を繰り返します。

ADJUST Up/Down ボタン：この2つのボタンは、Ki Pro がトランスポートモードかメニューモードかによって機能が異なります。トランスポートモードで一時停止状態（PLAY モードで STOP ボタンを1回押す）になっているときは、ADJUST ボタンを押すと、押すごとに現在のクリップを1フレームずつフレーム送りします（Up ボタン：正方向、Down ボタン：逆方向）。メニューモードでは、選択されているパラメータを ADJUST ボタンで調整します。どちらかのボタンを押し続けると、上記の動作を繰り返します。

DELETE CLIP ボタン：現在選択されているクリップを削除するときのみ使用します。押すと、確認メッセージ "ARE YOU SURE?" が表示されます。削除を実行するときは、ADJUST Up ボタンを押します。削除を中止するときは、ADJUST Down ボタンを押します。クリップを削除すると、次のクリップが選択されます。確認メッセージ "ARE YOU SURE?" が表示されている状態で DELETE CLIP ボタン、STOP ボタンなど、ADJUST Up ボタン以外のボタンを押すと、削除がキャンセルされます。

DELETE CLIP ボタンは、トランスポートモード、メニューモードのどちらでも有効です。トランスポートモードで現在動作中（PLAY、REV、FF、または RECORD）のクリップに対してボタンを押した場合は、確認メッセージ表示後 ADJUST Up ボタンで実行するまでは動作が継続されます。

SLOT ボタン：2つの用途があります。ストレージモジュールスロットまたは ExpressCard スロット（バージョン 3.0 ではスロット 1 のみが使用可能）のどのストレージにアクセスするかを選択します。また、現在選択しているメディアをアンマウントするときにも使用します。



注意：

SLOT ボタンでアンマウントしないでメディアを取り外すと、メディアが取り外されたかどうか確認できなくなる場合があります。

SLOT ボタンを押すごとに、メディアのアンマウント機能とメディア選択機能が切り替わります。この機能は STOP モードのときのみ有効で、停止していない場合には、"PRESS STOP TO CONFIRM" と警告が表示されます。スロットを選択すると、そのスロットで最後に選択されていたクリップとタイムコードの表示に戻ります。スロット内のメディアが最後に選択されていたものとは別のメディアに入れ替えられていた場合（物理的に取り外し / メディアを交換）は、メディアの先頭クリップの開始ポイントが選択されます。装着されているメディアに問題がある場合は、状況に応じてメッセージが表示されます。

例：WARNING Backup and Reformat または WARNING Media Unrecognized

注：電源起動時は、自動的にストレージモジュールが選択されます。

ストレージモジュール取り外しボタン：物理的にストレージモジュールを本体から取り外すとき、このボタンを長押しします。ボタンを押しながらストレージモジュールを引き抜いてください。押し続けないと取り外されないため、収録 / 再生中にストレージモジュールが誤って取り外されるのを防ぐことができます。ストレージモジュール、ExpressCard/34 メモリーカードのどちらの場合も、対応するスロットの LED が点灯していない状態でのみ、安全に取り外すことができます。

注： ExpressCard/34 メモリーカードは、カード自体を押して取り外すタイプのメディアで、取り外すときにこのボタンを押す必要はありません。



注意：

スロットの LED が点灯または点滅しているときにメディアを取り外すと、メディアが破損したり、SSD ハードドライブや ExpressCard/34 メモリーカードが使用できなくなる場合があります。

アナログオーディオ入力レベル調整つまみ：VU メータの下のつまみを使用して、オーディオ 2 チャンネルのそれぞれのアナログ入力レベルを調整します。

注： これらのつまみは、SDI および HDMI にエンベデッドされたデジタルオーディオには影響ありません。

アナログオーディオレベルを調整するときは、つまみを押して外に出します。これは使用環境の変化による誤動作を防ぐためです。

ヘッドホン音量つまみ：ヘッドホンの音量を調整するときは、オーディオ入力レベル調整つまみと同様に、つまみを押して外に出します。

ディスプレイとインジケータ

文字およびグラフィック表示、アナログオーディオレベル VU メータ、3つのメディアスロット用ステータスインジケータ LED (S1、S2、D1) があります。詳細は以下の通りです。

文字およびグラフィック表示の詳細：140 × 16 ピクセルのグラフィックディスプレイです。通常は、2 × 20 の文字表示に設定されています。メニューはすべてこの範囲で表示されるため、文字が省略される場合があります。

操作上の注意：ディスプレイの消費電力は、点灯するピクセルの数と明るさによって変化します。従って、明るさはレベル 6（選択可能レベル 1 ~ 8）にデフォルトで設定されていますが、明るさを抑えることによって VFD の消費電力を最大で 22% 減らすことができます。VFD の明度設定は、パネル上のバックライト付きボタン（再生、Up/Down 選択ボタンなど）の明るさにも影響します。

CONFIG メニューの Screen Saver パラメータを設定してある場合、3 分間何も操作しないと VFD はスクリーンセーバモードになります。

VUメータ：2チャンネルのアナログオーディオの入力レベルを、それぞれ7セグメントLEDで表示します。メータの下のつまみで、クリッピングしない適正な信号レベルになるように、チャンネルごとに入力レベルを調整できます。

緑：オーディオソースの信号レベルは安全な範囲です（クリッピングなし）。緑の LED の上下で信号の強さを表します。通常は、なるべく緑の最上段の LED が点灯し、ピーク時に黄色 LED が点灯するようなレベルに信号を調整することをお勧めします。

黄色：オーディオソースの信号レベルがクリッピングが生じる可能性のある直前のレベルです。

赤：オーディオソースのレベルが高すぎて、信号のピーク時でクリッピングします。ソース（カメラ、ミキサーなどの信号供給源となる機器）側で入力ゲインを下げてください。

スロットステータスインジケータ (LED)：この LED インジケータは、下記のようにメディアのステータスを表示します。

LED 点灯：メディアが選択されています。

LED 消灯：メディアは選択されていないため取り出すことができます。あるいはメディアが装着されていません。

LED 点滅：収録実行中です。

ExpressCard/34 スロットステータスインジケータ (LED)：この LED インジケータは、下記のようにメディアのステータスを表示します。

LED 点灯：メディアが選択されています。(バージョン 3.0 ではスロット 1 のみ使用可能です。)

LED 消灯：メディアは選択されていないため取り出すことができます。あるいはメディアが装着されていません。

LED 点滅：収録実行中です。

正面パネルのその他の機能

ExpressCard スロット (× 2)：これらのスロットは、ExpressCard/34 (34mm ワイド) メモリーカードをサポートします。(ExpressCard/54 メモリーカードは使用できません。) Ki Pro ではハイスピードのカードを使用してください。

注： ExpressCard/34 メモリーカードは、バージョン 1.0 ~ 2.0 の Ki Pro ではサポートしていません。バージョン 3.0 以降、スロット 1 のみに ExpressCard/34 メモリーカードがご使用になれます。

AJA が承認しているカードについては、WEB サイトの Ki Pro サポートページを参照してください。

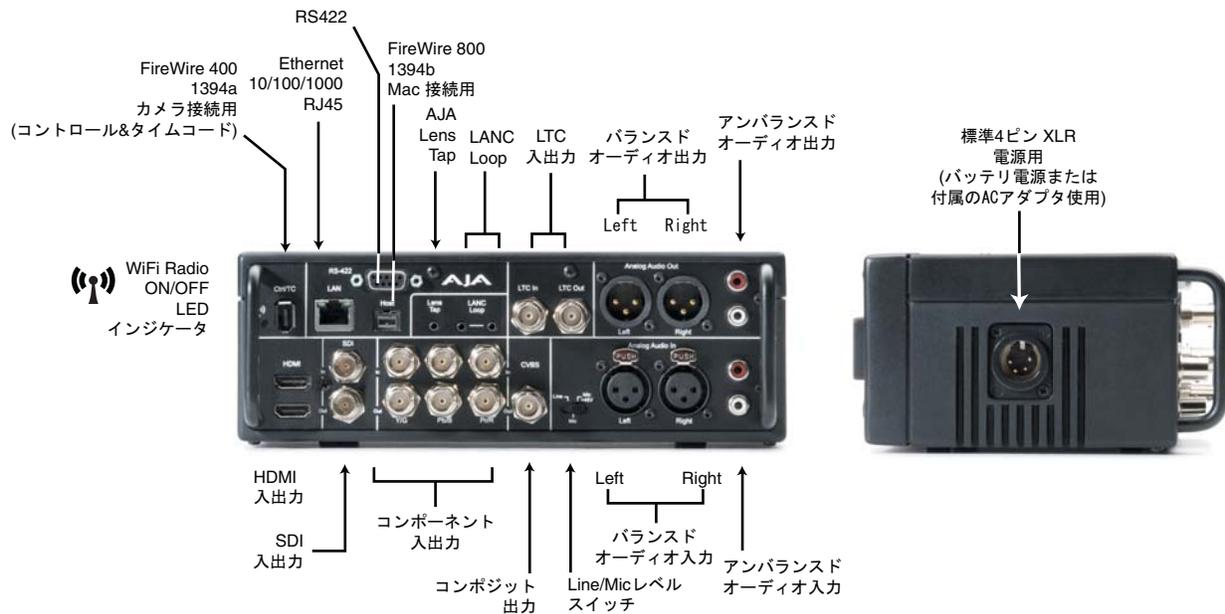
<http://www.aja.com/support/ki-pro/ki-pro.php>

ヘッドホンジャック：標準ステレオヘッドホン用 1/8 インチ (3.5mm) ミニステレオ TRS コネクタです。

接続面

各社の様々なフォーマットのデジタル／アナログのカムコーダ、カメラ、またはオーディオソースを、Ki Pro の各種コネクタに接続できます。Ki Pro のすべてのコネクタは接続面に配置されています。これらのコネクタは、Exo-skeleton にマウントしない場合には、持ち運びに便利なハンドルでプロテクトされています。なお、DC 12 V の電源を供給する電源コネクタのみ、本体側面に配置されています。(本章後出の「設置」をご覧ください。)

Ki Pro の入出力の機能は、動作モードによって異なります。Ki Pro のアクティブ入力 (1 系統のみ) は正面パネル、WEB ブラウザ、または無線デバイスのブラウザで選択します。Ki Pro の出力はすべて常時アクティブです。同じ映像が HDMI、SDI、コンポーネント、コンポジットの各出力に同時に供給されます。(注：出力によっては制限があることにご注意ください。例えば、コンポジットは SD フォーマット限定のため、HD 素材は出力されません。また HDMI 出力は HDMI 互換信号により、1080PsF フォーマットは出力されません。代わりに HDMI 出力時には True progressive フォーマットを使用してください。) 入力ソースデバイス、フィールドモニタリング、およびオーディオ機器に同時に接続できます。



Ki Pro の接続面と側面

コネクタ

- HDMI : ビデオ / エンベッドオーディオ、2 チャンネルの入力と記録 (バージョン 2.0 以降) (入力用コネクタ × 1、出力用コネクタ × 1)
- 2 または 8 チャンネルエンベデッドオーディオ対応の HD/SD-SDI 入出力 (バージョン 2.0 以降) (BNC × 2)
- HD/SD コンポーネント YPbPr/RGB ビデオ (入力用 BNC × 3、出力用 BNC × 3)
- コンポジットビデオ出力 (CVBS、BNC × 1)
- 2 チャンネルバランスドアナログ オーディオ入出力 (XLR × 4)
- 2 チャンネルアンバランスドアナログオーディオ入出力 (RCA × 4)
- Line/Mic レベルスイッチ (アナログ XLR オーディオ入力レベル)
- LTC 入出力 (BNC × 2、収録中は出力されません)
- Lens Tap*
- LANC
- 1394a FireWire ポート (カメラへ接続、タイムコードおよびコントロール用)
- 1394b FireWire ポート (ホストコンピュータへ接続)
- IEEE 802.11 通信機 ON/OFF インジケータ (LED)
- 10/100/1000 Ethernet LAN
- Ki Pro を外部編集機器から RS422 でコントロールするための 9 ピンシリアルポート

注 : アスタリスク (*) でマークされたアイテムは、Ki Pro のソフトウェアバージョン 1.0 ~ 3.0 ではサポートしていません。

LTC タイムコード 入出力

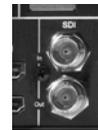
2 つの BNC コネクタで、内蔵の LTC タイムコードジェネレータまたはタイムコードソースに対応します。ハイインピーダンス接続です。一方が入力用、もう一方が出力用です。



注： Ki Pro の LTC 出力は E to E または記録中は出力されません。あるコンテンツを同じタイムコードで別の機器にダビングするなどの用途のために、再生中のみ出力されます。複数の Ki Pro にタイムコードを分配するには、タイムコード発生器と分配アンプのご使用をお勧めします。

SDI 入出力

SDI 入出力用に BNC コネクタが 2 つあります。SDI 入出力は、SD-SDI および HD-SDI ビデオとエンベデッド 24bit デジタルオーディオをサポートします。使用するカメラに SDI 出力がある場合は、これに接続することによって、最も高い品質が得られます。



コンポーネント YPbPr

VTR、カメラなどのソースからのコンポーネント YPbPr ビデオケーブルを、YPbPr 入力用の 3 つの BNC コネクタ (Y/G、Pb/B、Pr/R) に接続します。YPbPr 出力用 BNC コネクタは、モニタなどのコンポーネント機器に接続します。コンポーネント入力ビデオ信号は、A/D (入力) 変換されず (10bit)。同様に、コンポーネント出力ビデオ信号は D/A 変換されます (10bit)。コンポーネントビデオ信号は、コンポジット信号より高品質です。



RGB について： RGB は、最近のビデオシステムではあまり使用されなくなっていますが、Ki Pro は出力のみサポートしています。Ki Pro (および SMPTE SDI) のネイティブフォーマットは YPbPr です。できるだけ YPbPr を使用することをお勧めします。コンポーネントビデオモニタの多くは RGB 入力を備えています。YPbPr をサポートしているモニタの場合は YPbPr を使用してください。YPbPr フォーマットでは、スーパーホワイトとスーパーブラックにヘッドルームができ、RGB にトランスコーディングするときにこれらのビデオレベルがクリップされます。また、RGB/YPbPr トランスコーディングでは、数値の概算エラーを伴うレベル変換を行います。

YPbPr について： コンポーネントビデオ YPbPr は、これまで YUV、Y/R-Y/B-Y、YCbCr など、様々な呼びかたをされてきました。これらのフォーマットは、レベルが多少異なりますが、基本的には同じものです。Ki Pro は、SMPTE/EBU N10、Betacam (NTSC)、および Betacam (NTSC Japan) の 3 種類の YPbPr をサポートしています。これらのフォーマットの違いはレベルのみです。

BETA 設定について： Ki Pro のコンポーネント入出力を HD 素材用の "Beta" に設定すると、"Invalid Selection" の警告が出て、記録やその他の操作をする前に修正が必要になります。

CVBS コンポジット NTSC/PAL 出力

1 つの BNC コネクタで、コンポジット NTSC または PAL 出力を供給します。このコネクタをモニタなどのコンポジットビデオ機器に接続します。コンポジットビデオ信号は、D/A (出力) 変換されます (10bit)。



注： コンポジットビデオ出力は、コンポーネントビデオ出力用の設定に従います。HD で作業中にコンポジットビデオが必要な場合は、コンポーネントビデオ出力を SD に設定しておいてください。

HDMI

2 つの HDMI コネクタで、HDMI 互換のビデオとエンベデッドオーディオを入出力します。HDCP はサポートしていません。HDMI 入力は、長距離ケーブル接続に対応します。22 または 24AWG HDMI ケーブル使用時は最大 100 フィート (30.48 m)、28 または 30AWG HDMI ケーブル使用時は最大 50 フィート (15.24 m) のケーブル接続が可能です。この HDMI 出力は、標準 HDMI ケーブルのみサポートします。



サポートしている HDMI フォーマット :

525i 29.97
625i 25
720p 50、720p 59.94
1080i 25、1080i 29.97
1080p 23.98、1080p 24、1080p 25、1080p 29.97

注: Ki Pro の HDMI コネクタを使用して HDMI オーディオ / ビデオアクセサリに接続するときは、法規制を順守するため Ki Pro の入力 / 出力ポートと HDMI アクセサリ間にフェライトコア付き HDMI ケーブル (HH-28F-06) を使用してください。

アナログ 2 チャンネルバランスドオーディオ入出力

XLR コネクタ 4 つ (入力用メス 2ch、出力用オス 2ch) で、バランスドオーディオ 2 チャンネルに対応します。オーディオは、48kHz 高品質 24bit A/D 入力および D/A 出力です。レベル調整は、ソフトウェア およびラインレベル入力スイッチで行います。アナログオーディオ用のソフトウェアレベル調整 (パラメータ 4.1) では、スイッチを Line に設定して使用するバランスドオーディオ (XLR) を調整します。スイッチを Mic または Mic +48 に設定すると、それぞれマイクの入力インピーダンスに適した低い入力レベルになります。ファントムパワー式のマイク (コンデンサーマイク) 使用時は Mic +48 に、ファントムパワー不要のマイク (ダイナミックマイク) 使用時は Mic に設定します。



アナログ 2 チャンネルアンバランスドオーディオ入出力

入力側は、RCA コネクタ 2 つで、コンシューマ用のカムコーダ、VTR/VCR、その他の A/V 機器のアンバランスドステレオオーディオに対応します。出力側は、2 つの RCA コネクタで安価なオーディオモニタシステム用のアンバランスドステレオオーディオを供給します。

9pin コネクタ

バージョン 2.0 以降は、RS-422 機器で使用する 9 ピンのシリアルポートとして機能します。



重要: すべての RS-422 機器との接続を保証するものではありません。AJA では様々な機器との動作検証を行っていますが、確認がとれている機器やノンリニアの編集機については、最新のリリースノートをご確認ください。

Host (FireWire 800)

IEEE 1394b FireWire コネクタを使って、Apple FireWire 800 を装備したコンピュータとのデータの受け渡しが可能になります。このコネクタは、カメラやハードドライブなどその他の FireWire 機器はサポートしていません。この機能はバージョン 1.0 ~ 2.0 では対応しておらず、バージョン 3.0 からサポートされます。



CTRL/TC (FireWire 400)

Ki Pro をカメラに接続してタイムコードをコントロールするための IEEE 1394a FireWire™ コネクタです。このコネクタは、圧縮したオーディオ / ビデオ 信号のデータ送信およびハードドライブへの接続には使用できません。バージョン 1.0 ~ 2.0 では対応しておらず、バージョン 3.0 からサポートされます。



Ethernet

この RJ45 コネクタは、Ki Pro を直接コンピュータに接続、または LAN 接続用の Ethernet ハブやスイッチに接続するための 10/100/1000 Ethernet ポートとして機能します。Ki Pro は、接続された Ethernet ケーブルが CAT-5 ストレートケーブルかクロスケーブルかを自動的に判別して調整を行います。接続と調整が完了すると、LAN 経由で WEB ブラウザから Ki Pro をコントロールできるようになります。



LANC Loop

このコネクタには、LANC プラグ（2.5 mm 3 芯 TRS ジャック）を接続でき、2 個目のコネクタに信号をループスルーします。LANC（ローカルアプリケーションコントロールバスシステム）は、コントロール L とも呼ばれ、カメラを同期させるためのソニープロトコルです。各社のカメラで採用され、カメラおよび Ki Pro の収録/停止機能をアクセサリからコントロール可能にします。バージョン 1.0 ~ 2.0 では対応しておらず、バージョン 3.0 からサポートされます。



Lens Tap

このコネクタには、Ki Pro コントロール用のレンズタップキット（オプション）を接続します。AJA 製の専用ケーブルでカメラ本体とレンズを接続し、カメラ側の接続ケーブルをインターセプトします。これによって、カメラのシャッター/収録ボタンを操作するだけで、Ki Pro の動作コントロール（収録/ストップ）が可能になります。この機能はバージョン 1.0 ~ 3.0 ではサポートしていません。

IEEE 802.11 通信機インジケータ（LED）

この LED は、データの送受信に使用する内蔵の 802.11 通信機のステータスを表示します。通信機が ON のとき、LED が点灯します。



電源コネクタ（本体側面）

Ki Pro の側面には、本体に DC12 V の電源を供給するための標準 4 ピン XLR コネクタがあります。付属の AC アダプタ、またはお手持ちのバッテリーを使用できます。このコネクタは、業界標準のピン配列になっていますので各種の電源に柔軟に対応できます。この標準電源コネクタを使用した製品は、多くのメーカーから提供されています。



- ピン 1 : -
- ピン 4 : +
- ピン 2 とピン 3 : 不使用



警告：

Ki Pro にはユーザーが修理できる部分はありません。電源を外すときは、4 ピン XLR 電源コネクタを確実に抜いてください。修理は AJA サービスセンターまたは AJA 販売代理店にご依頼ください。電源コードやプラグが破損したとき、水がかかったり異物が内部に入ってしまったとき、雨や湿気にさらされたとき、正しく動作しないとき、また落としてしまったときなど、製品が破損したときは、状況によらず修理が必要です。

**警告：**

安全のため必ずアース接続を行ってください。極性プラグの 2 枚のブレードは、片方がもう片方より幅が広がっています。アースタイプのプラグには 2 枚のブレードと、アース用金属棒があります。幅の広いブレードと金属棒は、安全対策用です。プラグが既存のコンセントに差し込めない場合は、コンセントの交換を電気工事業者にご依頼ください。

**警告：**

電源プラグは、機器の電源を落とすために使用しますので、手が届きやすく抜き差ししやすい状態にしておいてください。

**警告：**

電源コード、特にプラグ部分、コンセントや機器に近い部分が、踏まれたり、何かにはさまれたりしないように保護してください。

ストレージ

内蔵 FireWire 800 に着脱可能なポータブルハードドライブストレージモジュールまたは ExpressCard/34 メモリーカード（バージョン 1.0/2.0 では未対応、バージョン 3.0 ではスロット 1 のみ対応）のどちらのメディアで収録しても、OSX デスクトップコンピュータにマウントして、すぐに編集したりファイルを参照することができます。Ki Pro には、1080i Apple ProRes 422 HQ メディアを 2 時間、または 1080i Apple ProRes 422 メディアを 3 時間（SD ではそれ以上）保存できる 250GB ハードディスクが付属しています。

**注意：**

メディアを正しく取り付け・取り外ししなかったり、収録中に突然電源が落ちたりすると、データが失われ再現できなくなる場合があります。

ExpressCard/34 メモリーカード

AJA は ExpressCard/34 メモリーカードの製造販売はしていませんが、Ki Pro はバージョン 3.0 以降、AJA が承認した ExpressCard/34 メモリーカードを使用できます（バージョン 3.0 ではスロット 1 のみ対応）。AJA は、独自に試験して使用可能と判断したブランドを Ki Pro サポート用 WEB ページで紹介しています。Ki Pro では、フレームのドロップなしで処理できるスピードに対応した ExpressCard/34 メモリーカードのみ使用できます。また、対応する ExpressCard/34 メモリーカードの中には、一端に PCIe コネクタ、もう一端に USB コネクタを装備したものがありますが、Ki Pro との使用では、PCIe コネクタしか機能しません。Ki Pro でこのようなカードを使用するときは、USB コネクタ側には機器を接続しないでください。

使用可能なカードは下記で確認できます。

<http://www.aja.com/support/ki-pro/ki-pro.php>



ExpressCard/34 メモリーカード

リムーバブルストレージモジュール (HDD または SSD)

Ki Pro には、250GB HDD ストレージモジュールが標準付属していますが、SSD ストレージモジュールもオプションとして用意されています。移動中の運用などで防振対策が必要な場合は、Ki Pro ソリッドステートストレージモジュール (SSD) のご使用をお勧めします。Ki Pro SSD ストレージモジュールは最も信頼性の高いメディアです。

予備の HDD または SSD ストレージモジュールを準備することによって、使用中に Ki Pro 本体から素早くメディアをロード/アンロードすることができます。

ストレージモジュールには、FireWire 800 ケーブルまたは AC アダプタ (付属) を介して電源が供給されます。

容量やモデルは変更されている場合がありますので、入手可能なストレージモジュールについてはお近くの AJA 販売店または AJA の WEB サイトを参照してください。



ストレージモジュール (HDD と SSD は外観が同じです。底面ラベルを確認してください。)

メディアのフォーマット

ストレージメディアを再フォーマットするときは、初めに SLOT ボタン (前項参照) で選択してください。メディアを選択したら、以下のように操作します。

1. STOP ボタンを押します。
2. MEDIA ボタンを押します。
3. メニューの 16.1 Format Media が表示されるまで、SELECT Up/Down ボタンを押します。
4. ADJUST Up ボタンを押します。"FORMAT" が表示されます。ADJUST Up ボタンを押します。"CONFIRM ERASE" が表示されます。
5. ADJUST Up ボタンを 2 秒以上押し続けると、フォーマットが始まります。進捗状況が表示され、終了すると "Format D1 Complete" が表示されます。
6. STOP ボタンを押して、フォーマットしたメディアの使用を開始します。

Ki Pro のメディアを Final Cut Pro で使う

Ki Pro ストレージモジュール (HDD または SSD) を取り外して、FireWire 800 ケーブルで Mac に接続したときは、モジュールは Apple 標準の HFS+ ファイルシステムとしてマウントします。REEL NAME パラメータは、OSX デスクトップにマウントしたときに表示されるメディア名です。

Ki Pro のストレージデバイス (ストレージモジュールまたは ExpressCard/34 メモリーカード) をいったんマウントすると、Ki Pro で収録した各クリップは、ファイルシステムの個々のファイルとなり、Final Cut Pro で開くことができます。これらのクリップは、正式な Final Cut Pro のメタデータ付きの Apple ProRes 422 または Apple ProRes 422 HQ、Apple ProRes 422 LT、Apple ProRes 422 Proxy で収録されているため、すぐに編集を開始することができます。Final Cut Pro から Ki Pro メディアに収録されたク

リップに直接アクセスして使用することもできますが、クリップはローカルストレージにバックアップしておくことをお勧めします。

Final Cut Pro のブラウザウィンドウには、Ki Pro がメディアの個別情報として保存したデータの一部が表示されます。Ki Pro は、Name、Media Start、Media End および Reel の情報を Final Cut Pro のために保存しています。

注： ストレージモジュールから、Ki Pro は最新のバージョンでサポートしているフォーマットやフレームレートの 24bit、48kHz のオーディオを含む、Apple ProRes 422 または Apple ProRes 422 HQ、Apple ProRes 422 LT、Apple ProRes 422 Proxy ファイルの再生をサポートしています。他のコーデックやフレームレート、フレームサイズで作成されたファイルは、Ki Pro のストレージモジュールの "AJA" フォルダに置かれた場合、再生できません。"AJA" フォルダに Apple ProRes QuickTime 以外のファイルを置くと、クリップの "Play All" 操作をすると問題が起きることがあります。

設置

この項では、Ki Pro の調整と設置について説明します。Ki Pro ポータブルレコーダは 2 通りの方法で調整・使用できます。

- 単体で使用する
- オプションの Exo-Skeleton でカメラマウントする（三脚使用も可）

どちらの場合も、ソフトウェアの設定は同じです。Ki Pro のコントロール方法（正面パネル、802.11 無線、または Ethernet & WEB ブラウザ）および用途に応じた物理的システム条件（カメラマウントの要不要、使用するビデオ / オーディオモニタの種類、メディアのワークフローなど）を選択します。初めにマウント方法を説明し、次にソフトウェアの設定および調整について説明します。



警告：

ラジエータやストーブ、アンプなど、熱を発生する機器の近くに設置しないでください。



警告：

通風孔をふさがないでください。メーカーの指示に従って設置してください。



警告：

雷が鳴っているときや長時間使用しないときは、接続を外してください。



警告：

修理は AJA サービスセンターまたは AJA 販売代理店にご依頼ください。電源コードやプラグが破損したとき、水がかかったり異物が内部に入ってしまったとき、雨や湿気にさらされたとき、正しく動作しないとき、また落としてしまったときなど、製品が破損したときは、状況によらず修理が必要です。

単体使用

単体使用時は、カメラ、カムコーダなどの業務用機器からのビデオ・オーディオ出力を接続して、単なる収録メディアとして使用します。代表的なワークフローと使用例を紹介します。

- カメラからのライブ映像を収録する：Ki Pro をラックにマウントし、コンポーネントビデオを入力する。
- カメラからのコーポレートビデオをライブ収録する：Ki Pro をコンピュータと同じ机に設置し、HDMI ビデオ / オーディオを入力する。
- 現場で収録する：Ki Pro を車載して、HD-SDI 信号を入力する。
- AV メディアライブラリ内に設置して、異なるメディアを Apple ProRes に変換して収録することによって、様々なデッキ、フォーマット、ソースの過去の素材からアーカイブを作成する。
- Ki Pro を棚の上に置き、壁面に設置したリモートカメラと会場内のミキサーから供給される音声を入力して、イベントなどをライブ収録する。
- イベントプロデューサーのスイッチャーから送られてくる映像とファンタム電源のステレオ録音用コンデンサマイクからの音声を Ki Pro に入力し、遠隔地でのライブコンサートを収録する。



Exo-Skeleton にカメラをマウント

カメラと三脚の両方またはどちらか一方をマウントするための Exo-Skeleton (オプション) を使用することによって、Ki Pro の用途が大きく広がります。代表的なワークフローと使用例を紹介します。

- ポータブルカムコーダの下に Ki Pro とバッテリーパックをマウントすることによって、スポーツのライブ映像を収録したメディアを直ちに編集する。
- カメラ (1080 または 720) 入力を、リアルタイムに他のフォーマットに変換する Ki Pro のハードウェアコンバージョン機能を、放送用途に使用する。
- オンセット使用：カメラオペレータはオプションの LANC コントローラと LANC 対応のカメラを使用して撮影をコントロール。LANC コントローラのトリガを押すたびに、Ki Pro とカメラの両方の収録開始 / 停止をコントロールできます。アシスタントはワイヤレスネットワークを介して、iPhone から Ki Pro を遠隔操作し、クリップ名称と内容を設定する。



カメラマウント時の
Ki Pro と Exo-Skeleton

- メーカーの異なるカメラ、異なる内部カメラコーデックが混在するマルチカメラ撮影で、すべて同じフォーマットで収録する：Apple ProRes 422 は撮影後直ちに編集が可能で、切り出しと取り込みを行う必要はありません。

カメラを Exo-Skeleton にマウントすると、Ki Pro の操作面はすべてカメラの操作面と同じ向きなので、カメラのオペレータが簡単に調整できます。また、Ki Pro の電源はカメラと同じ面から供給されるため、レンズ側でケーブルが煩雑になることはありません。



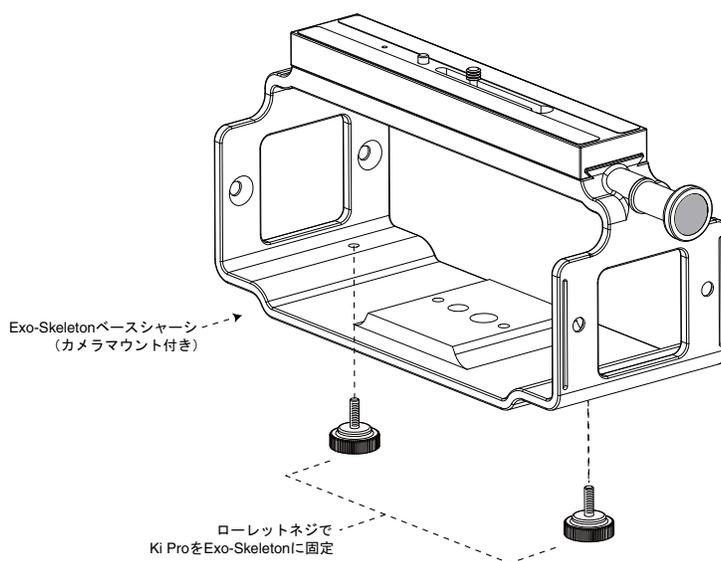
オプションのエンドプレートと市販のアクセサリロッドを取り付けた Ki Pro と Exo-Skeleton

Exo-Skeleton のセットアップと調整

Exo-Skeleton (オプション) は2つのプレートで構成されています。パッケージには、調整可能なカメラマウント用のスライディングプレート (上部)、三脚マウント用のプレート (下部)、三脚マウント用のボトムプレート、Ki Pro 本体を Exo-Skeleton に固定するためのネジ2本が含まれています。

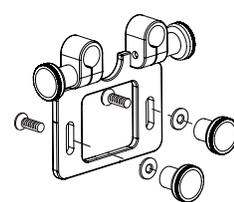
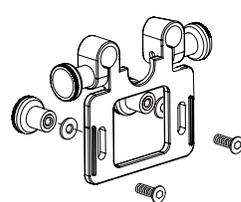
さらにロッドエンドプレート (オプション) を Exo-Skeleton のフレームの両側に追加すると、カメラと 15mm のロッドを合わせて使用することができます。

バッテリーパックやマットボックスなど、各種アクセサリをマウントするときに便利です。



ロッドアクセサリキット (オプション)

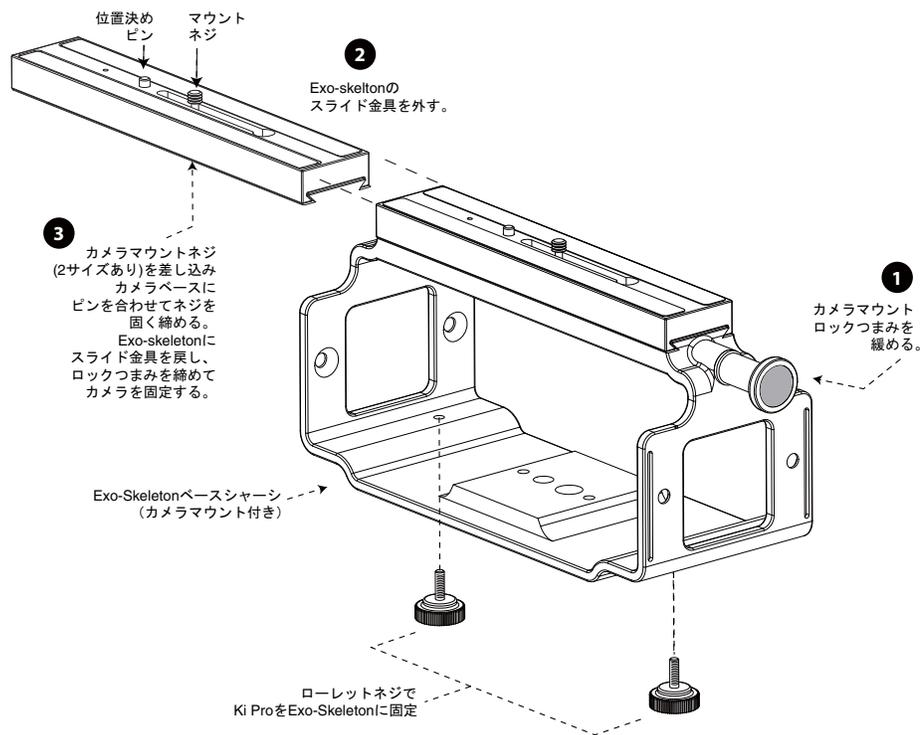
キット構成品:
エンドプレート×2
ネジ (5/32 六角穴)×4
プラスチックワッシャ付きつまみ×4



Exo-Skeleton を使用する場合、先にカメラまたはカムコーダを上のスライド式マウントに取り付け、その後で Ki Pro を差し込んでロックします。カメラをマウントするときは、次のようにしてください。

1. Exo-Skeleton のカメラマウントロックつまみを緩めます。
2. カメラマウント（スライディングプレート）をスライドさせマウントレールから外します。
3. マウントの位置決めピンがカメラ側のピンソケットにはまるように、カメラをプレートに載せます。はまったらマウントネジを締めてカメラを固定します。

カメラをレール後方にスライドさせて、ロックつまみを締めます。



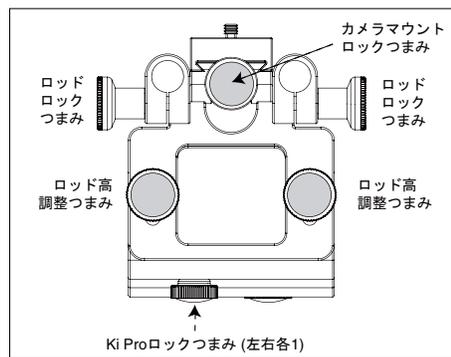
Exo-Skeleton にカメラをマウントする

オプションのロッドエンドプレートは簡単に取り付け可能です。

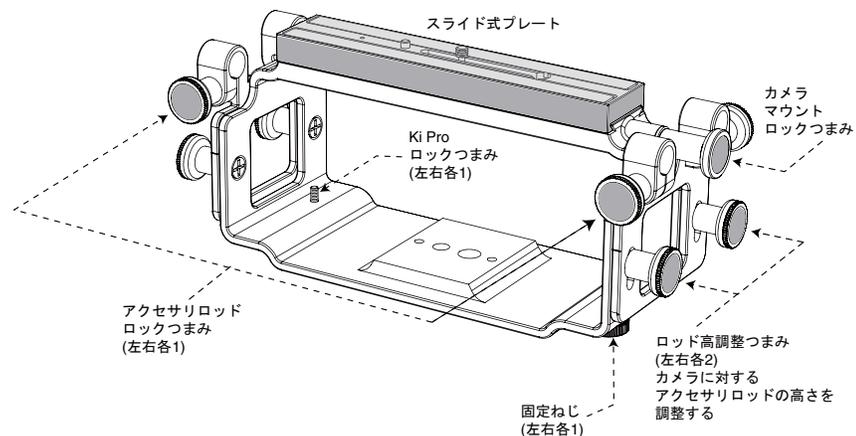
1. プレートを箱から取り出します。ロッドエンドプレートはあらかじめ組み立てられていますので、Exo-Skeleton に取り付けるときは一度分解してください。Exo-Skeleton の外側に、エンドプレートの2つのネジ穴と Exo-Skeleton のスロットが揃うように合わせます。
2. 付属のネジを、フレームの内側からフレームの穴とプレートのスロットに通します。ネジを内側から持ち、付属のワッシャをネジ溝が切つてある側からはめ、付属のつまみをネジの先に捻じ込みます。
3. 手順2を繰り返し、4組のつまみ、ワッシャ、ネジを取り付けます。

キットを取り付けた後は、ロッドロックつまみを緩めて市販の 15mm アクセサリロッドを取り付けることによって、各種のアクセサリをマウントすることができます。

ロッド高調整つまみ（手順2で取り付けたつまみ）を緩めると、ロッドの高さを調整できます。調整が終わったらつまみを締めてください。



側面



Exo-Skeleton のエンドプレートとロッド高調整

電源の供給

Ki Pro の設置 / 設定は簡単に終わります。正面パネルのボタンとディスプレイを使って本機をコントロールする場合は、箱から出してすぐに使用できます。システムのオーディオ・ビデオソース、VTR、モニタ、およびオーディオ機器にケーブルを接続し、Ki Pro 本体を必要に応じて設置するだけで、収録を開始できます。ただし、Ki Pro を WEB ブラウザまたは 802.11 機器 (iPhone など) からコントロールする場合は、各種設定が必要です。



警告：

電源プラグは、機器の電源を落とすために使用しますので、手が届きやすく抜き差ししやすい状態にしておいてください。



警告：

電源コード、特にプラグ部分、コンセントや機器に近い部分が、踏まれたり、何かにはさまれたりしないように保護してください。



警告：

雷が鳴っているときや長時間使用しないときは、接続を外してください。



警告：

外装を開けないでください。内部にはユーザーが調整したり修理できる部分はありません。AJA のサービスセンターまたはライセンスのある機関以外の人が開けると、保証が無効になります。本体を移動するときは、付属の AC 電源コードを AC 電源から抜いてください。安全のため必ずアース接続を行ってください。

AC 電源を使うには

使用を開始するときは、付属の AC アダプタの 4 ピン XLR コネクタを Ki Pro 側面の XLR 電源ソケットに差し込んでから、AC アダプタのコードを AC 電源に接続します (電圧を自動検知します)。



1. 電源コードを確認します。



2. DC 電源に接続します。



3. 4 ピン XLR コネクタを DC 12 V ソケットに接続します。

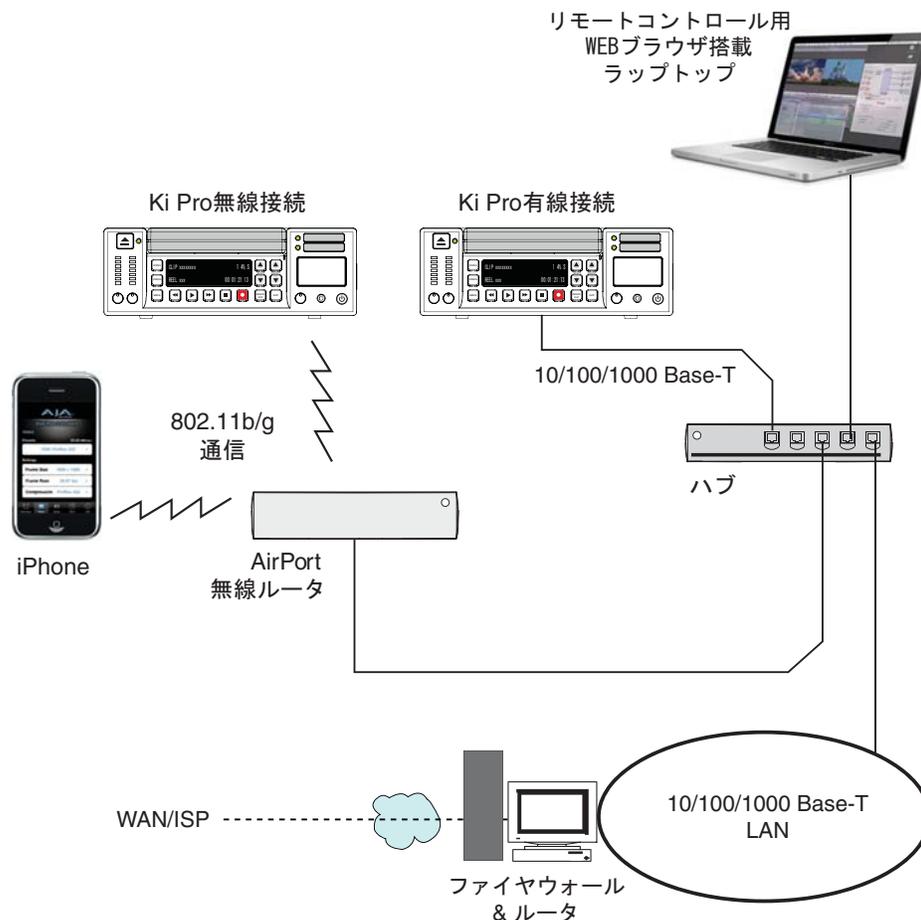
DC 電源を使うには

Ki Pro を DC 電源で使うには、業界標準の 12 V バッテリーパックの 4 ピン凹型 XLR コネクタを、Ki Pro 側面の電源コネクタに接続します。付属の AC アダプタと同様に安定して 3.3 A を供給できるバッテリーを使用してください。そうしたバッテリーパックは、多くのメーカーで製造されています。

注： Ki Pro を正しく動作させるため、バッテリーの電圧が 12 V 以下、18 V 以上にならないようにご注意ください。Ki Pro の消費電力は約 30 W です。様々なバッテリーで Ki Pro を数時間連続して動作させることができます。電源が突然落ちると、進行中の収録は正しくメディアに書き込まれません。警告メッセージ "Low Battery" が表示されたら、進行中の収録をできるだけ急いで停止してください。Ki Pro では、バッテリーが十分な電源を供給できなくなる前に自動的にファイルが閉じる場合もありますが、バッテリーの性能や収録時間によっては閉じない場合もあります。電源損失を防ぐためには、電圧メータや残量表示付きバッテリーを使用し、十分な電圧がある間に収録を停止してください。また、長時間の収録には、バッテリー電源の代わりに付属のアダプタで AC 電源を使用することをお勧めします。

リモートネットワークコントロール

Ethernet を介した直接接続や、LAN、無線ネットワークを使った Ki Pro の接続方法を以下に説明します。



Ki Pro のネットワーク接続例

ネットワーク接続

Ki Pro は、Ethernet ケーブル（ストレートまたはクロス）1 本で、MacBook Pro または Mac に直接ネットワーク接続することができます。ローカルエリアネットワーク (LAN) への接続も可能です。無線ネットワーク接続が必要なときは、802.11b/g でアクセスポイント (AirPort) を介して通信することによって、iPhone またはラップトップコンピュータのブラウザから Ki Pro をコントロールすることもできます。

ケーブル接続時は、Ki Pro は 10/100/1000 Base-TX Ethernet コネクタを介して接続を行います。直接接続する場合は、Ki Pro をブラウザが使用可能な Ethernet 対応コンピュータに Cat-5 ケーブルで接続します。LAN 経由で接続する場合は、Ki Pro の Ethernet コネクタを LAN 上のハブまたはスイッチに接続します。LAN は、ハブまたはデジタルスイッチ経由で接続されている他の Ethernet 機器もすべて包括する共有ネットワークです。LAN はソフトウェアまたはハードウェアルータによってゾーン分割することもできます。

LAN の各デバイスは固定 IP アドレスか、ネットワークによって動的に割り当てられる IP アドレスを持ちます (DHCP)。Ki Pro を LAN に接続する場合は、ネットワーク管理者に接続方法 (固定 IP か DHCP か) を確認してください。

**注意：**

本機はクラス A 製品です。本装置を住宅地で使用すると、電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

**注意：**

802.11b/g 通信機は、デフォルトでは OFF になっており、公式なアクセスポイントがある場合にのみ ON にすることができます。

**警告：**

AJA Ki Pro クライアントアダプタのような特殊ラジエータは、AJA が提供するアンテナ以外のアンテナを使用することを想定していません。特殊ラジエータは、指定のアンテナでのみ使用できます。

**警告：**

アンテナを使用して送受信しているときは、Ki Pro の無線通信機 / アンテナカバー (外装) の表面に触らないでください。

**警告：**

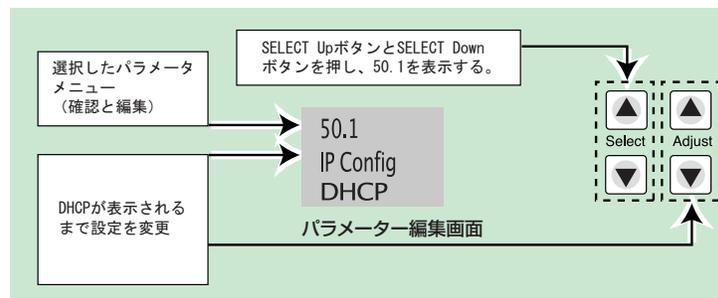
人がラジエータ素子から少なくとも 5 cm 以上距離をおけるような場所に設置してください。この安全上のご注意は、FCC の不要輻射規制に基づいています。

TCP/IP 情報

LAN に動的に IP アドレスを割り当てる DHCP サーバがある場合は、設定の必要はありません (Ki Pro のデフォルトは DHCP です)。なんらかの理由で、IT 管理者が固定 IP アドレスを割り当てる場合は、その IP アドレスを IP CONFIG パラメータに入力する必要があります。接続する LAN が固定 IP アドレスを使用している場合は、IT 管理者にサブネットマスクおよびデフォルトゲートウェイ、IP アドレス (接続する LAN のインターネットルータ) を確認してください。以下に、DHCP で使用する場合と固定 IP アドレスを使用する場合、それぞれの設定方法について説明します。

DHCP 経由のネットワーク接続

Ki Pro のデフォルト設定 (工場出荷時) では、自動的に DHCP サーバを探して IP アドレスを取得します。従ってネットワークに DHCP サーバがある場合は (通常はルータに内蔵されています)、Ki Pro をネットワークに接続するだけで設定の必要はありません。DHCP を手動で選択する場合は、SELECT ボタンを押してパラメータ 50.1 IP CONFIG を表示させ、ADJUST ボタンで DHCP を選択します。



DHCP を選択した後、Ki Pro と通信するには次のように操作します。

1. SELECT ボタンを押してパラメータ 50.2 を表示させ、DHCP が発行した IP アドレスをメモします。
2. 同じ LAN に接続され DHCP を使用しているラップトップまたはデスクトップコンピュータで、手順 1 でメモした IP アドレスをブラウザのアドレスバーに入力すると、Ki Pro のブラウザ用ステータス画面が表示されます。

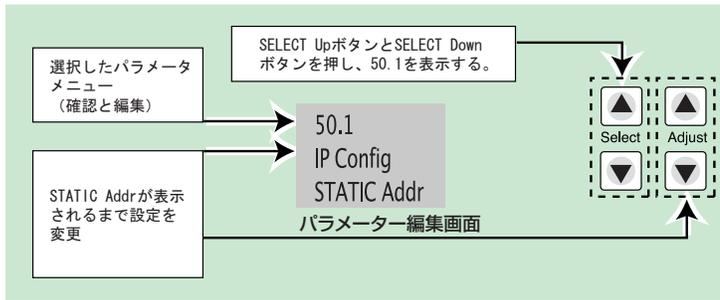
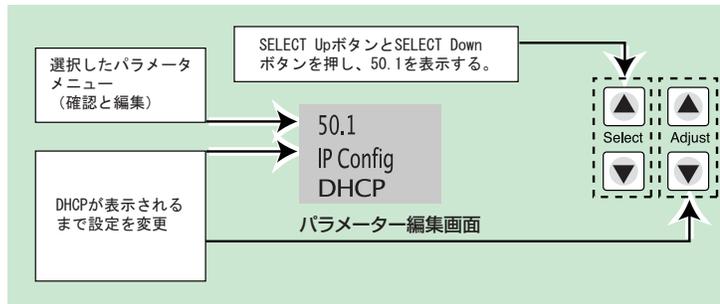
パラメータ 50.1 で Ki Pro が DHCP に設定されていても LAN の DHCP サーバからアドレスを取得できない場合は、Ki Pro の IP アドレスは自動的に工場出荷時のプリセットアドレス 192.168.0.2 に戻ります。このような場合は、下記のような手順で通信を行います。

1. コンピュータの Ethernet IP アドレスを 192.168.0.n (n は 2 以外) に設定します。
2. サブネットマスクを 255.255.255.0 に設定します (ほとんどのコンピュータではアドレスを設定すると適正なネットマスクが設定されます)。
3. ブラウザを起動し、192.168.0.2 (工場出荷時のフォールバック IP アドレス) を入力します。Ki Pro のブラウザ用ステータス画面が表示されます。

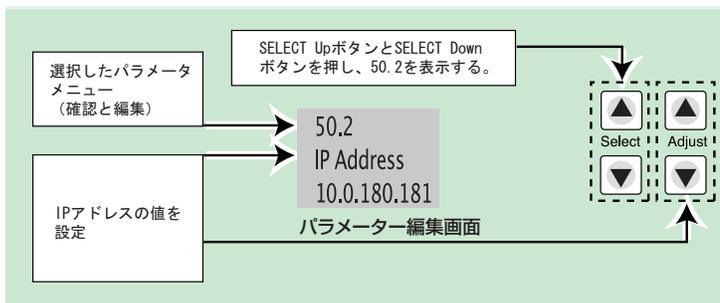
注： ネットワーク接続で DHCP サーバを検出できなかった場合、Ki Pro は工場設定の固定 IP 192.168.0.2 を使用するか、あらかじめ設定された IP アドレスに戻ります。DHCP サーバを検出できなかったときのために、パラメータ 50.2 で固定 IP アドレスを設定しておくことをお勧めします。

固定 IP アドレスによるネットワーク接続

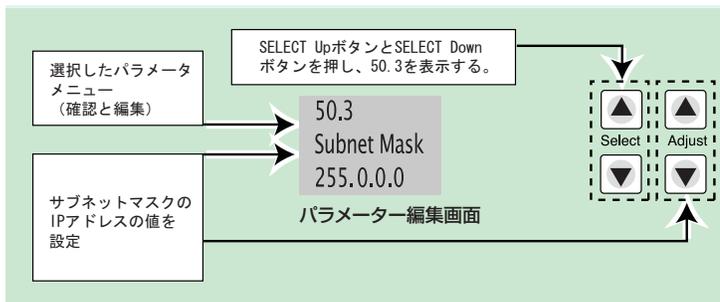
Ki Pro に固定アドレスを設定するには、簡単なパラメータメニュー設定が必要です。次の図は、前述の IT 管理者からの情報を、4 つのメニューで入力する事例を示しています。



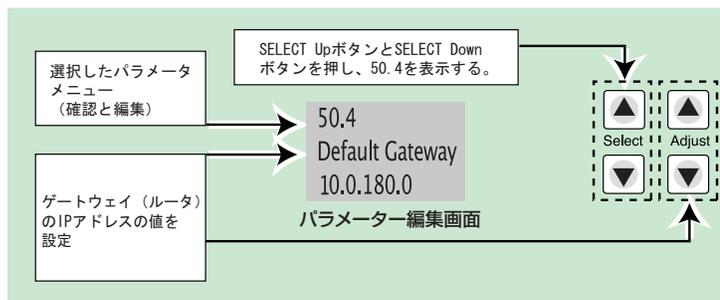
1



2



3



4

注：パラメータ 50.2、50.3、50.4 で、ピリオドで区切られたオクテットの IP アドレス (例：10.0.180.0) を設定します。

このパラメータでは、SELECT ボタンでオクテットを選択し、次に ADJUST ボタンで数字を選択します。SELECT ボタンをもう一度押すと、次のオクテットに進みます。最後のオクテットを設定すると、アドレスが点滅します。

SELECT ボタンを押すと設定が確定します。

Ki Pro を固定 IP アドレスに設定する

工場設定のデフォルト IP によるネットワーク接続

Ki Pro のネットワーク接続で、DHCP を使用せず、かつ独自の固定 IP アドレスも設定したくない場合は、工場設定の 10.65.74.65 をデフォルト設定として使うことができます。コンピュータを直接 Ki Pro に接続し、すぐにネットワーク接続して使用したい場合に便利です。この場合、次の手順で通信方法を設定します。

1. SELECT ボタンを押してパラメータ 50.1 IP CONFIG を表示させ、ADJUST ボタンで Default を選択します。
2. コンピュータの Ethernet IP アドレスを 10.m.n.m (m は 65 以外、n は 74 以外) に設定します。
3. コンピュータでは、サブネットマスクを 255.0.0.0 に設定します。(アドレス設定時の適正ネットマスクのデフォルトで、ほとんどの PC では設定する必要はありません)
4. ブラウザを起動し、10.65.74.65 (デフォルト IP アドレス) を入力します。Ki Pro のブラウザ用ステータス画面が表示されます。

Ping によるネットワーク接続テスト

IP アドレスと TCP/IP を設定し、Ki Pro を LAN に Ethernet 接続またはコンピュータに直接に接続した後、Ki Pro の接続が有効かどうかを確認してください。Ping 送信で、ネットワーク上の他のデバイスまたは直接接続したコンピュータが Ki Pro を認識できるかどうかを確認します。Ki Pro と同じ LAN 上のコンピュータまたは Ki Pro に直接接続したコンピュータで Ping を実行します。ここでは、Mac OSX コンピュータから、KiPro を Ping する方法を説明します。

Mac での Ping 操作

1. アプリケーションフォルダを開き、フォルダ内のユーティリティフォルダを開きます。
2. Terminal ユーティリティアプリケーションを選択し、ダブルクリックします。
3. Ki Pro でパラメータメニュー 50.2 を表示して、IP アドレスを確認します。
4. 手順 3 で確認した IP アドレスを Terminal プロンプトに入力します。
例 : ping 192.168.0.2
5. 正しく動作した場合は、Ping ユーティリティがパケット送受信の状況と所要時間を返します。
例 : 64 bytes from 192.168.0.2:icmp_seq=0 ttl=64 time=0.590 ms
6. 正しく動作しなかった場合は、Ki Pro のネットワーク設定を確認し、IT 管理者に相談して問題を解決してください。

WEB ブラウザからのコントロール

ネットワークに接続したコンピュータの WEB ブラウザで Ki Pro をコントロールするには、Ki Pro の IP アドレスを URL としてブラウザに入力します。例えばブラウザの IP アドレスが 10.0.6.31 の場合は、WEB ブラウザに次のように入力します : http://10 .0.6.31
詳細は「第 4 章 : ブラウザからのリモートコントロール」で説明します。

802.11b/g でのコントロール

リモートコントロールのもうひとつのオプションは、Airport Base Station や 802.11 無線ルータのような正しく設定された 802.11 無線アクセスポイントと通信できる Ki Pro 内蔵の 802.11 無線トランシーバです。

ワイヤレスコントロールのセキュリティ設定は ON/OFF することができます。さらに、他のデバイスと同じになるように無線セキュリティの種類を選択することができます。WEP、WPA、WPA2 などの一般的な方式がサポートされており、ワイヤレスコントロールするときは、以下の基本手順を実行してください。

- Ki Pro のワイヤレスコントロールを有効にします。
- 接続する無線ネットワークを選択します（通信するアクセスポイントに合わせる）。
- 必要に応じて、使用するセキュリティの種類を選択します。セキュリティを選択したときは、パスワードも入力します。
- 設定が終わると、iPhone やブラウザコントロールをサポートしている 802.11 無線機器（iPod touch など）から Ki Pro をコントロール可能になります。

Ki Pro のワイヤレスコントロールは、第 3 章に記載されている CONFIG メニューのパラメータ 53.1 ~ 53.5 で管理されます。ワイヤレスコントロールの設定と操作手順については、第 4 章「ブラウザからのリモートコントロール」で説明します。

**警告：**

人がラジエータ素子から少なくとも 5 cm 以上距離をおけるような場所に設置してください。この安全上のご注意は、FCC の不要輻射規制に基づいています。

**注意：**

802.11b/g 通信機は、デフォルトでは OFF になっており、公式なアクセスポイントがある場合にのみ ON にすることができます。

**警告：**

AJA Ki Pro クライアントアダプタのような特殊ラジエータは、AJA が提供するアンテナ以外のアンテナで使用することを想定していません。特殊ラジエータは、指定のアンテナでのみ使用できます。

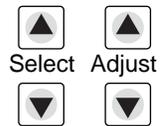
第3章 正面パネル操作

概要

Ki Pro は、正面パネル、Ethernet を介して接続した WEB ブラウザ、802.11 によるワイヤレスブラウザ（iPhone など）からの 3 通りの方法でコントロールできます。本章では、正面パネルで Ki Pro をコントロールして使用方法について説明します。（ブラウザからのリモートコントロールについては、第 4 章で説明します。）

パネルのコントロールボタンやつまみについての概要は、第 2 章で紹介していますので、よくお読みください。この章では、基本的な使用手順と共に正面パネルのモードとメニューのそれぞれについて説明します。クリップとリールについても記載されています。

はじめに正面パネルの 2 つの基本モード（トランスポートモードとメニューモード）を紹介し、次にこれらのモードで SELECT ボタン、ADJUST ボタンがどのように機能するかを説明します。



トランスポートモードは、デフォルトモードです。基本的な PLAY、STOP、FF、REV などの機能をコントロールします。トランスポートモードでは、SELECT ボタンは、現在選択されているストレージスロットのクリップを切り替えます（前 / 後切り替え）。また ADJUST ボタンは正方向 / 逆方向のフレーム送りに使用できます。トランスポートモードは下記のように表示されます。

Clip SC12BTK1	D1	47%
Reel 212	01:02:22:14	

トランスポートモード

メニューモードに切り替えるには、3 つのメニューボタン（STATUS、CONFIG、MEDIA）のいずれかを押します。押したボタンに対応するメニューに入ります。

STATUS メニューでは、SELECT ボタンを押すごとにステータス画面が切り替わります。STATUS メニューでは ADJUST ボタンは機能しません。STATUS メニューは下記のように表示されます。

入力フォーマット	選択されている入力
収録フォーマット	選択されているオーディオ入力

STATUS メニュー(収録モード)

メディアフォーマット
出力変換

STATUS メニュー(再生モード)

CONFIG メニューまたは MEDIA メニューでは、SELECT ボタンを押すごとに調整可能なパラメータが切り替わり、選択したパラメータを ADJUST ボタンで調整します。メニューに入ったときは、最後に選択されていたパラメータが自動的に選択されず。CONFIG メニューと MEDIA メニューは下記のように表示されます。

パラメータ番号	パラメータ名
パラメータ設定	(ADJUST ボタンで選択)

CONFIG メニュー

パラメータ番号	パラメータ名
パラメータ設定	(ADJUST ボタンで選択)

MEDIA メニュー(CONFIG メニューと同様)

トランスポートモード (デフォルト)

トランスポートモードは、Ki Pro の操作のデフォルトモードです。Ki Pro の電源を入れると、トランスポートモードメニューが最初に表示されます。前に収録されたクリップがある場合はディスプレイに表示され、再生可能になります。

スクリーンセーバーがオンになっているときに正面パネル中央のトランスポートボタン (PLAY、STOP、FF、REV、REC) を押すと、スクリーンセーバーがオフになり、現在の表示に戻ります。トランスポートモードになっていないときは、スクリーンセーバーがオンであれば 2 回、オフであれば 1 回ボタンを押すだけでトランスポートモードの表示になります。MEDIA メニューによる設定に従って動作します (詳しくは後述します)。MENU ボタン (STATUS、CONFIG、MEDIA) がどれも点灯していない場合は、トランスポートモードです。MENU ボタンが点灯しているときは、メニューモードです。

STOP モード時は、CONFIG メニューや MEDIA メニューにアクセスして、Ki Pro の動作をコントロールするパラメータを調整することができます。PAUSE モード時はこれらのメニューにアクセスすることはできません。あらかじめ再生を停止させないでこれらのメニューにアクセスしようとする、VFD 画面にメッセージ "PRESS STOP" が表示されません。STOP ボタンが点滅しているときは、PAUSE モードです。

トランスポートコントロールボタンはロックされる場合があります。例えば、メディアをイジェクトしているときや、IP アドレスを入力しているときは、これらの操作が完了するまで、トランスポートコントロールボタンがロックされます。他の多くのメニューでは、トランスポートコントロールボタンがロックされることはありません。

トランスポートコントロールボタンのいずれかを押すだけで、いつでもメニューを抜けることができます (または STATUS、CONFIG、MEDIA ボタンを押して該当するメニューを抜けます)。トランスポートコントロールボタンのいずれかを押すと、デフォルトのトランスポートモードが表示が切り替わります。

FORMAT MEDIA など、操作によっては確認メッセージ "ARE YOU SURE?" が表示されるものがあります。このメッセージ表示によって、意図しない動作が実行されたり、ボタンが誤って押されて悪影響が生じるのを防止します。確認メッセージ "ARE YOU SURE?" を肯定すると、実行中画面に切り替わり、動作が終了すると自動的にメニューに戻ります。

収録中は、Ki Pro は E to E 状態になります。ただし、入出力で変換指定されている場合は変換が実行されます。In Convert で収録の種類を None に設定しておけば、入力信号をそのまま出力することができます。それ以外の設定では、信号は他のフォーマットに変換して収録されます。

システム名称や日時設定など、パラメータの一部は、不揮発性メモリーに保存されるため、電源を ON/OFF しても保存されます。

クリップの収録

クリップは様々な方法で収録することができます。本章後述の MEDIA メニューと CONFIG メニューで、収録をコントロールするパラメータをきめ細かく設定できます。詳細な設定について説明する前に、ここでは簡単に収録を実行する方法を紹介します。

1. STATUS ボタンを押します。現在選択されている入力と入力フォーマット (1 行目) と選択した収録フォーマットとオーディオ入力 (2 行目) が表示されます。
2. これらの設定でよい場合は、ディスプレイの下の赤い RECORD ボタンを押します。

3. ストレージモジュール取り出しボタンの横にある緑の LED が点滅を始め、収録実行中であることを示します。ディスプレイ上のタイムコードがカウントアップします。収録中は、RECORD ボタンが点灯します。
4. 収録を終了するときは、STOP ボタン (RECORD ボタンの左) を押します。

CONFIG メニューと MEDIA メニューのパラメータで、収録方法をカスタマイズすることも可能です。

注： 収録の前に Apple ProRes 422 の設定を変更するときは、MEDIA ボタンを押して MEDIA メニューにして、14.1 Encode Type が表示されるまで SELECT ボタンを押し、さらに ADJUST ボタンを押して ProRes 422LT、ProRes 422PX、ProRes 422HQ または ProRes 422 を選択します。MEDIA ボタンまたは STOP ボタンを押して、メニューを抜けます。

別のビデオ入力を選択するときは、CONFIG ボタンを押して CONFIG メニューにして、2.1 Video In が表示されるまで SELECT ボタンを押し、さらに ADJUST ボタンを押して希望のビデオ入力コネクタを選択します。別のオーディオ入力を選択するときは、SELECT Up ボタンで 2.2 Audio In を表示させ、ADJUST ボタンを押して希望のオーディオ入力コネクタを選択します。

注： HDMI ビデオソースがない場合は、HDMI オーディオを選択することはできません。また SDI ビデオソースを選択していないときに、SDI オーディオソースを選択することはできません。選択しようとする正面パネルに警告メッセージが表示されます。

収録開始前に変更が必要なメニューパラメータは、ごくわずかしかなかったりありません。入力や出力でのフォーマット変換について詳しくは、本章後述の CONFIG メニューおよび MEDIA メニューのパラメータの項をお読みください。

収録に関する注意

- Ki Pro では、大きいファイル (20 分を超えるファイル) を閉じるのに数秒かかる場合があります。こうした大きいファイルでは、メッセージ "Closing File" が表示されます。
- Ki Pro は、メディアの残量が 15% になるとメッセージ "Media Low" を表示して警告します。残量が 10% になると、メッセージ "Media Full" が表示されます。残量が 10% になると収録が停止し、フォーマットしなおすか、MEDIA メニュー>Delete Clips>DELETE ALL を実行しない限り、そのメディアで収録を続けることはできません。不要なクリップを削除して 10% 以上の残量を確保すれば、収録を再開できます。

クリップの再生

収録したメディアを再生するときは、再生したいクリップを選択して PLAY ボタンを押します。再生したいクリップが選択されていないときは、ディスプレイにクリップ名が表示されるまで SELECT Up/Down ボタンを押します。収録時と同様、再生は、正面パネル、WEB ブラウザ、ワイヤレスコントロールで開始することができます。正面パネルを使用する場合の基本手順は、次のとおりです。

1. トランスポートモードになっていない場合は STOP ボタンを押してトランスポートモードにします。クリップ名を表示させます。(ディスプレイには現在選択されているクリップ/リールが表示されます。)
2. 希望のクリップが表示されるまで、SELECT Up/Down ボタンを押します。
3. PLAY ボタン (>) を押します。

- クリップ再生 (PLAY、FF、または REV) 時は、STOP を 1 回押すと PAUSE モードになります。再生が一時停止し、クリップの現在点が表示され、STOP ボタンが点滅します。もう一回 STOP ボタンを押すと、再生が完全に停止し、Ki Pro の出力は E to E モード (現在選択されている入力そのまま出力されるモード) になります。クリップの最後まで再生されると、クリップの最後のフレームで自動的に PAUSE モードになります。

再生中は、FFWD、REV、SELECT、ADJUST ボタンを使用できます。

FFWD (>>) : F FWD ボタンを押すと、現在のクリップの高速再生が始まります。押しごとに、2 倍速から、4 倍速、8 倍速、16 倍速に切り替わります。(16 倍速になったあとは、ボタンを押しても動作は切り替わりません。) 高速再生中は、オーディオはミュートされます。

REV (<<) : 点灯していないときにこのボタンを押すと、現在のクリップのリバース再生が始まります。押しごとに、1 倍速から、2 倍速、4 倍速、8 倍速、16 倍速に切り替わります。(16 倍速になったあとは、ボタンを押しても動作は切り替わりません。) リバース再生中は、再生速度に関わらずオーディオはミュートされます。

SELECT Up/Down : トランスポートモードでは、SELECT ボタンは、クリップ選択の前キー、次キーとして機能します。クリップを選択すると、クリップの先頭を頭出しします。クリップの再生順は、クリップの名称ではなく、タイムスタンプ (作成日時) に基づいて決定されます。再生を一時停止したときは (STOP ボタンが点滅)、SELECT Down ボタンを使ってクリップの先頭にジャンプすることができます。STOP ボタンが点滅していないときは、SELECT Down ボタンを押すと、前のクリップが選択されます。

ADJUST Up/Down : トランスポートモードで PAUSE モード (PLAY モードで STOP ボタンを 1 回押す) になっているときは、ADJUST ボタンを押すと、押しごとに現在のクリップを 1 フレームずつフレーム送りします (Up ボタン : 正方向、Down ボタン : 逆方向)。

クリップの削除

収録したクリップを削除するには

- トランスポートモードで SELECT Up/Down ボタンを押して、現在のストレージデバイスのクリップを検索します。
- 削除したいクリップが表示されたら、DELETE CLIP ボタンを押します。
- 確認メッセージ "ARE YOU SURE?" が表示されますので、ADJUST Up ボタンを押して、削除を実行してください。Down ボタンなど、ADJUST Up ボタン以外のボタンを押すと、削除は中止されます。

STATUS メニュー

STATUS メニューは、入出力のステータスとアラーム情報を表示します。STATUS メニューには、実行中のトランスポート動作を変化させることなく、いつでもアクセスできます。STATUS 表示画面は、CONFIG メニューと MEDIA メニューと同様に SELECT Up/Down ボタンを押すことによって切り替えることができます。STATUS ボタンを押すと STATUS 表示画面を抜け、トランスポートモードに戻ります。再生や収録動作は継続します。

収録および再生モード

1 行目: 収録モードでは入力フォーマットを表示します。右側の 4 文字は選択されている入力ビデオフォーマットです (SDI、CMP または HDMI)。再生モードではメディアフォーマットを表示します。

2 行目: 収録モードでは収録フォーマットを表示します。右側の 4 文字は選択されているオーディオ入力です (SDI、XLR、RCA または HDMI)。

STATUS の 2 ページ目: 収録前のタイムコード設定を表示します。STATUS ボタンが選ばれている状態で、SELECT Up ボタンを押すと 2 ページ目が表示されます。

STATUS の表示例を以下に紹介します。

IN 720p 59.94

SDI

REC 1080i 29.97

XLR

収録モード

メディアフォーマット

出力コンバージョンモード

再生モード

TC In

TC Value

01:00:00:00

STATUS の 2 ページ目: 収録前のタイムコード設定

アラームステータス

Alarm メニューは、警告やアラームを表示します。アラームにはディスプレイに自動的に表示されるものもありますが、それ以外は STATUS 表示で確認します (SELECT Up/Down ボタンを押して順次切り替えます)。問題がない場合は、STATUS 表示を最後まで確認するとメッセージ "SYSTEM NORMAL" が表示されます。

SYSTEM NORMAL

アラーム状況が発生すると、バックライト付きのボタンとディスプレイが最大レベルの明るさで 2 秒間点滅します。複数のアラーム状況が発生している場合は、次のアラームに移る前に、それぞれのアラーム表示を 3 秒間継続します。これらのアラーム表示は、ディスプレイに、トランスポートモードや STATUS メニューの表示内容に関わらず実行されます。アラーム状況 (例: Invalid Selection) になると、STATUS ボタンはアラーム

ムの原因が取り除かれるまで点滅を続けます。STATUS ボタンを押してアラーム状況の原因を確認してください。

アラーム表示の後で CONFIG メニューや MEDIA メニューに入ると、アラーム表示が解除されます。どれかボタンを押すと、アラーム前の状態に戻ります。ただし、ボタンを押した後もアラームの原因が持続している場合は、アラームがディスプレイに再度表示されます。

注： アラーム状況が発生している場合は STATUS ボタンが点滅します。

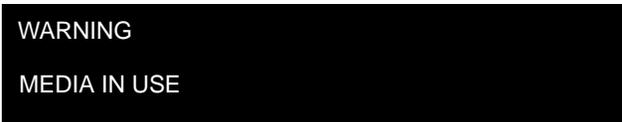
アラーム表示の例を以下に示します。1 行目に WARNING が表示され、2 行目に原因となっている内容が表示されます。



```
WARNING
INVALID SELECTION
```



```
WARNING
UNRECOGNIZED MEDIA
```



```
WARNING
MEDIA IN USE
```

Ki Pro には、ユーザーが本体の状態を診断できるように、様々なアラームが用意されています。警告メッセージと内容を以下に示します。

WARNING Input Format Changed : 収録開始後に、入力信号が遮断されたり変更された場合に表示されます。この場合、CONFIG パラメータの Loss of Video で収録の継続を設定している場合を除き、進行中の収録を停止します。

WARNING Record Format : Ki Pro にビデオ入力がない場合に表示されます。この状態では収録は実行されません。

WARNING A/V Mismatch : SDI ビデオに対し HDMI オーディオが選択されている、または HDMI ビデオに対し SDI オーディオが選択されている場合に表示されます。SDI や HDMI のエンベデッドオーディオは、ビデオと一致させる必要があります。アナログオーディオは、すべてのビデオ入力に使用できます。

WARNING Dropped Frames : メディアの性能が不十分で、収録や再生に必要なデータレートが得られない場合に表示されます。このメッセージが収録中に表示された場合は、現在収録されたデータのバックアップをとり、メディアをフォーマットすることを検討してください。再生時は、もう一度実行してみてください。

WARNING SDI VFR Mismatch : パラメータ 1.1 が VFR に設定されているときに、ビデオ入力を SDI 以外に設定すると表示されます。VFR は、SDI 入力だけをサポートしています。

WARNING Media Low : メディアの残容量が 15% しかない場合に表示されます。残容量が 10% になったときは、メディアの交換が必要です。残量が 10% になると、メッセージ "WARNING Media Full" が表示されます。

WARNING Media in Use : 操作中に SLOT ボタンを押してメディアを取り出そうとした場合に表示されます。操作を完了させてから、もう一度ボタンを押してください。

WARNING Media Not Present : メディアが物理的に取り外されている状態で SLOT ボタンが押されると表示されます。

WARNING Media Invalid : メディアのフォーマットができない場合やメディアに Ki Pro が修正できないエラーがある場合に表示されます。この問題を解決するには、Mac OS X で動作する Apple コンピュータにドライブをマウントして、メディアのクリップをコピーしてから、もう一度 Ki Pro にメディアを装着してください。正常に読めない場合は、メディアのフォーマットが必要です。

WARNING Storage Removed : SLOT ボタンを押して正しくメディアをアンマウントしないままメディアを取り外した場合に表示されます。この状況では、そのままメディアを Ki Pro に装着しなおすと、クリップが "N/A" 表示になり、それ以上収録することはできません。この問題を解決するには、ドライブを Mac OS X で動作する Apple コンピュータにマウントしてから、メディアを装着しなおしてください。正常に読めない場合は、メディアのフォーマットが必要です。

WARNING Backup and Reformat : Ki Pro にマウントされているメディアに問題がある場合に表示されます。メッセージが示すとおり、他のドライブやディスクアレイにコピーしてメディアをバックアップしてからフォーマットしなおすのが最善策です。以下のような場合は、メディアが読み取り専用状態になっている可能性があります。

- クリップがメディアに収録されているにも関わらず、ディスプレイのクリップ領域に "N/A" が表示される。
- 実際にクリップをロードしていないにも関わらず、ディスプレイのクリップ領域に "Loading" が表示される。
- Ki Pro をすべて正しく設定して RECORD ボタンを押したにも関わらず、収録が実行されない。

WARNING Media Unformatted : 挿入されたメディアに Ki Pro が認識できるファイルシステムが含まれていない場合に表示されます。Ki Pro が認識できるのは HFS+ ファイルシステムで、その他の種類はフォーマットされていないと認識されます。フォーマットされていないメディアや認識できないファイルシステム (FAT32 など) は、通常の方法でフォーマットして使用することもできます。

WARNING Change Encode Type: ExpressCard/34 メモリーカードは ProResHQ をサポートしないため、このメッセージが表示されます。HQ 以外の ProRes (スタンダード、LT または Proxy) を選んでから、ExpressCard/34 メモリーカードに収録します。

WARNING Invalid Selection : Ki Pro が矛盾する設定要求 (HD 素材に対しコンポーネント入出力に "Beta" を選択など) を受けたとき表示されます。

WARNING Name In Use : 既存のクリップに上書きして収録しようとした場合に表示されます。テイク番号が最大の 999 に達しているとき、このメッセージが表示されることがあります。クリップ名パラメータの一つを変更してクリップ名の重複をなくしてください。

WARNING No Video Input : 入力側にビデオ信号がないのに収録を開始しようとした場合に表示されます。接続やソースをチェックし、2.1 Video Input で選択している入力に有効なビデオ信号が供給されていることを確認してください。

WARNING 2 Channel Format : 2.3 Audio Channels で選択しているチャンネルの数が 8 なのに、選択しているオーディオ入力が 2 チャンネルにしか対応していないとき表示されます。8 チャンネルに対応しているのは SDI のみです。

WARNING Genlock Missing: 6.1 Genlock が INPUT または Component Y に設定されているのに、選択しているゲンロック入力に信号がないとき表示されます。

WARNING Genlock Mismatch: 6.1 Genlock が INPUT または Component Y に設定されているとき、選択しているゲンロック入力信号が、選択しているビデオ入力信号のビデオフォーマットと互換性がない場合に表示されます。

WARNING Non VFR Format : 1.1 Record type が VFR (可変フレームレート) に設定されているのに、収録するビデオが有効な VFR タイプではないときに表示されます。選択しているビデオ入力信号のビデオフォーマットがサポートされていないか、VFR アンシラリーデータが伝送されていない、または 41.2 VIDEO SG でビデオ信号発生器が有効になっている、または 1.4 Input Conversion が有効になっていることが原因として考えられます。

WARNING No Clip Name: ギャング内の slave ユニットで master から送られてきたクリップ名を設定しようとしたのにクリップ名が空白だった場合に表示されます。Master のカスタムクリップ名が空白の可能性あります。

WARNING Unsupported Media: Ki Pro の ExpressCard/34 スロットに USB カードまたは SxS カードが挿入されたときに表示されます。Ki Pro は上記メディアに対応していません。AJA のウェブサイトの承認済みリストに掲載されている ExpressCard/34 メモリーカードをご使用ください。

WARNING Please Reboot : スロットボタンを使用せずにメディアを取り出したため、Ki Pro の操作を続けるためにはリブートが必要になった場合に表示されます。

MEDIA メニュー

名称が示すとおり、MEDIA メニューでは、エンコードの種類、収録・再生時の動作など、メディアストレージに関連する項目を選択します。リール、クリップ、およびテイクに名前を付けるメニューも含まれています。

MEDIA メニューの パラメータ

12.1 MEDIA STATE

このパラメータは Ki Pro を使ってデータ送信をするときに適用されます。通常のビデオ操作には、Record-Play を選びます。Ethernet LAN を使ったデータ送信には、Data-LAN を選びます。FireWire を使ったデータ送信には、Data-FW を選びます。

12.1 MEDIA STATE	Record-Play (デフォルト)	ビデオの収録と再生にメディアを使用。
	Data-LAN*	Ki Pro から LAN を介してデータのアップロード/ダウンロードが可能。
	Data-FW*	Ki Pro から FireWire を介してデータ転送が可能。

*"Data-LAN と Data-FW について" (50 ページ) 参照。

Data に設定されていると、トランスポート機能がロックされ、メディアへのビデオ収録やメディアからのビデオ再生ができなくなります。ただし、MEDIA メニューのパラメータ

タへのアクセスは可能なため、このパラメータをリセットすることができます。Data モード中に再生や収録しようとする時、「CHANGE MEDIA STATE」メッセージが表示され、トランスポート機能は使えません。また正面パネルには、通常表示されているクリップやリール、タイムコードなどの代わりに、DATA MEDIA STATE であることが明確に表示されます。

Data 設定を選択後、FireWire 800 や Ethernet 接続を介して Ki Pro をホストコンピュータに接続することができます。Data-FW 選択時は、Ki Pro は選択されたボリューム(LED の点灯により表示) をマウントします。つまり、Ki Pro 上でストレージモジュールが選ばれている場合は、これがホスト OS がマウントしたボリュームになります。

Data Media State を選択すると、有効なメディアを Ki Pro へコピーしたり、Ki Pro からコピーすることができます。Ki Pro にコピーできる有効なメディアファイルを以下に示します。

- フル解像度 (720x486、720x576、1280x720、または 1920x1080) の QuickTime ファイル
- 以下のようにエンコードされた QuickTime ファイル：
 - Apple ProRes 422
 - Apple ProRes 422 Proxy
 - Apple ProRes 422 LT
 - Apple ProRes422 HQ

ファイルは Ki Pro に対応したフレームレートで、オーディオが含まれている場合には 24 bit 48 kHz オーディオ (2 または 8 チャンネル) でなければなりません。Ki Pro にコピーしたファイルが上記の基準に合わないときは、WEB UI 上または正面パネル UI 上でクリップの閲覧をしようとしても、表示されません。

DATA MEDIA STATE はデバイスがリブートまたは電源切断・再投入後はリセットされ、デフォルトの Record-Play モードに戻ります。

Data-LAN と Data-FW について

Ki Pro の Media State で Data-LAN を選んだときは、データ送信には Ki Pro のコントロールおよび設定用の WEB UI のみを使用できます。WEB UI の All Clips 部に "Upload+" と "Download+" ボタンが表示されます。Data-LAN が有効でないときは、これら 2 つのボタンは WEB UI に表示されません。

Ki Pro の Media State で Data-FW を選んだときは、Mac OS はボリュームをディスクとしてマウントします。Mac OS がディスクをマウントするため、Media State を Record-Play に戻す前に、Mac OS 上でディスクをアンマウントする必要があります。Mac OS 内のボリュームをアンマウントするには、アンマウントしたいボリュームをごみ箱にドラッグするか、そのボリュームの横のファインダー内の取り出しアイコンを使用してください。この手順を守らない場合、Mac OS がディスクの不適切な取り出しを報告する場合があります。この場合、不適切なディスク取り出しのために発生した可能性があるディレクトリーエラーを修正するために、Mac OS システムにディスクを再マウントすることをお勧めします。

14.1 ENCODE TYPE

このパラメータは、Apple ProRes エンコード方式を指定します。

14.1 ENCODE TYPE	PRORES 422 (デフォルト)	メディアを Apple ProRes 422 ファイルとして収録します。
	PRORES 422HQ	メディアを Apple ProRes 422 HQ ファイルとして収録します。
	ProRes 422LT	メディアを Apple ProRes 422 LT ファイルとして収録します。
	ProRes 422PX	メディアを Apple ProRes 422 Proxy ファイルとして収録します。

15.1 PLAY MEDIA

このパラメータは、再生時の動作を指定します。

15.1 PLAY MEDIA	One (デフォルト)	ひとつのクリップを再生し、終わると再生を停止します。
	All Playlist	All/Playlist : 現在のクリップを再生し、続いて Ki Pro のメディアまたはプレイリスト上の次のクリップを再生します。この設定では、フォーマットやフレームレートに関係なくクリップを再生します。フォーマットやフレームレートが変わったときはビデオモニタの再設定が必要になります。すべてのクリップのフォーマットやフレームレートが同じか、クリップの出力が同じ周波数に変換されれば、クリップは問題なく次々に再生されます。

15.2 LOOP PLAY

このパラメータは、ループ再生を ON/OFF します。

15.2 LOOP PLAY	OFF (デフォルト) ON	クリップを再生し、終わると再生を停止します。 クリップを再生し、初めに戻って再生を繰り返します。
----------------	-------------------	-----------------------------------------------------

15.3 PLAYLIST

このパラメータは選択したプレイリストの名称を表示します。

15.3 PLAYLIST	変数	選択したプレイリストの名称が表示されます。WEB UI コントロール経由で選ばれたプレイリストがないとき、名前は表示されません。正面パネル UI からプレイリストを選択・作成することはできません。この作業は WEB UI を使って行います。
---------------	----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

16.1 FORMAT MEDIA

このパラメータは、現在選択されているストレージデバイスをフォーマットするときに使用します。

16.1 FORMAT MEDIA	KEEP MEDIA (デフォルト) FORMAT MEDIA	動作しません。(選択されているストレージデバイスはフォーマットされません) 選択されているメディアデバイスをフォーマットします。(確認メッセージ Y/N? が表示されます。) Ki Pro にメディアが何も挿入されていないときは、"No Storage" メッセージが表示されます。
-------------------	------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

16.2 DELETE CLIPS

このパラメータは、メディアのクリップをすべて削除するときに使用します。

16.2 DELETE CLIPS	KEEP CLIPS (デフォルト) DELETE ALL	動作しません。(クリップは削除されません。) DELETE CLIPS を押すか、ADJUST Up ボタンを2秒間押し続けると、ストレージデバイスの全クリップが削除されます。Ki Pro にメディアが何も挿入されていないときは、"No Storage" メッセージが表示されます。
-------------------	----------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Ki Pro のストレージモジュールには、Apple ProRes 422 QuickTime 収録以外のデータを保存することもできます。他のファイルが Ki Pro のストレージモジュールに保存されている場合は、"AJA" フォルダの外に置いてください。"AJA" フォルダ内のデータは MEDIA>Delete Clips>DELETE ALL を実行するとすべて消去されます。

17.0 REEL NAME

このパラメータで、クリップに付加されるリール名を指定します。生成されるすべてのクリップに適用されます。リール名は、001 ~ 999 の番号です。フィルムやテープベースのメディアに従来使用されてきた名称に対応します。REEL NAME は、EDL (編集リスト) で有効な昇順の3桁の値です。従って、このパラメータでは "NONE" (なし) を選択することはできません。REEL NAME パラメータは、ストレージデバイス (ストレージモジュールまたは ExpressCard/34 メモリーカード) を Mac OS X デスクトップコンピュータにマウントしたとき (およびユーザーがメディアをフォーマットしたとき) に、メディア名として表示されます。

17.0 REEL NAME	001 ~ 999 (デフォルト =001)	自動生成される値以外の番号を使用したい場合は、ADJUST Up または Down ボタンを押して、REEL NAME 値 (001 ~ 999) を設定します。
----------------	---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

17.2 CLIP NAME

このパラメータで、クリップに付加されるクリップ名を指定します。変更するまで、以後生成されるすべてのクリップに適用されます。クリップ名は、Clip または SC です。

17.2 CLIP NAME	SC (デフォルト) Clip	作成されるクリップは SC で始まるファイル名を持ちます。 作成されるクリップは Clip で始まるファイル名を持ちます。
----------------	------------------------	------------------------------------------------------------------

クリップ名の2つの例

クリップ名がどのように決定されるかを、2つの例で紹介します。どちらの場合も、以下のパラメータの設定に基づいて決定されます。

- REEL NAME
- CLIP NAME
- CLIP NUMBER
- CLIP NUMBER APPEND
- ALPHA APPEND VALUE

また、名称に "TK" とそれに続く自動的にカウントアップする TK 値（パラメータ 17.8 TAKE で手動でリセット可）がデフォルトで付加されます。

これらのパラメータによって、QuickTime ファイルの名称を撮影スクリプトと論理的に一致させ、Final Cut Pro 7 のブラウザ画面または Final Cut Pro X のイベントにインポートしたときに QuickTime ファイルを簡単に判別することができます。Final Cut Pro 7 のブラウザ画面には、メディアに関する情報を表示するコラムがあります。Final Cut Pro クリップが valid（有効な）メディアとして正しく認識されるためには、少なくとも Name、Media Start、Media End および Reel 情報が必要です。それ以外の情報は、QuickTime metadata として Final Cut Pro ブラウザのコラムヘッダ部分に表示される項目の中にマッピングすることができます。Final Cut Pro X も上記の情報を使用し、QuickTime ファイルのメタデータへのサポートをさらに充実させています。

例 1 : 工場設定のデフォルトのパラメータ使用時 :

REEL NAME	001
CLIP NAME	SC
CLIP NUMBER	1
CLIP APPEND	ALPHA
ALPHA APPEND	A
TAKE	1

生成されるクリップの名前は、"SC1ATK1" になります。このメディアを OSX デスクトップコンピュータにボリュームとしてマウントすると、名称は "001" になります。

例 2 : カスタム設定時 :

REEL NAME	002
CLIP NAME	Clip
CLIP NUMBER	12
CLIP APPEND	NONE
ALPHA APPEND	B
TAKE	1

生成されるクリップの名称は、"CLIP12TK1" になります。このメディアをデスクトップコンピュータにボリュームとしてマウントすると、名称は "002" になります。

17.3 CLIP NUMBER

このパラメータは、クリップ名に続くクリップ番号（1 ~ 999）を指定します。変更するまで、以後生成されるすべてのクリップに適用されます。

17.3 CLIP NUMBER

1 ~ 999
(デフォルト =1)

自動生成値以外の番号を使用したい場合は、ADJUST Up/Down ボタンを押して、CLIP NUMBER 値（1 ~ 999）を選択します。

17.4 CLIP APPEND

このパラメータは、パラメータ 17.5 Alpha Append と組み合わせて使用し、クリップ番号の後にアルファベットを付加するかどうかを決定します。

17.4 CLIP APPEND	ALPHA (デフォルト)	ALPHA APPEND で入力したアルファベットをクリップ名とクリップ番号の後に付加します。
	NONE	クリップ名とクリップ番号の後にアルファベットを付加しません。

17.5 ALPHA APPEND

このパラメータは、パラメータ 17.4 Clip Append と組み合わせて使用し、クリップ番号の後にアルファベットを付加します。

17.5 ALPHA APPEND	A ~ Z (デフォルト =A)	自動生成値以外のアルファベットを使用したい場合は、ADJUST Up/Down ボタンを押して、ALPHA APPEND 値 (A ~ Z) を設定します。設定は、A から Z へ順次切り替わります。

17.8 TAKE

このパラメータは、クリップ名、クリップ番号に続く、テイク番号 (1 ~ 999) を指定します。ALPHA APPEND を選択した場合は、テイク番号の後に付加されます。変更するまで、以後生成されるすべてのクリップに適用されます。

17.8 TAKE	1 ~ 999 (デフォルト =1)	Ki Pro は自動的にテイク番号を生成します。自動生成値以外の番号を使用したい場合は、ADJUST Up/Down ボタンを押して、TAKE 値 (1 ~ 999) を選択します。

Ki Pro は、下記のようなルールに従ってクリップとテイクを管理します。

1. 標準クリップ名を使用している場合は、既存のクリップは上書きしません。
2. テイク番号は、REEL NAME、CLIP NAME、CLIP NUMBER、CLIP APPEND、ALPHA APPEND、および TAKE の設定で決定される部分をプレフィックスとして自動的にカウントアップします。
3. 番号が 999 になると、自動カウントアップはされず、アラームメッセージ "Name In Use" が表示されます。この場合は、新しいプレフィックス部分が生成されるように、REEL NAME、CLIP NAME、CLIP NUMBER、CLIP APPEND、ALPHA APPEND、および TAKE 設定を新たに設定してください。この設定によって、それぞれのファイルを明確に区別して、クリップが上書きされるのを防ぐことができます。

カスタムクリップ ネーミング

バージョン 2.0 以降では、AJA が提供する標準設定以外のクリップ名を付けることができます。

重要： 次のような文字はクリップ名としてサポートされていません。

例：句読点 (内部スペースやピリオドを除く)、特殊文字 (@ など)、ASCII UTF-8 以外の文字は完全に拒否されます。

注： 中国語や日本語のような非 UTF-8 文字はサポートされていません。

カスタムクリップ名は、正面パネルの UI メニューのパラメータ（19.1、19.2、19.4）で SELECT ボタンと ADJUST ボタンを使って作成することができます。WEB の UI 入力フィールドを使うと効率よくカスタムクリップ名を付けることができます。

19.1 USE CUSTOM CLIP NAME

このパラメータは、メニューのパラメータ 19.1、19.2、19.4 や WEB UI を使ってカスタムクリップ名を設定するかどうかを設定します。

19.1 USE CUSTOM CLIP NAME	OFF（デフォルト） ON	カスタムクリップ名の設定をします。 カスタムクリップ名の設定をしません。
---------------------------	------------------	-----------------------------------------

19.2 CUSTOM CLIP NAME

このパラメータでカスタムクリップ名を設定します。カスタムクリップ名は、正面パネルの SELECT ボタン、ADJUST ボタンを使って設定します。デフォルトの名称は CUSTOM です。

19.2 CUSTOM CLIP NAME	変数	<p>ADJUST ボタンでカスタムクリップ名を入力します。ADJUST ボタンと SELECT Up ボタンを使って文字を選択します。ADJUST ボタンで選択肢をスクロールし、SELECT Up ボタンで次の文字に進みます。文字を選択している間、設定中の文字が点滅して現在の選択位置を示します。次のような文字はクリップ名としてサポートされていません。</p> <p>例：句読点（内部スペースやピリオドを除く）、特殊文字（@など）、ASCII UTF-8 以外の文字は完全に拒否されます。</p> <p>注： 中国語や日本語のような非 UTF-8 文字はサポートされていません。</p> <p>デフォルト：CUSTOM</p>
-----------------------	----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

19.4 CUSTOM TAKE

このパラメータでカスタムテイクを設定します。カスタムテイク値を、正面パネルの SELECT ボタン、ADJUST ボタンを使って設定します。

19.4 CUSTOM TAKE	1 ~ 999 (デフォルト =1)	自動生成値以外の番号を使用したい場合は、ADJUST Up/Down ボタンを押して、TAKE 値（1 ~ 999）を選択します。
------------------	-----------------------	-------------------------------------------------------------------

22.1 GANG CLIP NAME

このパラメータは、複数の Ki Pro を使ったギャングレコーディング (Ki Pro の複数台コントロールについては、本書の後を参照) を実行するときを使用します。ギャングレコーディングで、すべての Ki Pro でクリップ名を同じにしたいとき、"Master Name" を選択します。Ki Pro ごとにクリップ名を別々に設定したいときは、"Slave Name" を選択します。"Slave Name" を選択すると、収録は各 Ki Pro のパラメータで設定した名前で行われ、Master Ki Pro から送られてきた名前は受け付けません。

22.1 GANG CLIP NAME

Master Name (デフォルト)	すべての Ki Pro のギャングレユニットのクリップ名を同じにします。
Slave Name	Ki Pro ごとに別々のクリップ名になります。

CONFIG メニュー

以下のメニュー説明では、ディスプレイの 1 行目に表示されるパラメータ番号とパラメータ名、2 行目に表示されるパラメータの設定値について記述します。表示されている値は現在の値です。

前記の MEDIA メニューと同様に、ADJUST Up または ADJUST Down ボタンを押すと、現在の CONFIG パラメータ値が選択可能な範囲で変化します。ADJUST ボタンを押し続けると選択肢が連続して切り替わります。数値は昇順または降順で調整できます。

表示される選択肢は、パラメータによって異なります。ADJUST ボタンで設定すると、ほとんどの場合すぐ有効になり、3 秒間変更されないと Ki Pro の不揮発性メモリに保存されます。

SELECT または ADJUST ボタンを押し続けると自動的に変更が始まり、変更速度がアップするものもあります。

ADJUST Up と ADJUST Down ボタンを同時に押すと、パラメータは工場出荷時のデフォルト値に戻ります。

CONFIG メニューでは、システムのセットアップと基本設定を行います。それぞれのパラメータには、MEDIA メニュー同様にパラメータ番号があります。

注： 本機のコンポジット出力は、コンポーネント出力に従います。即ち、コンポジット出力は、ソースフォーマットまたは変換フォーマットが SD の場合のみ動作します。

CONFIG メニュー のパラメータ

CONFIG メニューのパラメータの多くは、組み合わせて使用することによって、Ki Pro の収録のタイプと、特殊なワークフローで収録と同時に実行される入出力の変換フォーマットを設定します。

個々の CONFIG メニューのパラメータを説明する前に、パラメータ設定例を 2 つ紹介します。それぞれ、特殊なワークフローにおける CONFIG メニュー設定の実例です。

例 1：この例では、入力ビデオは 1080i29.97 です。しかし 720p59.94 素材に合わせて Ki Pro で収録する必要があるため、IN CONVERT>HD 720 を選択します。パラメータを次のように設定します。

1. 1.1 RECORD TYPE>NORMAL にする。
2. 1.4 IN CONVERT>HD 720 にする。
3. 1.5 OUT CONVERT>NONE にする。

例 2：この例では、入力ビデオは 1080PsF 29.97 です。したがって Ki Pro を PsF 収録用に設定する必要があります（設定しないとインターレースと判断されます）。この場合は、RECORD TYPE を PsF に設定します。パラメータを次のように設定します。

1. 1.1 RECORD TYPE>PsF にする。
2. 1.4 IN CONVERT>NONE にする。
3. 1.5 OUT CONVERT>NONE にする。

1.1 RECORD TYPE

このパラメータは、収録するメディアのフレーム形式を指定します。RECORD TYPE は、入力ビデオ信号を標準フォーマット（NORMAL）で収録する（入力ソースが 1080PsF 29.97 などの場合に PsF 信号として収録）か、可変フレームレート（VFR）で収録するかを設定できます。

1.1 RECORD TYPE

NORMAL (デフォルト)	入力と同じ標準フォーマットで収録します。 PsF で収録します。 可変のフレームレートで収録します。
PsF	
VFR	

注：23.98 Hz のソースは、この設定にかかわらず自動的に PsF として扱われます。29.97 Hz または 25 Hz では、NORMAL に設定するとインターレースにエンコードされ、PsF に設定するとプログレッシブにエンコードされます。これは 1080 フォーマット時のみ適用されます。それぞれの事例の詳細を以下に示します。

- 入力ビデオ 1080PsF 23.98 > Normal 選択 > 1080p 23.98 でディスクに収録。
- 入力ビデオ 1080i 25 > PsF 選択 > 1080p 25 でディスクに収録。
- 入力ビデオ 1080i 29.97 > PsF 選択 > 1080p 29.97 でディスクに収録。
- 1080PsF 信号はディスクにプログレッシブで収録されます。プログレッシブのディスク素材は PsF またはプログレッシブで再生出力されます。この選択は、1.3 1080p Playback パラメータで行います。

VFR（可変フレームレート）収録は、SD-SDI/HD-SDI 入力の RP188 データストリームに埋め込まれたメタデータを使用し、フレームレートをアクティブに変更します。可変フレームレートが可能なカメラには、Panasonic AJ-HDC27 や Panasonic HPX シリーズ等のいくつかのカメラがあります。

Ki Pro バージョン 3.0 以降、1080i 信号から 1080p を出力するカメラも VFR 選択でサポートできるようになりました。Canon XH-G1 カメラ使用時、VFR を選択すると、1080i 29.97

信号から 1080p 23.98 が抽出できます。Canon EOS C300 使用時は、1080i 29.97 信号から 1080p 23.98 信号が、1080i 30 信号から 1080p 24 信号が抽出できます。Canon EOS C300 の 1080p 25 と 1080p 29.97 フォーマットの場合、プログレッシブフレーム収録時には Record Type を PsF に設定してください。

1.3 1080p PLAYBACK

このパラメータは、再生するメディアが 1080p または PsF の場合に、フレーム形式を指定します。

1.3 1080p PLAYBACK	PsF (デフォルト) Progressive	1080 PsF で再生します (入力時の収録は無関係) 標準の 1080p プログレッシブフレームで再生します。
--------------------	----------------------------	--------------------------------------------------------------

注： プログレッシブ素材を HDMI 出力するには、1080p Playback を Progressive に設定する必要があります。HDMI は True progressive かインタレースビデオのみをサポートし、PsF はサポートしない傾向があります。

1.4 IN CONVERT

このパラメータは、選択した入力に収録時に適用するアップ、ダウン、クロス、アスペクト比のコンバートタイプを必要に応じて指定します。

1.4 IN CONVERT	NONE (デフォルト) SD HD 720 HD 1080	選択した入力はコンバートされません。 選択した入力を SD にコンバートします。 選択した入力を HD 720 にコンバートします。 選択した入力を HD 1080 にコンバートします。
----------------	-----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

注： 入力用コンバータは 1 系統です。選択すると、現在選択されている入力に適用されます。1080PsF23.98 ソースの入力コンバートはサポートしていません。

1.5 OUT CONVERT

このパラメータは、ストレージのメディア再生時もしくは収録中に、選択した出力に適用するアップ、ダウン、クロス、アスペクト比のコンバートタイプを、必要に応じて指定します。

1.5 OUT CONVERT	NONE (デフォルト) SD HD 720 HD 1080	出力はコンバートされません。 出力を SD にコンバートします。 出力を HD 720 にコンバートします。 出力を HD 1080 にコンバートします。
-----------------	-----------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------

注： 出力用コンバータは 1 系統です。選択すると、他のパラメータ (1.6、1.7 および 1.8) の設定に応じて複数の出力に適用されます。1080PsF23.98 の出力コンバートは、SD (720p 以外) でのみサポートしています。

1.6 SDI OUT

このパラメータは、SDI 出力をファイルフォーマットと一致させるか、OUT CONVERT (1.5) 設定を適用するかを指定します。

1.6 SDI OUT	FILE FRMT (デフォルト) OUT CONVERT	ファイルと同じフォーマットで出力します。 1.5 OUT CONVERT 設定を使用して出力します。
-------------	----------------------------------	-------------------------------------------------------

注： FILE FRMT (ファイルフォーマット) は、再生時のファイルのフォーマットです。キャプチャ時に入力コンバートされた場合は、そのフォーマットになります。

1.7 COMPONENT OUT

このパラメータは、コンポーネントビデオ出力をファイルフォーマットと一致させるか、1.5 OUT CONVERT 設定を適用するかを指定します。

1.7 COMPONENT OUT	FILE FRMT (デフォルト) OUT CONVERT	ファイルと同じフォーマットで出力します。 1.5 OUT CONVERT 設定を使用して出力します。
-------------------	----------------------------------	-------------------------------------------------------

注： Ki Pro のコンポーネント入出力を HD 素材用の "Beta" に設定すると、"Invalid Selection" の警告が出て、収録やその他の操作をする前に修正が必要になります。

1.8 HDMI OUT

このパラメータは、HDMI 出力をファイルフォーマットと一致させるか、1.5 Output Convert 設定を適用するかを指定します。

1.8 HDMI OUT	FILE FRMT (デフォルト) OUT CONVERT FRMT	ファイルと同じフォーマットで出力します。 1.5 OUT CONVERT 設定を使用して出力します。
--------------	---------------------------------------	-------------------------------------------------------

1.9 SUPER OUT

このパラメータは SDI 出力にタイムコードとトランスポート状態（収録、ポーズなど）をスーパーインポーズするか否かを設定します。

1.9 SUPER OUT	Off (デフォルト) SDI	スーパーインポーズされません。 SDI 出力上にスーパーインポーズされます。
---------------	--------------------	-------------------------------------------

2.1 VIDEO INPUT

このパラメータは、ビデオ入力コネクタに接続されているビデオ入力ソースを選択します。収録用、スルー出力用のビデオが選択されます。

注： SDI ビデオに対し HDMI オーディオが選択されている、または HDMI ビデオに対し SDI オーディオが選択されている場合に、"WARNING A/V Mismatch" が表示されます。SDI や HDMI のエンベデッドオーディオは、ビデオと一致させる必要があります。アナログオーディオは、すべてのビデオ入力に使用できます。

2.1 VIDEO INPUT	SDI (デフォルト) HDMI COMPONENT	SDI 入力コネクタを選択します。 HDMI 入力コネクタを選択します。 コンポーネント入力コネクタを選択します。
-----------------	----------------------------------	-----------------------------------------------------------------

2.2 AUDIO INPUT

このパラメータは、SDI ビデオソースと組み合わせるエンベデッド SDI オーディオ、HDMI ビデオソースと組み合わせる HDMI オーディオを含め、オーディオ入力コネクタからのオーディオ入力ソースを選択します。

注： SDI ビデオに対し HDMI オーディオが選択されている、または HDMI ビデオに対し SDI オーディオが選択されている場合に、"WARNING A/V Mismatch" が表示されます。SDI や HDMI のエンベデッドオーディオは、ビデオと一致させる必要があります。アナログオーディオは、すべてのビデオ入力に使用できます。

2.2 AUDIO INPUT	SDI (デフォルト)	SDI 入力コネクタからの SDI エンベデッドオーディオを選択します。(SDI ビデオ入力選択時)
	RCA	2 個の RCA ジャック (ステレオ 1 セット) を選択します。
	XLR	XLR 入力を選択します。
	HDMI	HDMI エンベデッドオーディオを選択します (HDMI ビデオ入力選択時)。

注： XLR 入力は、コネクタパネルのスイッチ設定によって、マイクレベルとラインレベルを切り替えることができます。

2.3 AUDIO CHANNELS

このパラメータは、SDI エンベデッドオーディオを 2 チャンネル、8 チャンネルのどちらにするか選択します。一般にカメラで使用するトラック数は 1 チャンネルか 2 チャンネルなので、2 チャンネルを選択します。ポストプロダクションでは多くのオーディオチャンネルが必要になるので、そのような場合は 8 チャンネルを選択します。Ki Pro は、収録する QuickTime ファイルへのオーディオの記録を 2 チャンネルまたは 8 チャンネルのどちらかに限定しています。従って、ソースのオーディオが 2 チャンネル以上あり、8 チャンネルより少ない場合は、CONFIG メニューのパラメータ 2.3 AUDIO CHANNELS の設定は "8 Channels" にします。

注： すべてのデバイスで 8 チャンネルオーディオをサポートしているわけではありません。Ki Pro は 8 チャンネルのオーディオをミックスダウンして出力する機能は備えていません。従って 8 チャンネルの収録が必要な場合は、8 チャンネルの SDI エンベデッドオーディオをサポートしているデバイスを使用してください。

2.3 AUDIO CHANNELS	2 Channels (デフォルト)	2 チャンネルの SDI エンベデッドオーディオ記録を選択します。
	8 Channels	8 チャンネルの SDI エンベデッドオーディオ記録を選択します。

注： 8 Channels が選ばれているのに、2.2 Audio Input で SDI 以外 (RCA、XLR、または HDMI) が選択されていると、"WARNING 2 Channel Format" の警告メッセージが表示されます。

3.1 COMPONENT IN LVL

このパラメータは、コンポーネントビデオ入力コネクタの信号入力レベルを選択します。

3.1 COMPONENT IN LVL	SMPTE/N10 (デフォルト)	SMPTE/N10 入力信号レベルを選択します。
	BETACAM	BETACAM 入力信号レベルを選択します。

注： HD 素材を扱う際、Ki Pro のコンポーネント入出力を "Beta" に設定すると、"Invalid Selection" の警告が出て、収録やその他の操作をする前に修正が必要になります。

3.2 COMPONENT OUT LVL

このパラメータは、コンポーネントビデオ出力コネクタの信号出力レベルを選択します。

3.2 COMPONENT OUT LVL	SMPTE/N10 (デフォルト) BETACAM RGB	SMPTE/N10 出力信号レベルを選択します。 BETACAM 出力信号レベルを選択します。 RGB 出力信号レベルを選択します。
-----------------------	-------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------

注： HD 素材を扱う際、Ki Pro のコンポーネント入出力を "Beta" に設定すると、"Invalid Selection" の警告が出て、収録やその他の操作をする前に修正が必要になります。

3.4 NTSC CONFIG

このパラメータは、コンポジットビデオ出力コネクタの出力レベルを選択します。

3.4 NTSC CONFIG	NTSC (デフォルト) NTSC JAPAN	標準 NTSC 出力信号レベルを選択します。 日本の NTSC 出力信号レベルを選択します。
-----------------	----------------------------	---------------------------------------------------

4.1 ANALOG AUDIO

このパラメータは、入力および出力用のアナログオーディオ信号レベルを設定します。業務用オーディオ機器は、0 VU 表示が +4 dBu に相当するなど、コンシューマ機器に比べて高いレベルに対応しています。業務用の +4 dBu 機器をコンシューマ機器の -10dBV (-7.8 dBu) のオーディオ入力に接続するとオーバーロードになる場合があります。一方コンシューマ機器の出力では、業務用機器のオーディオ入力に必要なパワーが得られない場合があります。コンシューマ機器やセミプロ用オーディオ機器では、0 dB の VU 表示は通常 -10 dBV に相当します (0 dBu=0.775 VRMS)。ここでの設定は、パネル上の Mic/Line スイッチを Line に設定した場合に有効です。(Mic 設定は、コンデンサおよびダイナミックマイク用の低入力レベル設定です。電源を必要とするコンデンサマイクの場合は Mic +48、ダイナミックマイクの場合は Mic に設定してください。)

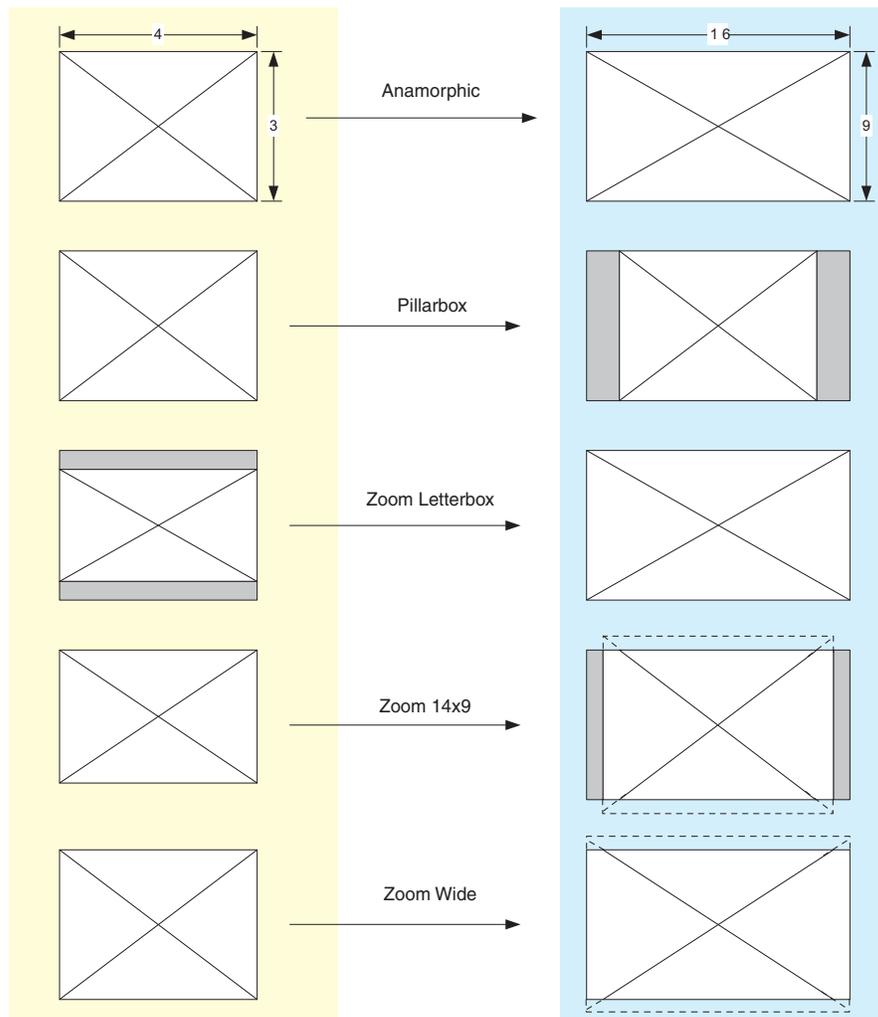
4.1 ANALOG AUDIO	+24dBu (デフォルト) +18dBu +15dBu +12dBu	USA 仕様のプロ用信号レベル +24dBu を選択します。 ヨーロッパ仕様のプロ用信号レベル +18dBu を選択します。 ドイツ仕様のプロ用信号レベル +15dBu を選択します。 コンシューマ信号レベル +12dBu を選択します。 注：最大増幅 (0 dBFS)
------------------	--------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5.1 UPCONVERSION

パラメータ 1.6 ~ 1.8 で SD からのアップコンバートを選択したとき、このパラメータでアップコンバートのタイプを選択します。

Ki Proでのアップコンバート

アップコンバート前の4:3画像 → アップコンバート後の 16:9画像



5.1 UPCONVERSION

ZOOM WIDE (デフォルト)

ANAMORPHIC
ZOOM 14X9

ZOOM LETTRBOX

PILLARBOX

拡大と伸張を組み合わせ、イメージを 16x9 画面に合うサイズにします。

アナモフィックフル画面表示

イメージを少し拡大し、左右に黒い帯のある 14x9 の画枠に合わせます。

イメージを拡大して、フル画面表示します。(アスペクト比が多少変わる場合があります)。

イメージは変更されません。イメージの左右に黒い帯が表示されます。

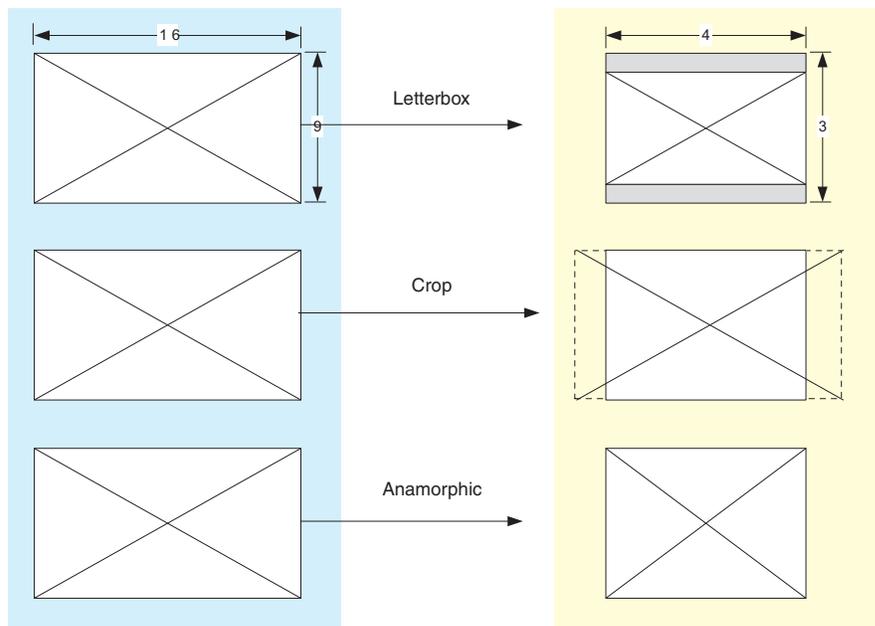
5.2 DOWNCONVERSION

パラメータ 1.6 ~ 1.8 で HD からのダウンコンバージョンを選択したとき、このパラメータでダウンコンバージョンのタイプを選択します。

5.2 DOWNCONVERSION	LETTERBOX (デフォルト)	イメージを縮小してイメージ領域の上下を黒くします。アスペクト比は変更されません。
	CROP	イメージを新しい画面サイズに合わせてクロップします。
	ANAMORPHIC	HD イメージをアスペクト比 16x9 のフル画面 SD に変換します。(アナモフィック)

Ki Proでのダウンコンバート

ダウンコンバート前の16:9画像 → ダウンコンバート後の4:3画像



6.1 GENLOCK

このパラメータは、再生中にゲンロックとして使用するリファレンスビデオのソースを選択します。Ki Pro は、キャプチャ中は常に指定された入力にゲンロックします。

6.1 GENLOCK	INPUT	現在選択されている入力をゲンロックソースとして使用します。
	CMP Y	コンポーネント Y 信号をゲンロックソースとして使用します。
	FREERUN (デフォルト)	Free run モード : Ki Pro は内蔵のタイムベースに同期します。外部ソースにはロックしません。

8.0 TC IN

このパラメータは、タイムコードのソースを選択します。

8.0 TC IN	TC VALUE (デフォルト) SDI RP188	パラメータ 8.1 TC VALUE で指定した値を使用します。 SDI 入力のエンベデッド RP188 メタデータから読み込んだタイムコードを使用します。
	LTC FW400	LTC 入力コネクタからのタイムコードを使用します。 FireWire TC 値を使用します (パラメータ 35.2 が FW Only に設定されているとき、FW400 が表示されます)。
	TIME OF DAY	内蔵クロックの時刻設定 (CONFIG パラメータ 55.6) を使用します。
	RS422	RS422 の IN 点 TC を収録開始値として使用します (パラメータ 35.2 が RS422 Only に設定されているときのみ表示されます)。

8.1 TC VALUE

8.0 が TC Value に設定されているときのタイムコードの開始時間をこのパラメータで選択します。

8.1 TC VALUE	00:00:00:00 ~ 23:00:00:00 (デフォルト : 01:00:00:00)	ADJUST ボタンでタイムコードの値を選択します。 例 : 01:00:00:00 、 02:00:00:00 等
--------------	----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------

8.2 TC TYPE

このパラメータは、ドロップフレームタイムコードかノンドロップフレームタイムコードかを選択します。

注 : TC In の設定が SDI RP188、LTC、FW400 または RS422 のときは、TC Type の選択は適用されません。TC Type が適用されるのは、Ki Pro が発生する TC Value または Time of Day 値のみです。

8.2 TC TYPE	NDF (デフォルト) DF	ノンドロップフレームのタイムコードを選択します。 ドロップフレームのタイムコードを選択します。
-------------	-------------------	----------------------------------------------------

8.3 ARM RECORDING

このパラメータは収録を、RECORD ボタン (本体または WEB 経由) を押して開始するか、入力されたタイムコードの歩進にあわせて開始するかを選択します。タイムコードを使って開始する場合は、パラメータ 8.0、8.1、8.2 でタイムコードのソースとタイプを指定します。

注 : TC/REC KEY が有効になるには、レックラン (REC RUN) のタイムコードが収録の開始/停止に合わせて歩進する必要があります。従って、このような歩進をしないフリーランのタイムコードには TC/REC KEY は適用されません。

8.3 ARM RECORDING	REC KEY (デフォルト) TC/REC KEY	RECORD ボタンを押して収録を開始します。 タイムコードのトリガーまたは RECORD ボタンで収録を開始します。
	LANC/REC KEY	LANC または REC ボタンの操作で Ki Pro が収録を開始します。LANC コントローラを Ki Pro に接続し、そこからカメラにループアウトしているときこの設定を選ぶと、LANC コントローラ上の RECORD ボタンを押して Ki Pro で収録を開始できます。

13.1 CAMERA DATA

カメラには SDI 補助データ（例：開始／停止コマンド、タイムコード、リール名、クリップ名、テイク）を生成するものがあり、このデータを Ki Pro で収録することができます。CONFIG メニューのパラメータ 13.1 Camera Data は、この SDI 補助データの取り扱いを設定します。デフォルトは NONE で、この設定にすると Ki Pro に SDI 補助データを生成するカメラが接続されていても、カメラのメタデータは Ki Pro のパラメータに送られません。SDI 補助データを生成するカメラが接続されていて、適切なデータが出力されている場合、リストでそのカメラのメーカーとモデルが選択されていれば、カメラが出力しているメタデータを AJA がサポートできる範囲でできるだけ多く Ki Pro のタイムコード値、ファイル名など適用可能なパラメータに送られます。

13.1 CAMERA DATA		
NONE（デフォルト）		補助データを生成するカメラを Ki Pro に接続していても、Ki Pro パラメータにはカメラのメタデータは送られません。
RED One 24		カメラからの Red One 24 カメラ・メタデータは Ki Pro のタイムコード値、ファイル名など適用可能なパラメータに送られます。
RED One 25		カメラからの Red One 25 カメラ・メタデータは Ki Pro のタイムコード値、ファイル名など適用可能なパラメータに送られます。
RED Epic		カメラからの Red Epic カメラ・メタデータは Ki Pro のタイムコード値、ファイル名など適用可能なパラメータに送られます。
Canon XF		SDI 出力をもつ Canon XF シリーズは開始／停止コマンドとタイムコード値を生成する補助データを出力しますが、クリップ名は出力しません。
Canon C300		このカメラは開始／停止コマンドとタイムコード値を生成する補助データを出力しますが、クリップ名は出力しません。

このメニューパラメータは Ki Pro の他のパラメータより優先されます。有効な補助データが存在し、メニューパラメータから補助データを出力するカメラが選択されている場合、CAMERA DATA は他のパラメータより優先されます。

例：RED Epic が送信する補助データからリール名、クリップ名、テイク、タイムコード値が取得でき、Ki Pro 収録に送信されます。

リール：A230
 クリップ名：A230_C001_0714SW
 テイク：_001
 タイムコード値：20:11:05:12

Ki Pro 内では、メニューパラメータで 17.0 Reel Name が 001 に設定されていても、ファイルに書き込まれるリール名は A230 になります。

MEDIA メニューのパラメータ 17.0、17.2、17.3、17.4、17.5 の設定で生成される標準クリップ名は SC1ATK1 ですが、完全なファイル名は A230_C001_0714SW_001 になります。

CONFIG メニューのパラメータ 8.0、8.1、8.2 の設定に従って収録ファイル内に生成されるタイムコード値は 01:00:00:00 ですが、代わりに 20:11:05:12 になります。

さらに、補助データ内に開始／停止フラグが存在する場合、CONFIG メニューのパラメータ 8.3 ARM RECORDING で選択された値の代わりに、カメラの開始／停止フラグにより

開始／停止が実行されます（CAMERA DATA が選択されていても、REC KEY が常に有効な選択となります）。

混乱を避けるために、CONFIG あるいは MEDIA メニューのパラメータは変更されません。変更されるのはメディアに書き込まれるファイルのみです。例えばリール名などメタデータの一部が失われたとき、その他のパラメータについてはメタデータを書き込み、補助メタデータのないものの値は標準設定を使用します。従って、場合によってはファイルのクリップ名はカメラ収録に関連した名称なのに、カメラが生成したクリップと Ki Pro が生成したクリップではリール番号が異なっているということがあります。

カメラとの一体化使用をできるだけ複雑にしないためには、CONFIG と MEDIA メニューのパラメータでいくつものパラメータの設定をするのではなく、CONFIG メニューの 13.1 CAMERA DATA の設定のみを行います。

13.1 でサポートされるカメラについての重要なご注意

RED Epic : RED Epic で使用する場合、カメラに適切なゲンロック／基準信号を送り、Ki Pro の収録が RED Epic の収録と比較して正確なタイムコードで記録されるようにすることをお勧めします。適切な操作には、バージョン 1.6.24 以降の RED Epic をご使用ください。

RED One 24: この設定は、RED One 720p 59.94 出力から毎秒 23.98 フレームを抽出するためのものです。"24" は 23.98 に対するもので、ユーザインターフェイスの制約に対応します。RED One 使用時にタイムコードを Ki Pro で収録するには、タイムコードをタイムコード発生器経由でカメラに送る必要があります。この方法をとっても、タイムコード値の精度は ± 1 フレームになることに注意してください。適切な操作には、バージョン 31.6.16 以降の RED One をご使用ください。

RED One 25: RED One 使用時にタイムコードを Ki Pro で収録するには、タイムコードをタイムコード発生器経由でカメラに送信する必要があります。この方法をとっても、タイムコード値の精度は ± 1 フレームになることに注意してください。適切な操作には、バージョン 31.6.16 以降の RED One をご使用ください。

Canon XF: この CAMERA DATA パラメータには SDI を使用する必要があるため、SDI 出力を持つ XF シリーズのカメラのみがこの設定で使用できます。このカメラは開始／停止コマンドとタイムコード値を生成する補助データを出力しますが、クリップ名は出力しません。

Canon C300: このカメラは開始／停止コマンドとタイムコード値を生成する補助データを出力しますが、クリップ名は出力しません。Canon EOS C300 はデフォルトで 1080i を出力しますが、このインタレース出力内で True progressive ビデオを生成できます。カメラ側の設定が正しく、CAMERA DATA で Canon C300 が選択されていれば、1080i 29.97 から 1080p 23.98、1080i 30 から 1080p 24 が自動的に抽出されます。ユーザが RECORD TYPE パラメータを別個に手動で設定する必要はありません。しかし、カメラから 1080i 25 として出力される 1080p 25 と、1080i 29.97 として出力される 1080p 29.97 については、CAMERA DATA パラメータで Canon C300 を選んでいても、RECORD TYPE (1.1) メニューパラメータでユーザが手動で "PsF" を選択しなければなりません。これは、カメラの SDI 出力内にこのフレームレートを示す補助データが存在しないためです。

32.0 LOSS OF VIDEO

このパラメータは有効なビデオが存在しないとき、収録を継続するか否かを選択します。

注：CONT Rec を選択していて、ビデオが欠損していた場合、カラーバー上に LOSS OF VIDEO の文字が画像と一緒に表示されます。この場合、ビデオソースと接続を確認してください。

32.0 LOSS OF VIDEO	STOP Rec (デフォルト) CONT Rec	ビデオの欠損部分で収録が停止します。 ビデオの欠損部分があっても収録が継続します。
--------------------	------------------------------	----------------------------------------------

35.2 REMOTE CONTROL

外部機器によるリモートコントロールを有効または無効にします。RS422 を選択すると、外部 RS422 コントローラまたは NLE を使って Ki Pro をコントロールできます。FW を選択すると、Ki Pro に HDV カムコーダの開始/停止コマンドおよびタイムコードを送信できます。

35.2 REMOTE CONTROL	Local Only (デフォルト) RS422 Only FW Only	正面パネルまたは WEB UI で Ki Pro をコントロールします。 Ki Pro を RS-422 でコントロールします。 Ki Pro を FW でコントロールします。
---------------------	---------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

RS422 Only または FW Only が選択されているときは、その設定に応じて、CONFIG メニューのパラメータ 8.0 TC IN が自動的に設定されます。8.0 TC IN が RS422 に設定されているときは、Ki Pro は RS422 の IN 点タイムコード値を収録開始タイムコード値として受け付けます。

例：01:00:00:00 を IN 点として受け付け、この値が Ki Pro での収録の最初のフレームになります。8.0 TC IN が FW 400 に設定されていると、HDV カメラからのタイムコードを収録に使用します。HDV カメラに SDI タイムコードあるいは LTC タイムコード出力がないときに特に便利です。

注：RS422/FireWire デバイスのすべてがタイムコード値を送信するわけではありません。コントロールデバイスがタイムコードを送れない場合は、CONFIG メニューのパラメータ 8.0 TC IN で他のタイムコードソースを選択してください。

重要：Ki Pro は RS-422 の操作で再生機としても収録機としても使えますが、収録機として使う場合はアッセンブル編集だけに対応します。インサート編集には対応しません。Ki Pro はアッセンブル編集を実行するごとに新しいファイルを作成します。既存のファイルにインサートすることはできません。

Ki Pro はリモートコントロールで、ひとつのクリップだけを操作するか、ストレージモジュールのクリップをすべて操作することができます。RS-422 で操作できるクリップをひとつにするか、すべてにするかは、MEDIA メニューのパラメータ 15.1 PLAY MEDIA で指定します。

重要：無効なクリップやメディアがあるときに 15.1 PLAY MEDIA で "All" を選択すると、Ki Pro は動作が不安定になります。

注：RS-422 デバイスでの単一クリップのコントロールは、ノンリニアのキャプチャでクリップ全体を取得するために設計されたものです。Ki Pro は、単一クリップの最初のフレームのビデオの前と、最後のフレームのビデオの後にブラック / サイレンスを生成することができるために、この動作が可能になります。これによって、Ki Pro は In 点として取り込みを指定した最初のフレームか

ら、収録したビデオのクリップ全体を取得することができ、ビデオテープのようにノンリニア編集機に取り込んだテイクに十分なプリロールがとれないという状況を避けることができます。

MEDIA パラメータ 15.1 を "All" に設定すると、Ki Pro は最初のクリップの前と、最後のクリップの後にビデオのブラック / サイレンス以外の、ストレージモジュール上のすべてのクリップを作成順にすべて再生します。このように、Ki Pro はテープを使って収録を行う従来の VTR とよく似た動作をします。テープ収録と同じように、Ki Pro は順番に収録されたクリップの連続したタイムコードを表示しますが、異なる収録や不連続のタイムコード値で収録されたクリップのタイムコードも表示します。このような場合、タイムコードやログ、キャプチャした素材には、不連続なタイムコードのビデオテープを使用するときと同じような注意が必要です。

Ki Pro をリモートコントロールするには、他にもいくつかの注意点があります。メディアを Ki Pro にマウントすると、最後に収録されたクリップが表示されます。MEDIA パラメータ 15.1 PLAY MEDIA で "All" を選択している場合は、VTR に装着したビデオテープのテールアウトと同じで巻き戻しはされません。また MEDIA パラメータ 15.1 PLAY MEDIA で "One" を選択した場合は、Ki Pro の正面パネルの SELECT ボタンまたは WEB UI の Transport ページの SELECT ボタンでコントロールするクリップを選択します。

Ki Pro は停止時のデフォルト状態が E to E になっているので、ノンリニア編集機の入出力の両方が同時に Ki Pro に接続されている場合、E to E 状態を解除するには、Ki Pro での再生が必要です。この再生をリモートコントロールで開始した後は、その後の再生、停止 / ポーズは Ki Pro の操作通りに実行され、E to E にはなりません。

Ki Pro はファイルベースで動作するため、高速でクリップ間を行き来する際、ファイルの開閉による映像・音飛びが発生する場合があります。これは RS-422 コントロール下における Ki Pro の仕様であり、テープベースの VTR の動作とは明らかに異なります。

注： Apple の Final Cut Pro 7 または Avid の Media Composer と使用する際は、以下のメニューを使用することをお勧めします。

Final Cut Pro 7>Edit to Tape 、 Media Composer>Digital Cut

NLE の出力信号のみを Ki Pro に接続し、E to E フィードバックがループしないようにします。NLE と Ki Pro 両方の入力と出力が接続されていて、E to E モードになると、フィードバックがループすることがあります。

編集のプリロール中の頭出しエラーを防ぐには、再生を行う前に、Edit to Tape または Digital Cut ウィンドウに "00:00:00:00" のタイムコード値が表示されるようにします。これは、Ki Pro が完全な停止状態であることを示します。停止状態であることは、正面パネルの STOP ボタンが点滅 (PAUSE 状態) ではなく点灯していることで示されます。

41.1 VIDEO SG FRMT

このパラメータは、Ki Pro の内蔵テスト信号発生器が出力するビデオフォーマットを設定します。このパラメータは、パラメータ 41.2 と一緒に Ki Pro が出力するビデオテスト信号のタイプを設定します。

41.1 VIDEO SG FRMT	525i 29.97 (デフォルト) 625i 25 720p 50 720p 59.94 1080p 23.98 1080i 25 1080i 29.97 720p 60 1080PsF 23.98 1080PsF 24 1080i 30 1080p 24 1080p 25 1080p 29.97	出力テスト信号のビデオフォーマットを選択します。
--------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------

41.2 VIDEO SG

このパラメータは、Ki Pro の内蔵テスト信号発生器が出力するビデオ信号出力を設定します。パラメータ 41.1 と一緒に、Ki Pro が出力するビデオテスト信号のタイプを設定します。

41.2 VIDEO SG	OFF (デフォルト) Black 75% Bars 100% Bars	テスト信号の出力を OFF にします。 カラーブラックのビデオテスト信号を出力します。 75% カラーバーのビデオテスト信号を出力します。振幅 75%、サチュレーション 100% のテスト信号は、低い周波数特性や、ビデオのクランプと同じようにビデオのチルトのチェックに使用します。 100% カラーバーのビデオテスト信号を出力します。この 100% ホワイトフルフィールドバーのテスト信号は、総ビデオレベルに対するクロマの振幅のチェックに使用します。
---------------	---------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

41.3 AUDIO SG

このパラメータは、Ki Pro の内蔵テスト信号発生器が出力するオーディオ信号出力を設定します。

41.3 AUDIO SG	OFF (デフォルト) Silence 1 kHz	オーディオテスト信号の出力を OFF にします。 無音のオーディオテスト信号を出力します。 標準の 1 kHz のテストトーンを出力します。
---------------	---------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

50.1 IP CONFIG

このパラメータは、Ki Pro で使用する TCP/IP ネットワーク設定のタイプを定義します。

注： パラメータ 50.1、50.2、50.3 の編集中にタイムアウトになることはありません。変更はメニューを抜けたときに保存され有効になります。

50.1 IP CONFIG	STATIC ADDR	固定 IP アドレスを手動でアサインします。 (パラメータ 50.2、50.3、50.4 を入力して設定を完了させます。)
	DEFAULT ADDR	工場のデフォルト固定 IP アドレス 10.65.74.65 を使用します。
	DHCP (デフォルト)	アクセスポイントの DHCP サーバーから自動的にアサインされる IP アドレスを使用します。 注： Ki Pro が通信できる DHCP サーバを検出できない場合は、工場のデフォルト固定 IP アドレス 192.168.0.2 が使用されます。

50.2 IP ADDRESS

このパラメータは、Ki Pro が TCP/IP ネットワーク接続に使用する固定 IP アドレスを設定します。

50.2 IP ADDRESS	変数	使用する LAN と互換性のある IP アドレスがある場合は、ADJUST ボタンを使って入力します。コンピュータに直接接続している場合は、コンピュータの WEB ブラウザにも入力した有効な IP アドレスを入力します。この設定は、固定 IP アドレスを使用する場合のみ必要です。 50.1 を DHCP に設定して DHCP に不具合がある場合のデフォルトの IP アドレス：192.168.0.2 50.1 が Default Addr に設定されている場合のデフォルトの固定 IP アドレスは、10.65.74.65 です。
-----------------	----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注： パラメータ 50.2、50.3、50.4 で、ピリオドで区切られたオクテットの IP アドレス（例：90.0.181.0）を設定します。編集時は、SELECT ボタンでオクテットを選択し、次に ADJUST ボタンで数字を選択します。SELECT Up ボタンをもう一度押すと、次のオクテットに進みます。最後のオクテットを設定すると、アドレスが点滅します。SELECT Up ボタンを押すと設定が確定します。

これらのパラメータの編集では、設定を遡ることができます（編集箇所が最初のオクテットに戻るまで、SELECT Down ボタンを繰り返し押す）。最後のオクテットで編集を完了すると表示が点滅します。これは編集した IP アドレスを保存するか否かのプロンプトです。編集した IP アドレスを保存するには SELECT Up ボタンを、保存しないで終了するには SELECT Down ボタンを押します。

50.3 SUBNET MASK

このパラメータは、Ki Pro が TCP/IP ネットワーク接続に使用するサブネットマスクを設定します。

50.3 SUBNET MASK	変数	<p>使用する LAN と互換性のあるサブネットマスクがある場合は、ADJUST ボタンを使って入力します。この設定は、固定 IP アドレスを使用する場合のみ必要です。</p> <p>50.1 が DHCP に設定されている場合、デフォルトのサブネットマスクは DHCP サーバによってアサインされます。</p> <p>50.1 が Default Addr に設定されている場合のデフォルトのサブネットマスク：255.0.0.0</p>
------------------	----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

パラメータ 50.2 の IP アドレス編集についての「注」をお読みください。50.3、50.4 も同様です。

50.4 STATIC GATEWAY

このパラメータは、LAN に接続した Ki Pro が TCP/IP ネットワーク接続に使用するゲートウェイまたはルータを指定します。

50.4 STATIC GATEWAY	変数	<p>使用する LAN と互換性のあるゲートウェイがある場合は、ADJUST ボタンを使って入力します。この設定は、固定 IP アドレスを使用する場合のみ必要です。</p> <p>50.1 が DHCP に設定されている場合、デフォルトのゲートウェイは DHCP サーバによってアサインされます。</p> <p>50.1 が Default Addr に設定されている場合のデフォルトのゲートウェイ：10.0.0.1</p>
---------------------	----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注： デフォルトのゲートウェイを正しく設定しないと（ルータやゲートウェイの有無に関わらず）、WEB ブラウザで Ki Pro をコントロールできても、ネットワーク上で他の Ki Pro を見るできません。またゲートウェイを正しく設定しないと、WEB ページの検索機能 "Available Ki Pros—Click to Refresh" が正常に機能せず、ネットワーク上の他の Ki Pro をリストアップできません。

50.5 SYSTEM NAME

このパラメータは Ki Pro の名前を設定し、固有の識別子とします。この名称は、WEB インターフェイス 802.11b/g 経由でシステムを表示するとき、および Ki Pro のスクリーンセーバに表示するとき (70.1 SCREEN SAVER で SYSTEM NAME が選択されている場合) に使用されます。

50.5 SYSTEM NAME	変数	<p>ADJUST ボタンで Ki Pro の名前を入力します。ADJUST ボタンと SELECT Up ボタンで文字を選択し、最大 20 文字の名前を設定します。ADJUST ボタンで選択肢をスクロールし、SELECT Up ボタンで次の文字に進みます。文字を選択している間、設定中の文字が点滅して現在の選択位置を示します。使用できる文字 : 0 ~ 9、"-",".", A ~ Z (大文字)、a ~ z (小文字) デフォルト : AJA Ki Pro</p>
------------------	----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

50.6 MAC ADDRESS

このパラメータは、Ki Pro Ethernet アダプタの MAC アドレスを示す、情報のみのパラメータです。

50.6 MAC ADDRESS	情報表示のみ	<p>このパラメータを選択すると、Ki Pro の Ethernet MAC アドレスが表示されます。MAC アドレスは、内蔵の Ethernet アダプタに付けられた固有の値です。MAC アドレスは、ハードウェアアドレス、物理アドレスとも呼ばれます。MAC アドレスによって、同じ LAN 上のそれぞれの Ethernet アダプタを識別します。 MAC アドレスフォーマット : MM:MM:MM:SS:SS:SS 値は 12 桁の 16 進数で、最初の 6 桁が製造所、後半の 6 桁が固有のシリアル番号になります。Ki Pro は 2 つの MAC アドレスを持っています。1 つは 802.11 無線通信機用、もう 1 つは Ethernet アダプタ用です。パラメータ 25.0 では、無線通信機の MAC アドレスが表示されません。</p>
------------------	--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

50.7 802.11 MAC ADDRESS

このパラメータは、ワイヤレスアダプタの MAC アドレスを表示するだけの情報パラメータです。

50.7 802.11 MAC ADDRESS	情報表示のみ	<p>このパラメータを選択すると、Ki Pro の 802.11b/g MAC アドレスが表示されます。MAC アドレスは、無線通信機の内部ネットワークアダプタに付けられた固有の値です。MAC アドレスは、ハードウェアアドレス、物理アドレスとも呼ばれます。MAC アドレスによって、同じ LAN 上のそれぞれの Ethernet アダプタを識別します。 MAC アドレスフォーマット : MM:MM:MM:SS:SS:SS 値は 12 桁の 16 進数で、最初の 6 桁が製造所、後半の 6 桁が固有のシリアル番号になります。Ki Pro は 2 つの MAC アドレスを持っています。1 つは無線通信機用、もう 1 つは Ethernet アダプタ用です。パラメータ 50.6 では、Ethernet MAC アドレスが表示されます。</p>
-------------------------	--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

53.0 802.11 AVAILABLE

このパラメータは、Ki Pro が検出した使用可能なすべての 802.11 無線ネットワークを示します。ネットワークを選択すると、パラメータ 53.2 用のネットワークとして選択されます。

注： 選択した無線ネットワークのセキュリティについては、関連するパラメータ 53.3 と 53.5 で指定します。

53.0 802.11 AVAILABLE	情報表示	このパラメータを選択すると、Ki Pro の信号範囲内での 802.11 無線ネットワークを見ることができます。ADJUST ボタンでこのネットワークをスクロールすることができます。Ki Pro に接続したいネットワークが見つかった場合は、ADJUST ボタンを押すと、選択した無線ネットワークとしてパラメータ 53.2 (802.11NETWORK) へ送られます。
-----------------------	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

53.1 802.11 CONTROL

このパラメータは、Ki Pro をワイヤレスブラウザからコントロールするかどうかを決定します。802.11b/g コントロールを許可すると、内蔵の 802.11 無線通信機が ON になります。Ki Pro をコントロールできるように、パラメータ 53.2 ~ 53.5 を正しく設定してください。Ki Pro のワイヤレスコントロールには、接続した LAN 上に通信可能な無線アクセスポイントが必要です。

注： Ki Pro は 802.11 トランシーバを内蔵していますが、これは無線アクセスポイントではありません。ワイヤレスブラウザクライアントは、外部無線アクセスポイント (Airport Extreme Base Station など) を介して Ki Pro と通信します。また、802.11 無線通信機を ON にすると消費電力がアップしますので、バッテリーの消耗を抑えるため使用しないときは OFF にしてください。

53.1 802.11 CONTROL	DISABLED (デフォルト) ENABLED	Ki Pro の無線コントロールを無効にします。 Ki Pro の無線 802.11 コントロールを有効にします。
---------------------	-----------------------------	--------------------------------------------------------------



注意：

802.11b/g 通信機は、デフォルトでは OFF になっており、公式なアクセスポイントがある場合にのみ ON にすることができます。

Ki Pro をブラウザからコントロール (有線または無線) する方法については、第 4 章「ブラウザからのリモートコントロール」で説明します。Ki Pro を無線コントロールする場合、あらかじめ下記の操作が必要です。

- 無線通信機を ON にする (53.1)。
- パラメータ 53.3 で、Ki Pro とワイヤレスブラウザクライアント間のセキュリティを設定する。
- パラメータ 53.4 でワイヤレスブラウザクライアントに必要なパスワードを設定する。
- Ki Pro を LAN とワイヤレスブラウザクライアントに接続する無線アクセスポイントを選択する (54.1 ~ 54.3)。アクセスポイントには、規定の 802.11b/g ネットワーク名があります。

53.2 802.11 NETWORK

このパラメータは、Ki Pro がアクセスポイントを介して接続する無線ネットワークまたは SSID を定義します。

53.2 802.11 NETWORK	変数	ADJUST ボタンを使用して、Ki Pro が接続する有効な無線ネットワーク名 (SSID) を入力します。ADJUST ボタンと SELECT Up ボタンを使ってパスワードを入力します。ADJUST ボタンで選択肢をスクロールし、SELECT Up ボタンで次の文字に進みます。文字を選択している間、設定中の文字が点滅して現在の選択位置を示します。使用できる文字: "-", ".", A ~ Z (大文字)、a ~ z (小文字)
---------------------	----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

53.3 802.11 SECURITY

このパラメータは、Ki Pro とアクセスポイント (およびワイヤレスブラウザクライアント) 間で使用されるセキュリティ (暗号化 / フォーマット) のタイプを指定します。

53.3 802.11 SECURITY	DISABLED (デフォルト) WEP WPA WPA2	セキュリティは使用しません。パスワードは不要です。WEP パケットとストリームの暗号化を使用します。WPA パケットとストリームの暗号化を使用します。WPA2 パケットとストリームの暗号化を使用します。 注: WEP は入門レベルの暗号化です。WPA のほうが優れており、WPA2 が 3 つの中では最も優れています。
----------------------	----------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

53.4 802.11 PASSWORD

このパラメータは、Ki Pro とアクセスポイント (およびワイヤレスブラウザクライアント) 間で使用されるパスワードを指定します。

53.4 802.11 PASSWORD	変数	ADJUST ボタンで Ki Pro のパスワードを入力します。ADJUST ボタンと SELECT Up ボタンを使ってパスワードを入力します。ADJUST ボタンで選択肢をスクロールし、SELECT Up ボタンで次の文字に進みます。文字を選択している間、設定中の文字が点滅して現在の選択位置を示します。使用できる文字: 0 ~ 9, "-", ".", A ~ Z (大文字)、a ~ z (小文字) パスワードは、最大 20 文字です。
----------------------	----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

53.5 HIDE 802.11 PASSWORD

このパラメータは、53.4 で設定したパスワードを正面パネルまたは WEB ブラウザの UI で見えるようにするかどうかを設定します。

54.1 HIDE 802.11 PASSWORD	ON OFF (デフォルト)	パスワードを表示しません (アスタリスクで表示)。パスワードを表示します。
---------------------------	-------------------	---------------------------------------

注: ON (パスワード非表示) を選択したあと、パラメータを OFF に戻しても、パスワードは表示されません。表示するには、パラメータに入り直してください。

54.1 802.11 IP CONFIG

このパラメータは、Ki Pro のワイヤレス 802.11 トランシーバで使用する TCP/IP のネットワーク設定のタイプを定義します。

注： 編集中にタイムアウトになることはありません。変更はメニューを抜けたときに保存され有効になります。

54.1 802.11 IP CONFIG	DHCP (デフォルト)	アクセスポイントの DHCP サーバーから自動的にアサインされる IP アドレスを使用します。
	STATIC ADDR	固定 IP アドレスを手動でアサインします (パラメータ 54.2 と 54.3 も入力する必要があります)。

54.2 802.11 IP ADDRESS

このパラメータは、Ki Pro の 802.11 トランシーバが使用する固定 IP アドレスを設定します。

54.2 802.11 IP ADDRESS	変数	使用する LAN と互換性のある IP アドレスがある場合は、ADJUST ボタンを使って入力します。この設定は、固定 IP アドレスを使用する場合のみ必要です。
------------------------	----	-----------------------------------------------------------------------------------

注： パラメータ 54.2、54.3 で、ピリオドで区切られたオクテットの IP アドレス (例: 90.0.181.0) を設定します。編集時は、SELECT ボタンでオクテットを選択し、次に ADJUST ボタンで数字を選択します。SELECT Up ボタンをもう一度押すと、次のオクテットに進みます。最後のオクテットを設定すると、アドレスが点滅します。SELECT Up ボタンを押すと設定が確定します。これらのパラメータの編集では、設定を遡ることができません (編集箇所が最初のオクテットに戻るまで、SELECT Down ボタンを繰り返し押す)。最後のオクテットで編集を完了すると表示が点滅します。これは編集した IP アドレスを保存するか否かのプロンプトです。編集した IP アドレスを保存するには SELECT Up ボタンを、保存しないで終了するには SELECT Down ボタンを押します。

54.3 802.11 DHCP MASK

このパラメータは、Ki Pro のワイヤレス 802.11 トランシーバが使用するサブネットマスクを設定します。

54.3 802.11 DHCP MASK	変数	使用するアクセスポイントと互換性のあるサブネットマスクがある場合は、ADJUST ボタンを使って入力します。この設定は、固定 IP アドレスを使用する場合のみ必要です。 54.1 が DHCP に設定されている場合のデフォルトのサブネットマスクは、255.255.255.0 です。
-----------------------	----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

55.4 DATE SET

このパラメータは、Ki Pro の内蔵クロックの日付を手動で設定します。値は、YYYY/MM/DD（年 / 月 / 日）の形式で定義します。

55.4 DATE SET	変数	<p>ADJUST ボタンで Ki Pro のカレンダーの日付を入力します。ADJUST ボタンと SELECT Up ボタンを使って文字を選択して、年月日（YYYY/MM/DD）を設定します。ADJUST ボタンで選択肢をスクロールし、SELECT Up ボタンで次の文字に進みます。文字を選択している間、設定中の文字が点滅して現在の選択位置を示します。最後の桁まで設定して SELECT Up ボタンを押すと全文字が点滅します。SELECT ボタンをもう一度押して確定すると、次のパラメータが表示されます。</p>
---------------	----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

55.6 TIME SET

このパラメータは、NTP を使用せず、Ki Pro 内蔵の時計の時刻を手動で設定するときに使用します。

55.6 TIME SET	変数	<p>ADJUST ボタンで Ki Pro 内蔵の時計の時刻を入力します。ADJUST ボタンと SELECT Up ボタンを使って文字を選択して、それぞれの桁（時 / 分）を設定します。ADJUST ボタンで選択肢をスクロールし、SELECT Up ボタンで次の文字に進みます。文字を選択している間、設定中の文字が点滅して現在の選択位置を示します。最後の桁まで設定して SELECT Up ボタンを押すと全文字が点滅します。SELECT ボタンをもう一度押して確定すると、次のパラメータが表示されます。時刻は 24 時間式で、GMT に合わせてください。</p> <p>注： 現地時間を GMT (UTC) に変換する方法を紹介した WEB サイトは数多く存在します。AJA で特に承認したサイトはありませんが、例を 2 つ紹介します。</p> <p>http://tycho.usno.navy.mil/zones.html http://hurricanes.noaa.gov/zulu-utc.html</p>
---------------	----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

70.1 SCREEN SAVER

AJA Logo に設定すると、3 分以上正面パネルを操作しなかった場合、ディスプレイに AJA ロゴがローリングするスクリーンセーバーが表示されます。スクリーンセーバーは、STATUS ボタンまたは STOP ボタンを押して消すことができます。

70.1 SCREEN SAVER	ON (AJA LOGO : デフォルト) OFF SYSTEM NAM	<p>ボタンを 3 分間操作しないと、水平方向にローリングする AJA ロゴが表示されます。スクリーンセーバーは動作しません。パラメータ 50.5 で規定した Ki Pro のシステム名が表示されます。</p>
-------------------	--------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

注： 再生や収録など、トランスポート動作中はスクリーンセーバーは表示されません。

70.2 DISPLAY INTENSITY

このパラメータは、正面パネルの VFD の文字表示とボタンのバックライトの明るさを設定します。表示を暗くすると、消費電力を抑えることができます。

70.2 DISPLAY INTENSITY	変数	ADJUST ボタンを使って、文字表示の明るさと動作表示用 LED の明るさを、1（暗い）から 8（明るい）で設定します。 デフォルト：6
------------------------	----	------------------------------------------------------------------------------

70.3 FAN SPEED

このパラメータは、Ki Pro 内蔵の冷却ファンの回転速度を設定します。Ki Pro の近くでオーディオ収録が行われている状況など、ファンの速度を QUIET RECORD に設定して動作音を抑えたほうがよい場合があります。

70.3 FAN SPEED	NORMAL（デフォルト） QUIET RECORD QUIET AUTO NORMAL AUTO	最適な冷却効果を保つために、ファンは一定の標準速度で動作します。 動作音が小さくなるように、ファンは一定の低速度で動作します。 収録が始まるまではファンは標準速度で動作し、収録が始まると動作音が小さくなるように、ファンは速度を落として動作します。 最適な冷却効果を保つために、ファンの速度が変化します。
----------------	------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

80.1 SERIAL NUMBER

このパラメータは、Ki Pro の個別のシリアル番号を表示します。

80.2 SW VERSION

このパラメータは、Ki Pro のソフトウェアのバージョンを表示します。

91.1 RECALL PRESET

このパラメータは、パラメータ 92.1 を使って保存したプリセット設定を Ki Pro に呼び出すときに使います。

ADJUST ボタンを使って、呼び出したいプリセット登録番号を設定してください。SELECT Up ボタンを押して呼び出してから、ADJUST Up ボタンを押します。呼び出しが成功すると、“COMPLETE” のメッセージが表示されます。

92.1 STORE PRESET

このパラメータでは、プリセット設定を任意の登録番号に保存します。ADJUST ボタンを使って、プリセット登録番号を設定してください。

SELECT Up ボタンを押して保存してから、ADJUST Up ボタンを押します。保存が成功すると、“COMPLETE” のメッセージが表示されます。

99.1 FACTORY RESET

このパラメータを選択し、ADJUST Up ボタンを 2 秒間押すと、Ki Pro が工場出荷時のデフォルトの設定に戻ります。



注意：

このパラメータを選択して工場のデフォルトを呼び出すと、現在の設定は上書きされます（例外として、ネットワーク設定は保持されます。）

工場のデフォルト値を呼びだしても、IP CONFIG、IP ADDRESS、SUBNET MASK、GATEWAY、SYSTEM NAME、802.11 CONTROL などのネットワーク設定、および日付・時刻の設定は変更されません。ネットワーク設定をクリアして工場のデフォルトに戻すには、ADJUST Up と ADJUST Down ボタンを同時に押します。

注： ひとつのパラメータだけを工場のデフォルト値にするには、パラメータを選択して ADJUST Up ボタンと ADJUST Down ボタンを同時に押します。

第4章 ブラウザからの リモートコントロール

リモートコントロールの概要

Ki Pro 内蔵の高性能 WEB サーバを使用することによって、ネットワークにケーブル接続されたコンピュータもしくはワイヤレス機器のどちらからでも、ブラウザクライアントを介して離れた場所から、Ki Pro のパラメータの設定を確認・変更することができます。ネットワークは、クローズド LAN でも、コンピュータとの直接接続でもかまいません。（ファイアウォールを通してブロードバンド WAN に接続することもできますが、インターネットを介して誰でも Ki Pro にアクセスできるためお勧めできません。）無線ネットワークが必要なときは、LAN の 802.11 アクセスポイントを介して、Apple iPhone や Apple iPod Touch、または 802.11b/g 対応のラップトップなどのワイヤレスブラウザクライアントと通信することができます。

LAN 接続には、標準 RJ45 コネクタを使用します。内部的にはインテリジェントで、標準ストレート CAT5 Ethernet ケーブルまたはヌルモデム（クロス）ケーブルを使用するだけで、それ以上の調整や配線は必要ありません。

注： Safari は Ki Pro のコントロールをサポートしているウェブブラウザです。他のウェブブラウザでも使用できるものがありますが、AJA はすべてのウェブブラウザの全バージョンについて安定した動作を保証してはいません。

設定値を工場設定に戻す

Ki Pro を工場設定値に戻すのは簡単です。Ki Pro を工場設定にグローバルリセットするには、Ki Pro 本体の正面パネルで CONFIG パラメータ 99.1 を呼び出して工場設定値にリセットしてください。また、Presets ブラウザメニューを選んで、プリセットのリストの一番下までスクロールし、Recall Factory Preset をクリックしても工場設定値にリセットできます。

Ethernet 経由の WEB ブラウザ

ケーブル接続されたインターネットを介してKi Proをコントロールする場合は、CAT5 Ethernet ケーブルを使用して Ki Pro の LAN コネクタ (RJ45 端子) にコンピュータを接続します。

WEB ブラウザに Ki Pro の URL を入力するだけで、Ki Pro にアクセスすることができます。URL は、Ki Pro のネットワーク設定用パラメータ 50.2 で定義した IP アドレスです (ネットワークで Ki Pro にアクセスするためにはパラメータ 50.1 ~ 50.4 を正しく設定する必要があります)。Ki Pro が DHCP (デフォルト) を使用している場合は、パラメータ 50.2 を参照することによって、IP アドレスを確認することができます。工場出荷時は、デフォルトで DHCP に設定されています。

50.1 が DHCP に設定されていて、ネットワーク上の DHCP サーバが IP アドレスの割当に失敗した場合、Ki Pro は固定 IP アドレスに戻ります。

50.1 が Default Addr に設定されている場合、工場出荷時のデフォルトの固定 IP アドレスは 10.65.74.65 です。

50.1 が Default Addr に設定されている場合、WEB ブラウザに `http://10.65.74.65` を入力すると、Ki Pro の WEB インターフェイスのメイン画面 (Status 画面) が表示されます。

共通画面情報

Ki Pro の WEB 画面は、いくつかの共通のエリアで構成されています。画面左側にはメニューパネルがあり、Ki Pro の全画面の一覧を表示しています。一覧のいずれかをクリックすると、それぞれの画面にジャンプします。画面右側には接続パネルがあります。ここには接続状況と、Ki Pro のシリアル番号およびソフトウェアバージョンが表示されます。シリアル番号とソフトウェアバージョンは、AJA テクニカルサポートに連絡して、問題点を確認したり、アドバイスを求める必要が生じた場合に使います。接続パネルの下にはネットワークパネルがあってネットワーク上の Ki Pro システムが表示され、システム間の切り替えが可能です。複数の Ki Pro の使用についての補足情報は、本章の後ろ "[複数の Ki Pro のコントロール](#)" (107 ページ) をご参照ください。画面中央には、表示されている画面で設定できる項目や関連する情報が表示されます。(例: Media 画面には使用中のメディアフォーマットの選択項目が表示されます。)

WEB 画面は、Ki Pro の正面パネルに表示されるパラメータメニューとまったく同じです。以下に示す画面のそれぞれで、対応するパラメータメニューの番号を記載してありますので、詳しくは第 3 章の対応する項目を参照してください。Status 画面の右側に表示されているパラメータ設定は、右クリックして設定値を変更することができます。

Ki Pro 設定メニューのリスト:
どれかひとつをクリックして、
画面を表示させます。

設定項目と情報

シリアル番号、ソフトウェアの
バージョン、接続状況

I/O Status	
Video Input	SDI
Input Format	525i 29.97
Input Timecode	01:00:32:29
Record Format	525i 29.97 ProRes 422
Audio Input	SDI

アラーム表示

LAN 上の Ki Pro のリスト:
矢印かギアアイコンをクリックして
ネットワークリストと情報の表示/
非表示を切り替え

Ki Pro WEB インターフェイス、メイン画面 (Status 画面)

Config 画面

Config 画面は、Ki Pro の入出力やコンバージョンの設定、および動作環境（名称、時計設定、表示など）の設定に使用される汎用画面です。



Ki Pro WEB インターフェイス、Config 画面

注：以下の WEB コントロール画面の説明では、第 3 章におけるパラメータ説明の番号に対応する番号を括弧内に示します。選択肢やそれぞれの意味については、第 3 章を参照してください。

Record Type (1.1) : このパラメータは、収録するメディアのフレーム収録形式を指定します。入力ビデオ信号を通常通り PsF 信号として収録するか（例：入力ソースが 1080PsF29.97 の場合など）、SD-SDI/HD-SDI 入力（例：Varicam）を可変フレームレートで収録する VFR にするかを設定します。

1080p Playback (1.3) : このパラメータは、再生するメディアが 1080p または PsF の場合に、フレーム形式を指定します。収録に関係なく標準 1080p プログレッシブフレームにするか、1080 プログレッシブセグメントフレームにするかを選択します。

In Convert (1.4) : このパラメータは、選択した入力に、収録時に適用するコンバージョンのタイプ（アップ、ダウン、クロス、またはアスペクト比）を、必要に応じて指定します。None、SD、HD 720、HD 1080 から選択します。

Out Convert (1.5) : このパラメータは、出力に適用するコンバージョンのタイプ（アップ、ダウン、クロス、またはアスペクト比）を、必要に応じて指定します。None、SD、HD 720、HD 1080 から選択します。

SDI Output (1.6) : このパラメータは、SDI 出力をファイルフォーマットと一致させるか、OUT CONVERT (1.5) 設定を適用するかを指定します。

- Component Output (1.7) : このパラメータは、コンポーネントビデオ出力をファイルフォーマットと一致させるか、OUT CONVERT (1.5) 設定を適用するかを指定します。
- HDMI Output (1.8) : このパラメータは、HDMI 出力をファイルフォーマットと一致させるか、OUT CONVERT (1.5) 設定を適用するかを指定します。
- Super Out (1.9) : このパラメータは SDI 出力にタイムコードとトランスポートの状態 (収録、ポーズなど) をスーパーインポーズするかどうかを設定します。
- Video Input (2.1) : このパラメータは、ビデオ入力コネクタに接続されているビデオ入力ソースを選択します。このビデオソースは、収録やパススルー出力に使用されます。
- Audio Input (2.2) : このパラメータは、オーディオ入力コネクタに接続されているオーディオ入力ソースを選択します。このオーディオソースは、収録やパススルー出力に使用します。
- Audio Channels (2.3) : このパラメータは、SDI エンベデッドオーディオを 2 チャンネル、8 チャンネルのどちらにするか選択します。
- Component In Level (3.1) : このパラメータは、コンポーネントビデオ入力コネクタの信号入力レベルを選択します。
- Component Out Level (3.2) : このパラメータは、コンポーネントビデオ出力コネクタの信号出力レベルを選択します。
- NTSC Config (3.4) : このパラメータは、コンポジットビデオ出力コネクタの出力レベルを選択します。
- Analog Audio (4.1) : このパラメータは、入力および出力用のアナログオーディオ信号レベルを設定します。業務用オーディオ機器は、0 VU 表示が +4 dBu に相当するなど、コンシューマ機器に比べて高いレベルに対応しています。業務用の +4 dBu 機器をコンシューマ機器の -10dBV (-7.8 dBu) のオーディオ入力に接続するとオーバーロードになる場合があります。一方コンシューマ機器の出力では、業務用機器のオーディオ入力に必要なパワーが得られない場合があります。コンシューマ機器やセミプロ用オーディオ機器では、0 dB の VU 表示は通常 -10 dBV に相当します (0 dBu=0.775 VRMS)。
- Upconversion(5.1) : パラメータ 1.4 ~ 1.8 で SD からのアップコンバートを選択したとき、このパラメータでアップコンバートのタイプを選択します。
- Downconversion(5.2) : パラメータ 1.4 ~ 1.8 で HD からのダウンコンバートを選択したとき、このパラメータでダウンコンバートのタイプを選択します。
- Genlock Source (6.1) : このパラメータは、再生中にゲンロックとして使用するリファレンスビデオのソースを選択します。
- TC In (8.0) : このパラメータは、タイムコードのソースを選択します。使用可能なタイムコードソースは、パラメータ 8.1 で指定した TC 値、SDI RP188 入力、LTC 入力、FireWire 400 リモート入力、または時刻です。
- TC Value (8.1) : 8.0 が TC Value に設定されているときのタイムコードの開始時間をこのパラメータで選択します。
- TC Type (8.2) : このパラメータは、ドロップフレームタイムコードかノンドロップフレームタイムコードかを選択します。

Arm Recording (8.3) : このパラメータは収録を、RECORD ボタン（本体または WEB 経由）を押して開始するか、入力されたタイムコードの歩進にあわせて開始するか、LANC データによるコントロールで開始するかを選択します。タイムコードを使って開始する場合は、パラメータ 8.0、8.1、8.2 でタイムコードのソースとタイプを指定します。タイムコードまたは LANC が選択されているときでも RECORD ボタンは有効で、押して収録を開始することができます。

Camera Data (13.1) : このパラメータは、カメラから発生される補助データをコントロールします。カメラには補助データ（例：開始／停止コマンド、タイムコード、リール名、クリップ名、テイク）を生成するものがあり、このデータを Ki Pro での収録用に送信することができます。NONE 以外の設定が選択され、適切なカメラが適切な補助データを送信していれば、カメラからのメタデータは Ki Pro のタイムコード値、ファイル名などの対応するパラメータに送られます。詳しくは、第 3 章 Config パラメータの 13.1 CAMERA DATA をご覧ください。

Loss of Video (32.0) : このパラメータは有効なビデオが存在しないとき、収録を継続するかどうかを選択します。

Remote Control (35.2) : 外部機器によるリモートコントロールを有効／無効にします。RS422 を選択すると、外部 RS422 コントローラまたは NLE を使って Ki Pro をコントロールできます。FW を選択すると、Ki Pro に HDV カムコーダの開始／停止コマンドおよびタイムコードを送信できます。

RS422 Only または FW Only が選択されているときは、その設定に応じて、CONFIG メニューのパラメータ 8.0 TC IN が自動的に設定されます。8.0 TC IN が RS422 に設定されているときは、Ki Pro は RS422 の IN 点タイムコード値を収録開始タイムコード値として受け付けます。

例：01:00:00:00 を IN 点として受け付け、この値が Ki Pro での収録の最初のフレームになります。

8.0 TC IN が FW 400 に設定されていると、HDV カメラからのタイムコードを収録に使用します。HDV カメラに SDI タイムコードあるいは LTC タイムコード出力がないときに特に便利です。

この操作は、第 3 章の CONFIG パラメータ 35.2 Remote Control で詳しく説明しています。

Video SG Format (41.1) : このパラメータは、Ki Pro の内蔵テスト信号発生器が出力するビデオフォーマットを設定します。

Video SG (41.2) : このパラメータは、Ki Pro の内蔵テスト信号発生器が出力するビデオ信号出力を設定します。このパラメータは、パラメータ 41.1 と一緒に Ki Pro が出力するビデオテスト信号のタイプを設定します。

Audio SG (41.3) : このパラメータは、Ki Pro の内蔵テスト信号発生器が出力するオーディオ信号（OFF、無音、1 kHz トーン）を設定します。

System Name (50.5) : このパラメータは Ki Pro の名前を設定し、固有の識別子とします。この名称は、WEB インターフェイスでシステムを表示するとき、および Ki Pro のスクリーンセーバに表示するとき（70.1 Screen Saver で System Name が選択されている場合）に使用されます。

Date Set (55.4/55.6) : このパラメータは、Ki Pro の内蔵クロックの日付と時間を手動で設定します。日付および時間フィールドを編集し、Apply をクリックして確定してください。

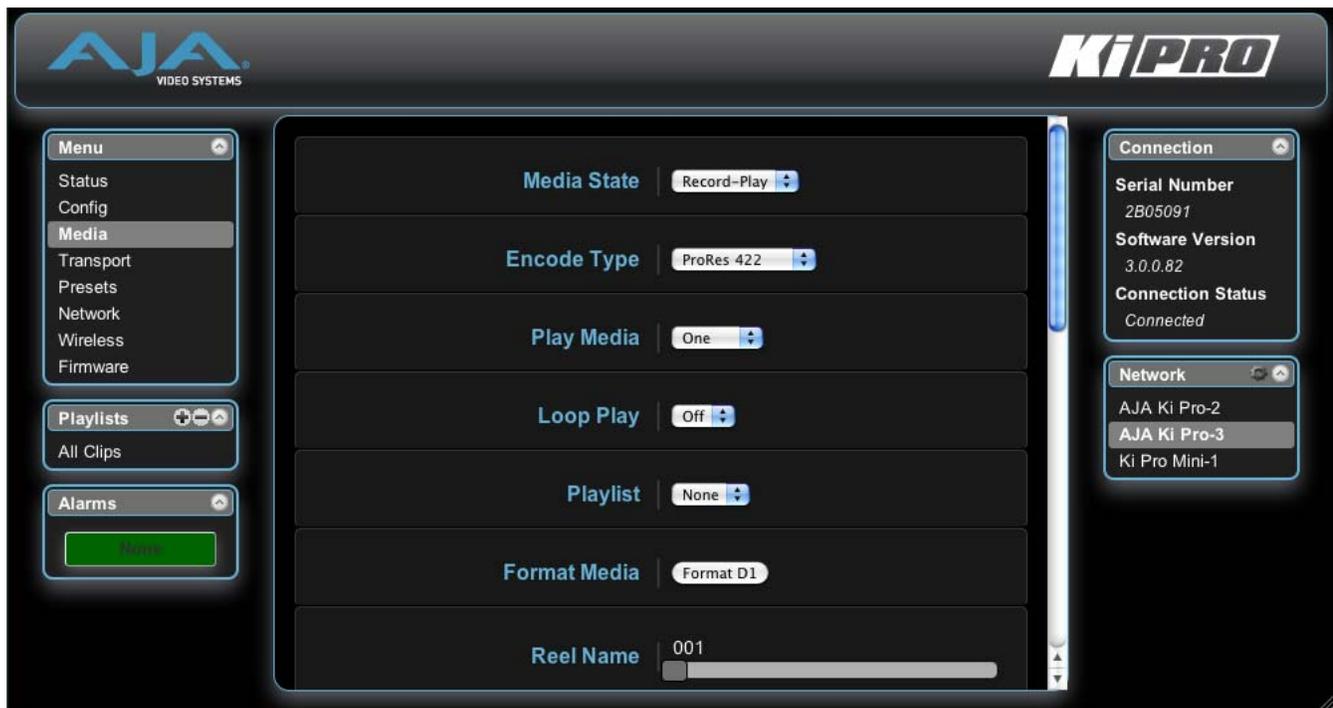
Screen Saver (70.1) : AJA Logo に設定すると、3 分以上正面パネルを操作しなかった場合、ディスプレイに AJA ロゴがローリングするスクリーンセーバーが表示されます。

Display Intensity (70.2) : このパラメータは、正面パネルの文字表示とボタンのバックライトの明るさを設定します。

Fan Speed (70.3) : このパラメータは、Ki Pro 内蔵の冷却ファンの回転速度を設定します。Ki Pro の近くでオーディオ収録が行われている状況など、ファンの速度を QUIET AUTO か QUIET RECORD に設定して動作音を抑えたほうがよい場合があります。

Media 画面

この画面では、ストレージメディアのフォーマット、Apple ProRes 422 エンコードタイプ、リールやクリップの定義など、メディアに関連する様々な機能を設定します。



Ki Pro WEB インターフェイス、Media 画面

Media State (12.1) : このパラメータは、ビデオやオーディオの収録または Ethernet LAN もしくは FireWire 800 (FW) を使ったデータ送信にメディアを使用するかどうかを設定します。

Encode Type (14.1) : このパラメータは、Apple ProRes エンコード方式を指定します。

Play Media (15.1) : このパラメータは、再生時の動作を指定します。再生ボタンを押したとき、クリップを1つだけ再生するのか、メディア上のすべてのクリップ (All) を再生するのか、プレイリスト (Playlist) を再生するのかを選択します。詳しくは、第3章のパラメータ 15.1 PLAY MEDIA を参照してください。

Loop Play (15.2) : このパラメータは、ループ再生を ON/OFF します。

Playlist (15.3) : このパラメータは再生するプレイリストを指定します。

Format Media (16.1) : このパラメータは、現在選択されているストレージデバイスをフォーマットするときに使用します。

Reel Name (17.0) : リール名は 1 ~ 999 までの番号です。クリップに付加されるリール名を指定します。Mac OSX デスクトップにストレージデータデバイス (ストレージモジュールまたは ExpressCard/34 メモリーカード) がマウントされているとき、メディア名として表示されます。番号を指定するには、指定したい番号をクリックしてハイライトし、希望の値をタイプし、Enter を押して確定します。スライダをクリックしてからドラッグして、番号を指定することもできます。スライダを使って数字を 1 ずつ増減したいときは、スライダをクリックしてハイライトし、キーボード上の下矢印または上矢印キーを押します。

Clip Name (17.2) : このパラメータで、クリップに付加されるクリップ名を指定します。変更するまで、以後生成されるすべてのクリップに適用されます。クリップ名は、Clip または SC です。

Clip Number (17.3) : このパラメータは、クリップ名に続くクリップ番号 (1 ~ 999) を指定します。変更するまで、以後生成されるすべてのクリップに適用されます。番号を指定するには、指定したい番号をクリックしてハイライトし、希望の値をタイプし、Enter を押して確定します。スライダをクリックしてからドラッグして、番号を指定することもできます。スライダを使って数字を 1 ずつ増減したいときは、スライダをクリックしてハイライトし、キーボード上の下矢印または上矢印キーを押します。

Clip Append (17.4) : このパラメータは、パラメータ 17.5 Alpha Append と組み合わせて使用し、クリップ番号の後にアルファベットを付加するかどうかを決定します。

Alpha Append (17.5) : このパラメータは、パラメータ 17.4 Clip Append と組み合わせて使用し、クリップ番号の後にアルファベットを付加します。

Take (17.8) : このパラメータは、クリップ名、クリップ番号に続く、テイク番号 (1 ~ 999) を指定します。ALPHA APPEND を選択した場合は、テイク番号の後に付加されます。変更するまで、以後生成されるすべてのクリップに適用されます。番号を指定するには、指定したい番号をクリックしてハイライトし、希望の値をタイプし、Enter を押して確定します。スライダをクリックしてからドラッグして、番号を指定することもできます。スライダを使って数字を 1 ずつ増減したいときは、スライダをクリックしてハイライトし、キーボード上の下矢印または上矢印キーを押します。

Use Custom Clip Name (19.1) : このパラメータは、カスタムクリップ名を使うかどうかを設定します。詳しくは、第 3 章の「カスタムクリップネーミング」を参照してください。

Custom Clip Name (19.2) : このパラメータはカスタムクリップ名を入力するために使用します。入力には、デフォルト名 Custom をクリックし、新しい名称をタイプします。入力した後、Apply ボタンをクリックし、名前を使用できるようにします。

Use Custom Clip Take (19.3) : このパラメータは、カスタムクリップテイク名を使うかどうかを設定します。詳しくは、第 3 章の「カスタムクリップネーミング」を参照してください。

**注意：**

カスタムクリップ名を変更せず、"CUSTOM CLIP TAKE" パラメータを "ON" に設定すると、ディスク上の既存のクリップは上書きされます。例：最初の収録の名前を "Flying" にして、"CUSTOM CLIP TAKE" パラメータを "ON" に設定し、カスタムクリップ名を "Flying" のままで 2 番目の収録をすると、最初の収録内容は 2 番目の収録で上書きされます。AJA はカスタムクリップテイクを使用しないことを通常はお勧めしませんが、既存のファイルを上書きしたほうがいい場合もあります。

注: Custom Clip Take の設定は WEB UI 経由でのみ可能で、リブート後は設定がリセットされます。

Custom Take (19.4) : このパラメータはカスタムテイク番号を設定するために使用します。入力した後、Apply ボタンをクリックし、番号を使用できるようにします。番号を指定するには、指定したい番号をクリックしてハイライトし、希望の値をタイプし、Enter を押して確定します。スライダをクリックしてからドラッグして、番号を指定することもできます。スライダを使って数字を 1 ずつ増減したいときは、スライダをクリックしてハイライトし、キーボード上の下矢印または上矢印キーを押します。

Gang Clip Name (22.1) : このパラメータは、複数の Ki Pro を使ったギャングレコーディング（本書の「Ki Pro の複数台コントロール」を参照）を実行するときを使用します。ギャングレコーディングで、すべての Ki Pro でクリップ名を同じにしたいときは、プルダウン選択肢から "Master Name" を選択します。それぞれの Ki Pro で別々のクリップ名を使用したいときは、プルダウン選択肢から "Slave Name" を選択します。"Slave Name" を選択すると、収録は各 Ki Pro のパラメータで設定した名前で実行され、Master Ki Pro から送られてきた名前は受け付けません。詳しくは、第 3 章の「カスタムクリップネーミング」を参照してください。

Transport 画面

この画面は、Ki Pro の操作パネルにあるトランスポートボタンと同様に、収録、再生、早送り、巻き戻し、停止のコントロールに使用します。また、この画面には Ki Pro の正面パネルのディスプレイに表示されるのと同じ内容が表示されますので、Ki Pro オペレータやカメラマンが見ている表示をそのまま見ることができます。



Ki Pro WEB インターフェイス、Transport 画面

STOP ■ : 再生などのメディア操作 (PLAY、FF、REV、RECORD) を停止させるとき STOP を押します。停止すると、停止させたクリップの現在点が表示されます。1 回目に押したときは PAUSE (一時停止) ボタンとしての機能になります。もう 1 回押すと、Ki Pro は E to E モードになります。

PLAY > : PLAY ボタンを押すと、現在のクリップを標準速度で再生します。

RECORD ● : 収録を開始するとき、赤い RECORD ボタンを押します。RECORD モードに入ると、STOP ボタンを除く他の動作ボタンはロックされます。

FFWD >> : F FWD ボタンを押すと、現在のクリップの高速再生が始まります。押すごとに、2 倍速から、4 倍速、8 倍速、16 倍速に切り替わります。(16 倍速になったあとは、ボタンを押しても動作は切り替わりません。) 高速再生中は、オーディオはミュートされます。

REV << : 点灯していないときにこのボタンを押すと、現在のクリップのリバース再生が始まります。押すごとに、1 倍速から、2 倍速、4 倍速、8 倍速、16 倍速に切り替わります。(16 倍速になったあとは、ボタンを押しても動作は切り替わりません。) リバース再生中は、オーディオはミュートされます。

SELECT (up/down) : トランスポートメニューでは、SELECT ボタンは、クリップ選択の前キー、次キーとして機能します。クリップを選択すると、クリップの先頭が頭出しされます。クリップの再生順は、クリップの名称ではなく、タイムスタンプ (作成日時) に基づいて決定されます。

ADJUST (up/down) : トランスポートメニューで STOP モードになっているときは、ADJUST ボタンを押すごとに現在のクリップが 1 フレームずつフレーム送りされます (Up ボタン : 正方向、Down ボタン : 逆方向)。

DELETE CLIP : 現在選択されているクリップを削除するときのみ使用します。押すと、確認メッセージ "ARE YOU SURE?" が表示されます。

SLOT : このボタンには2つの用途があります。ストレージモジュールスロットまたは ExpressCard スロット (バージョン 3.0 ではスロット 1 のみが使用可能) のどのストレージにアクセスするかを選択します。また、現在選択しているメディアをアンマウントするときにも使用します。



注意 :

メディアを取り外す前に SLOT ボタンを使ってアンマウントしないと、メディアに保存されたファイルに問題が起きる場合があります。

SLOT ボタンを押すごとに、メディアのアンマウント機能とメディア選択機能が切り替わります。この機能は STOP モードのときのみ有効で、停止していない場合には、"PRESS STOP TO CONFIRM" と警告が表示されます。スロットを選択すると、そのスロットで最後に選択されていたクリップとタイムコードの表示に戻ります。スロット内のメディアが最後に選択されていたものとは別のメディアに入れ替えられていた場合 (物理的に取り外し / メディアを交換) は、メディアの先頭クリップの開始ポイントが選択されます。装着されているメディアに問題がある場合は、状況に応じてメッセージが表示されます。

例 : WARNING FRMT MEDIA または WARNING MEDIA LOW

Show Gang View: クリックすると Transport 画面が下のほうに広がり、複数の Ki Pro をコントロールするための項目が表示されます。この機能の使用方法については、"[ギャングレコーディング](#)" (107 ページ) を参照してください。

Hide Gang View
MASTER

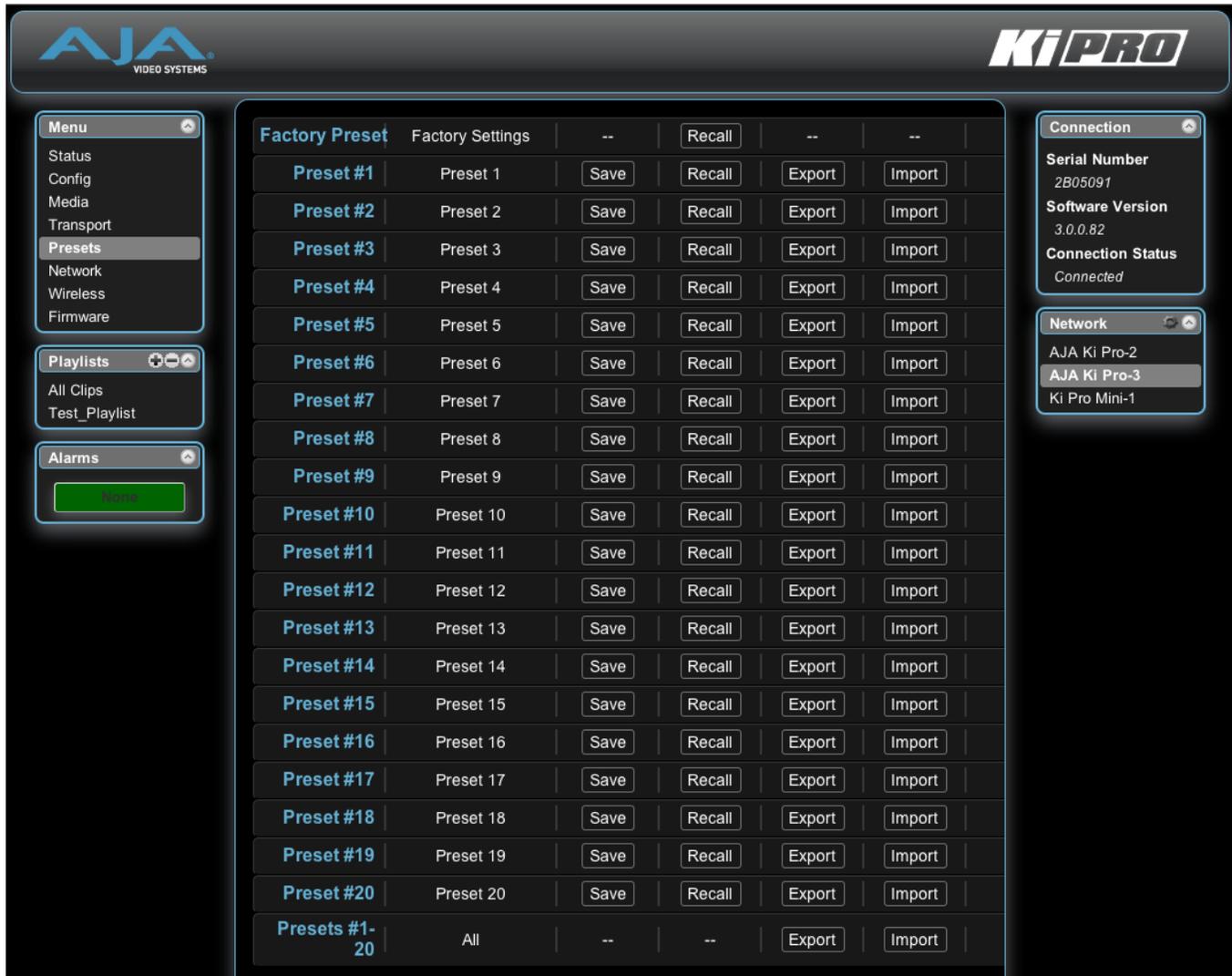
Available Ki Pros: [click to refresh](#)

System	Input Format	Free Storage	Gang	Master	Settings
			All/Clear	Clear	
AJA Ki Pro-2	525i 29.97	40 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	Use: Slave Name
AJA Ki Pro-3	525i 29.97	100 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	Use Custom Clip Name: OFF Clip Name: SC Clip Number: 1 Clip Append: Alpha Alpha Append: A Take: 4
Ki Pro Mini-1	525i 29.97	94 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	Use: Slave Name
			All/Clear	Clear	

Ki Pro WEB インターフェイス、Transport 画面の Gang View

Presets 画面

Presets 画面では、プリセット設定を 20 の別々のメモリーレジスタに保存し、必要なときに呼び出すことができます。また、エクスポートとインポート機能を使って、プリセット1つまたはすべてをお手持ちのコンピュータにファイルとしてエクスポートしたり、エクスポートしたプリセットファイルをコンピュータからインポートすることができます。保存、呼び出し、エクスポート、インポートの成功・失敗は、メッセージで表示されます。



Factory Preset	Factory Settings	--	Recall	--	--
Preset #1	Preset 1	Save	Recall	Export	Import
Preset #2	Preset 2	Save	Recall	Export	Import
Preset #3	Preset 3	Save	Recall	Export	Import
Preset #4	Preset 4	Save	Recall	Export	Import
Preset #5	Preset 5	Save	Recall	Export	Import
Preset #6	Preset 6	Save	Recall	Export	Import
Preset #7	Preset 7	Save	Recall	Export	Import
Preset #8	Preset 8	Save	Recall	Export	Import
Preset #9	Preset 9	Save	Recall	Export	Import
Preset #10	Preset 10	Save	Recall	Export	Import
Preset #11	Preset 11	Save	Recall	Export	Import
Preset #12	Preset 12	Save	Recall	Export	Import
Preset #13	Preset 13	Save	Recall	Export	Import
Preset #14	Preset 14	Save	Recall	Export	Import
Preset #15	Preset 15	Save	Recall	Export	Import
Preset #16	Preset 16	Save	Recall	Export	Import
Preset #17	Preset 17	Save	Recall	Export	Import
Preset #18	Preset 18	Save	Recall	Export	Import
Preset #19	Preset 19	Save	Recall	Export	Import
Preset #20	Preset 20	Save	Recall	Export	Import
Presets #1-20	All	--	--	Export	Import

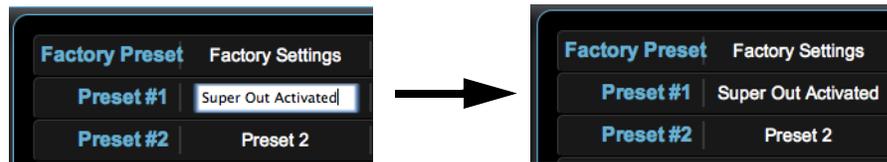
Ki Pro WEB インターフェイス、Presets 画面

Recall (91.1) : Recall ボタンを使って、保存したプリセット設定を呼び出します。

プリセット設定を呼び出すと、システムの既存の設定とすぐに入れ替わります。既存の設定はすべて失われますので、この設定を保存しておきたいときは別のプリセット設定かエクスポートファイルに事前に保存しておいてください。

Save : Save ボタンを使って、既存の設定に名前と番号を付けてプリセットレジスタに保存することができます。プリセットとは、プリセットが保存されたときのシステムパラメーター式を指します。編集可能なパラメータのみがプリセットとして保存され、編集できないパラメータは保存されません。

プリセット名を変更するには、名前のテキストフィールドをクリックして新しい名前をタイプし、Enter を押します。



Ki Pro WEB インターフェイス、プリセット名の変更

Export : Export ボタンを使って、プリセット内容をコンピュータ上のファイルとして保存することができます。ファイルは、ご使用のブラウザのオプションで指定されているデフォルトのダウンロードの場所にエクスポートされます。ファイル名は、.presets の拡張子が付いたプリセット名と同じになります。同一のプリセットファイルを複数回エクスポートすると、それぞれのファイルを区別するために番号が付けられます。ファイルサイズは通常 10 KB 未満です。

Import : Import ボタンを使って、ご使用のコンピュータ上のプリセットファイルを検索し、選択されたプリセットボタンに対応するレジスタにインポートすることができます。この操作により現在のプリセット内容が、ファイルに保存されている内容に書き換えられますという警告メッセージがダイアログボックスに表示されます。

Export Presets 1-20 All : 全プリセット内容をご使用のコンピュータに 1 つのファイルとして保存するときに使用します。

ファイルは、ご使用のブラウザのオプションで指定されているデフォルトのダウンロードの場所にエクスポートされます。プリセットファイルを複数回エクスポートすると、それぞれのファイルを区別するために番号が付けられます。

Import Presets 1-20 All : ご使用のコンピュータ上に前回エクスポートされた all.presets ファイルを検索し、インポートすることができます。この操作により現在の 20 個すべてのプリセット内容がファイルに保存されている内容に書き換えられますという警告メッセージがダイアログボックスに表示されます。

Recall Factory Preset : 編集可能なビデオおよびオーディオのパラメータすべてを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。個々のプリセットやユーザインターフェイス、ネットワーク設定 (IP アドレスなど) には影響ありません。

プリセットの使用方法について詳しくは、"[プリセットの使用方法](#)" (113 ページ) を参照してください。

Network 画面

ネットワーク画面には、Ki Pro の TCP/IP ネットワーク設定に必要なすべての情報が含まれています。WEB ブラウザが現在通信している Ki Pro と同じ LAN 上にあるすべての Ki Pro も表示されます。

注： Ki Pro の IP アドレスとネットマスク領域は、キー入力を制限し、有効な文字のみ受け付けます。また、Ki Pro は入力のフォーマットが有効かどうかをチェックします。無効と判断された場合は、IP アドレスまたはネットマスクの背景が赤に変わります。これらの領域に無効な値が入力されている状態で Apply ボタンをクリックすると、エラーメッセージが表示され、エラーを解消しないと更新できません。



Ki Pro WEB インターフェイス、Network 画面

IP Address Type (50.1) : Ki Pro の IP アドレスを設定するとき使用します。Static を選んだときは、固定アドレスを IP Address に入力します。DHCP を選ぶと、IP アドレスがネットワークルータによって自動的に割り当てられます。Default を選ぶと Ki Pro にデフォルトの IP アドレス (0.65.74.65.) が設定されます。

IP Address (50.2) : 使用している LAN と互換性のある IP アドレスがある場合は入力します。Ki Pro をコンピュータにネットワーク接続しているときは、コンピュータの WEB ブラウザにこの IP アドレスを入力して、内蔵 WEB サーバから Ki Pro の WEB インターフェイスを呼び出します。Apply をクリックすると、Ki Pro がここで入力した IP アドレスに更新されます。IP アドレスを入力して Apply ボタンをクリックすると、IP アドレスが変更され、ブラウザは "redirecting to ..." を表示し、新しい IP アドレスにアクセスします。(新しいページのリンクをクリックして切り換えることもできます。)

Netmask (50.3) : 使用している LAN と互換性のあるサブネットマスクがある場合は入力します。Apply をクリックすると、Ki Pro がここで入力した設定に更新されます。

Default Gateway (50.4) : 使用している LAN のゲートウェイとルータの IP アドレスがあれば入力します。Apply をクリックすると、Ki Pro がここで入力した設定に更新されます。

Apply : このボタンをクリックすると、Ki Pro はこの画面で入力された IP 情報に更新されます。

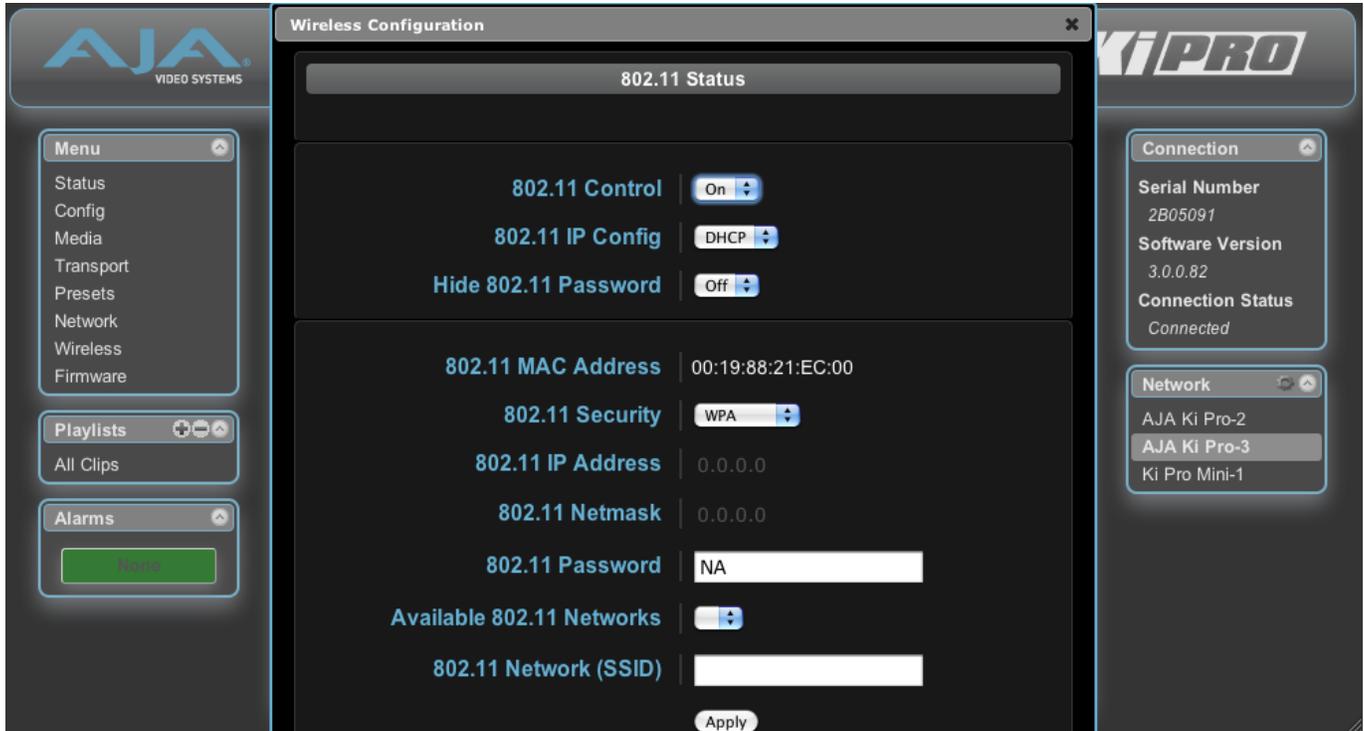
Available Ki Pros : 画面右側の Network パネルには、現在選ばれている Ki Pro と同じ LAN 上にある Ki Pro デバイスが一覧表示されています（下記「注」参照）。LAN 上のすべての Ki Pro のシリアル番号または定義されたシステム名（パラメータ 50.5 参照）がリスト表示されます。いずれかをクリックすると、対応する Ki Pro の Status 画面が表示されます。

注 : コントロールしている Ki Pro のソフトウェアのバージョンが異なる場合は、表示される画面が異なることがあります。一般的には、使用する Ki Pro はすべて同じバージョンの最新ソフトウェアで動作させることをお勧めします。デフォルトゲートウェイが正しく設定されていないと（ルータ / ゲートウェイの有無にかかわらず）、Available Ki Pros : Click to Refresh が正しく動作しない場合があります。

注 : 表示されている Ki Pro はキャッシュされるため、LAN 上のすべての Ki Pro のリアルタイムの状況が反映されていない場合があります。Ki Pro がネットワークに追加されたり、ネットワークから外されたときは、Available Ki Pros リストに反映されるまでに多少時間がかかる場合があります。キャッシュを消し、ネットワークのリアルタイムの状態を見たいときには、Network パネルの右上隅にある Up 矢印を 2 回クリックしてリストをいったん閉じてから再び開き、リフレッシュしてください。

Wireless 画面

Wireless 画面は、LAN 無線アクセスポイント経由で Ki Pro をワイヤレスブラウザコントロールするためのワイヤレス接続の ON と OFF を切り替えます。ワイヤレスアクセスが ON になっているか OFF になっているかによって、表示内容が異なります。



Ki Pro WEB インターフェイス、Wireless 画面

802.11 Connection Status: 接続状況 (Connected または Not Connected) を表示します。

KiPro 802.11 Control (53.1) : このパラメータは、Ki Pro をワイヤレスブラウザからコントロールするかどうかを決定します。ワイヤレスコントロールを許可すると、内蔵の 802.11 無線通信機が ON になります。Ki Pro をコントロールできるように、パラメータ 53.2 ~ 53.5 を正しく設定してください。Ki Pro のワイヤレスコントロールには、接続した LAN 上に通信可能な無線アクセスポイントが必要です。

注： Ki Pro は 802.11 トランシーバを内蔵していますが、これは無線アクセスポイントではありません。ワイヤレスブラウザクライアントは、外部の無線アクセスポイント (Airport Extreme Base Station など) を介して Ki Pro と通信します。



警告：

アンテナを使用して送受信しているときは、Ki Pro の無線通信機 / アンテナカバー (外装) の表面に触らないでください。



警告：

人がラジエータ素子から少なくとも 5 cm 以上距離をおけるような場所に設置してください。この安全上のご注意は、FCC の不要輻射規制に基づいています。

802.11 IP Config (54.1) : IP アドレスの種類 (DHCP、固定、またはデフォルト) を表示します。

Hide 802.11 Password (53.4) : このパラメータは 802.11 Password パラメータを非表示にします。

802.11 MAC Address (50.7) : このパラメータは、ワイヤレスアダプタの MAC アドレスを表示するだけの情報パラメータです。

802.11 Security (53.3) : このパラメータは、Ki Pro とアクセスポイント (およびワイヤレスブラウザクライアント) 間で使用されるセキュリティがある場合、そのタイプ (暗号化 / フォーマット) を指定します。ネットワークルータが使用しているのと同じタイプのセキュリティを選択し、必要なら、802.11 Password (53.4) パラメータでパスワードを入力します。

802.11 IP Address (54.2) : このパラメータは、Ki Pro が TCP/IP ネットワーク接続に使用する固定 IP アドレスを設定します。

802.11 Netmask (54.3) : このパラメータは、Ki Pro が TCP/IP ネットワーク接続に使用するサブネットマスクを設定します。

802.11 Password (53.4) : このパラメータは、Ki Pro とアクセスポイント (およびワイヤレスブラウザクライアント) 間で使用されるパスワードを指定します。Security がイネーブルの場合は、領域だけが表示されます。

Available 802.11 Networks (53.0) : このパラメータは、Ki Pro がアクセスポイントを介して接続する無線ネットワークまたは SSID を指定します。

802.11 Network (53.2, SSID) : このパラメータは、Ki Pro がアクセスポイントを介して接続する無線ネットワークまたは SSID を定義します。SSID はワイヤレスネットワークの公開名称です。

Apply: このボタンをクリックすると、Wireless 画面での変更に従って Ki Pro が更新されます。

Playlists 画面

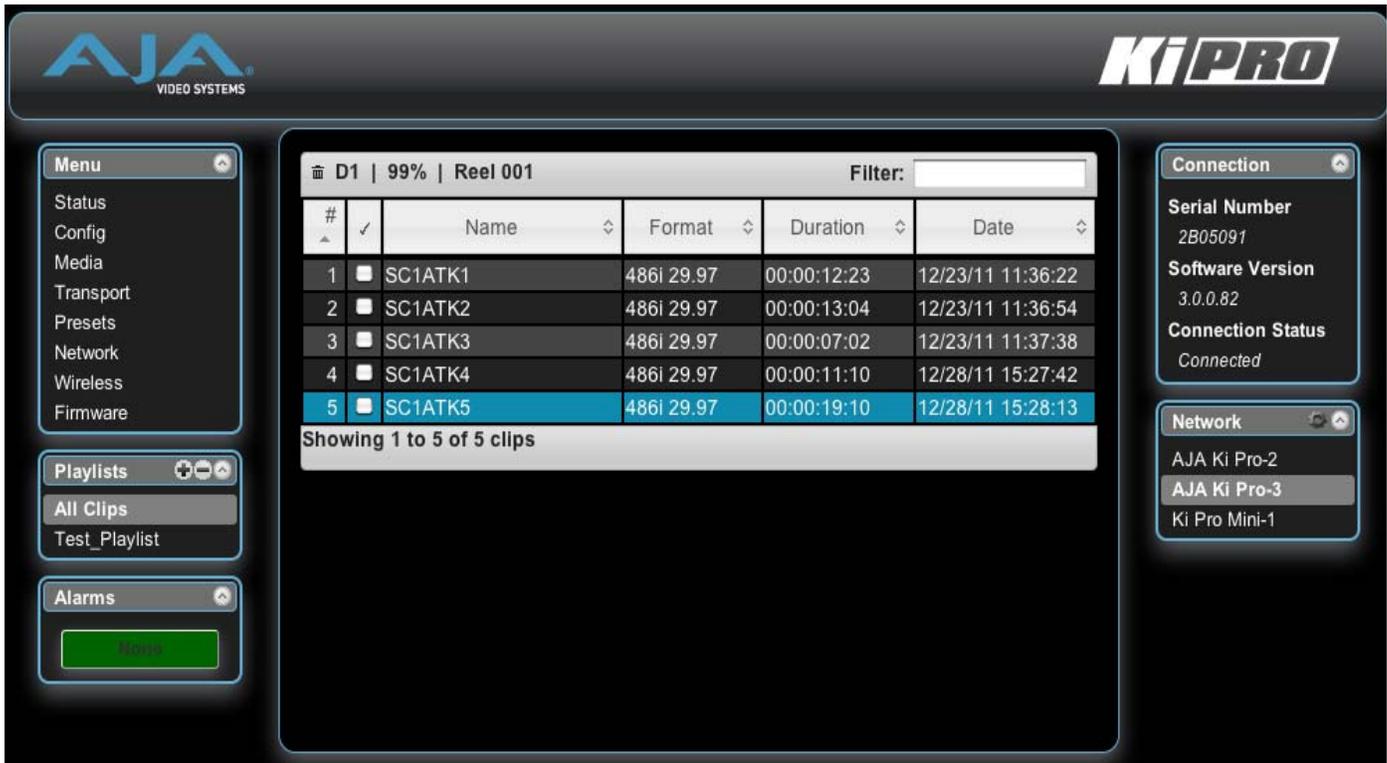
Playlists の All Clips 画面では、SLOT ボタン (Transport 画面を参照) で選ばれたメディア上のすべてのクリップを一目で見ることができます。ユーザが選んだクリップのみで構成された新しいプレイリストを作成することもできます。

1. Playlists のヘッダ横の追加 (+) をクリックし、新しいプレイリストの名前を入力します。
2. 次に、プレイリストに追加したいクリップを、All Clips リストの中から選んでダブルクリックします。選ばれたクリップは青くハイライトされます。
3. 選ばれたクリップをプレイリストにクリック & ドラッグします。複数のクリップをドラッグしたいときは、コピーしたいクリップの名前の左横にあるチェックボックスをすべてクリックしてからドラッグする方法も使えます。クリック & ドラッグ操作の際に、フィルムストリップ型のアイコンが現れるブラウザがありません。クリップがリストに追加されると、このアイコンは消えます。プレイリストへの追加作業中、プレイリストが緑色にハイライトされます。
4. 希望のクリップを追加した後、プレイリスト名をクリックしてプレイリストを開き、追加したクリップがあることを確認します。

クリップの順番を変更することができます。順番を変えたいクリップをダブルクリックして選び、希望の番号のところまでドラッグします。クリック & ドラッグ操作の際に、フィルムストリップ型のアイコンが現れ、順番が緑色でハイライトされます。

注：ドラッグ&ドロップでは、順番を前に移動することはできますが、後ろに移動することはできません。順番の前の方のクリップを後ろに移動させたい場合は、そのクリップの後ろのクリップを前に移動させます。

プレイリストの使用方法について詳しくは、"[プレイリストの使用方法](#)" (110 ページ) を参照してください。



The screenshot displays the Ki Pro WEB interface. The central area shows a table of clips with the following data:

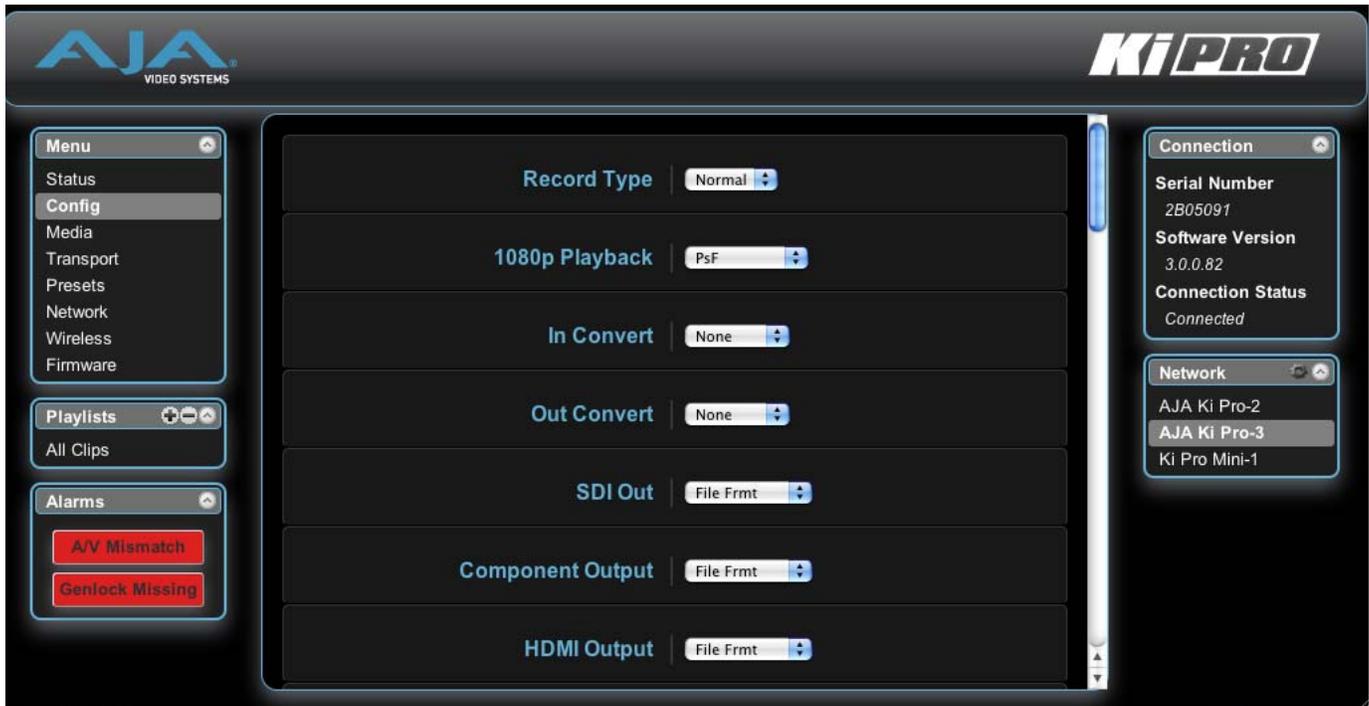
#	✓	Name	Format	Duration	Date
1	<input type="checkbox"/>	SC1ATK1	486i 29.97	00:00:12:23	12/23/11 11:36:22
2	<input type="checkbox"/>	SC1ATK2	486i 29.97	00:00:13:04	12/23/11 11:36:54
3	<input type="checkbox"/>	SC1ATK3	486i 29.97	00:00:07:02	12/23/11 11:37:38
4	<input type="checkbox"/>	SC1ATK4	486i 29.97	00:00:11:10	12/28/11 15:27:42
5	<input checked="" type="checkbox"/>	SC1ATK5	486i 29.97	00:00:19:10	12/28/11 15:28:13

Below the table, it indicates "Showing 1 to 5 of 5 clips". The left sidebar contains a "Menu" with options like Status, Config, Media, Transport, Presets, Network, Wireless, and Firmware. The right sidebar shows "Connection" information (Serial Number: 2B05091, Software Version: 3.0.0.82, Connection Status: Connected) and "Network" information (AJA Ki Pro-2, AJA Ki Pro-3, Ki Pro Mini-1).

Ki Pro WEB インターフェイス、Clips 画面

Alarms 画面

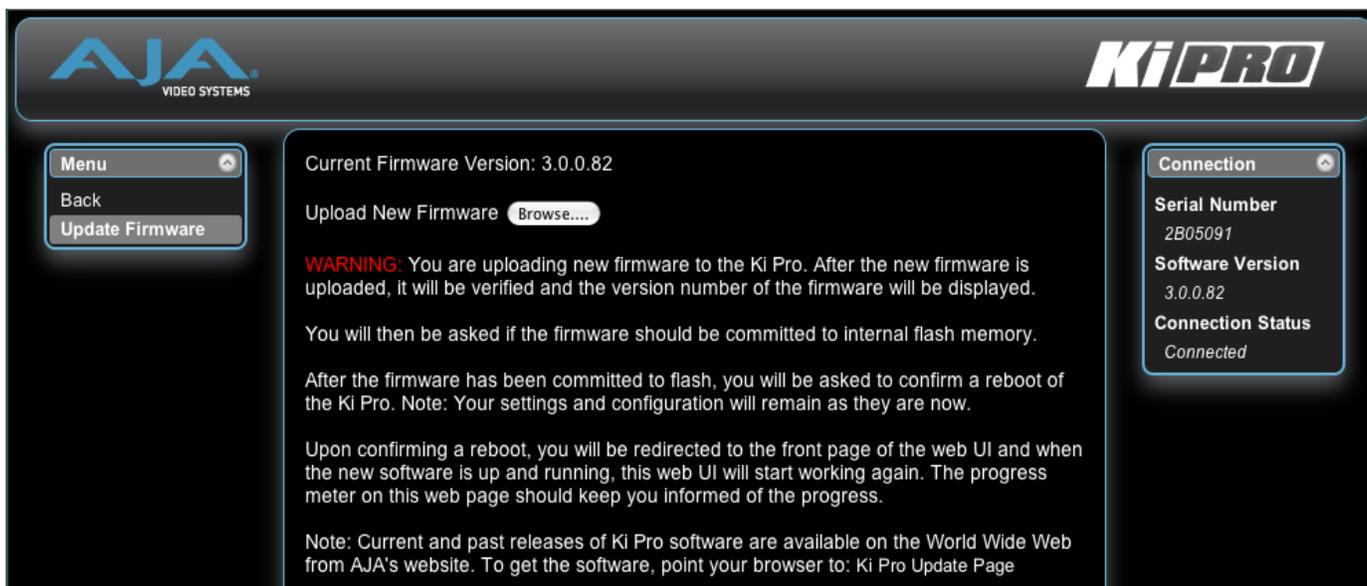
Alarms 表示は各画面に常に表示され、システム内で生じたアラームを表示します。Alarms エリアには通常は緑色のボックスが表示されており、アラームがない場合は "None" と表示されます。アラームが発生したときは、Alarms エリアのボックスが赤くなり、アラーム内容を示すテキストが表示されます。複数のアラームが発生したときは、複数の赤いボックスにそれぞれのアラーム内容が表示されます。



Ki Pro WEB インターフェイス、Alarm Configuration 画面

Update Firmware 画面

Update Firmware 画面を使用すると、AJA が発行して WEB サイトに掲載している最新ソフトウェアにバージョンアップすることができます。ソフトウェアのバージョンアップでは、新しい機能や改良、役に立つ情報が加えられます。時間のあるときに WEB サイトを確認することをお勧めします。



Ki Pro WEB インターフェイス、Update Firmware 画面

ソフトウェア更新の準備

Ki Proには工場出荷時にソフトウェアがプリインストールされていますが、AJAのWEBサイトに掲載されている最新版ではない場合があります。ここでは、Ki Pro のソフトウェアのバージョンアップ手順を説明します。

1. 最新の Ki Pro ソフトウェアをダウンロードします。

現在までにリリースされた Ki Pro のソフトウェアは、AJA の WEB サイトから世界中で入手できます。ソフトウェアを入手するには、ブラウザで下記にアクセスします：

<http://www.aja.com/support/ki-pro/ki-pro.php>

<http://www.aja-jp.com/download/ki-pro/>

このサイトへは Update Firmware 画面（後述）の最終行もリンクしています。アップデートページが表示されたら、Ki Pro ソフトウェアファイルを選択し、Mac または PC にダウンロードして、Ki Pro をバージョンアップします。

2. ソフトウェアを解凍します。

Ki Pro のソフトウェアアップデートファイルは zip ファイルです。一般の標準解凍ソフトを使って解凍してください。Ki Pro にインストールするソフトウェアは、kipro_ver_2.0.0.99.bin などの名前のファイルとして表示されます。

注： PC または Mac の OS の設定によっては、拡張子 ".bin" はファイルディレクトリ上で表示されない場合があります。

Ki Pro にソフトウェアをアップロードしてインストールするには

Ethernet 接続した PC または Mac で Ki Pro を表示できれば、Ki Pro のアップデート用ソフトウェアのアップロードとインストールが可能です。次の手順でソフトウェアをインストールします。

1. Ki Pro の WEB ページの左側にあるナビゲーションボックス下部の Update Firmware をクリックして、Ki Pro のアップデートページを表示します。
2. Browse... ボタンをクリックし、あらかじめダウンロードしたファイルを選択します。
例：AJA からダウンロードした zip ファイル内の kipro_ver_2.0.0.99.bin
3. ダウンロードされた有効な Ki Pro ファイルを選択し、WEB ブラウザの Upload ボタンをクリックします。選択したファイルが Ki Pro にアップロードされ、有効性がチェックされます。不完全だったり、壊れていたり、Ki Pro のソフトウェアでない場合は拒否されます。
4. 完了するまで数分ほど待ちます。完了後は、Ki Pro の再起動が必要です。再起動後、Ki Pro は新しいソフトウェアで動作します。正面パネルに進捗状況が表示されます。
5. 以上の手順が完了すると、Ki Pro は、次にアップデートするまで、このソフトウェアで動作します。アップデート前の Ki Pro の設定は保持されます。

Ki Pro の WEB ページで新しいソフトウェアが動作していることを確認してください。ソフトウェアのバージョンは Ki Pro のすべての WEB 画面の一番上に表示されます。何らかの理由でアップデートされていなかった場合は、上記の手順をもう一度やりなおしてください。

注： ブラウザによっては、ソフトウェアがアップデートされていても Retry ページが表示されることがあります。そのような場合は、再度アップデートする前に、一度 WEB ページをリフレッシュしてバージョンを確認してください。ページ上部に新しいバージョン番号が表示されている場合は、ソフトウェアのアップデートは成功しています。バージョンが古い場合は、Retry をクリックしてください。

ソフトウェアのダウンロード中に電源供給が途切れた場合、Ki Pro は古いバージョンのソフトウェアを起動します。アップデートを最初からやり直してください。Ki Pro の安全重視の設計により、アップデートが失敗したときのために、常にひとつ前のソフトウェアのコピーを保持します。



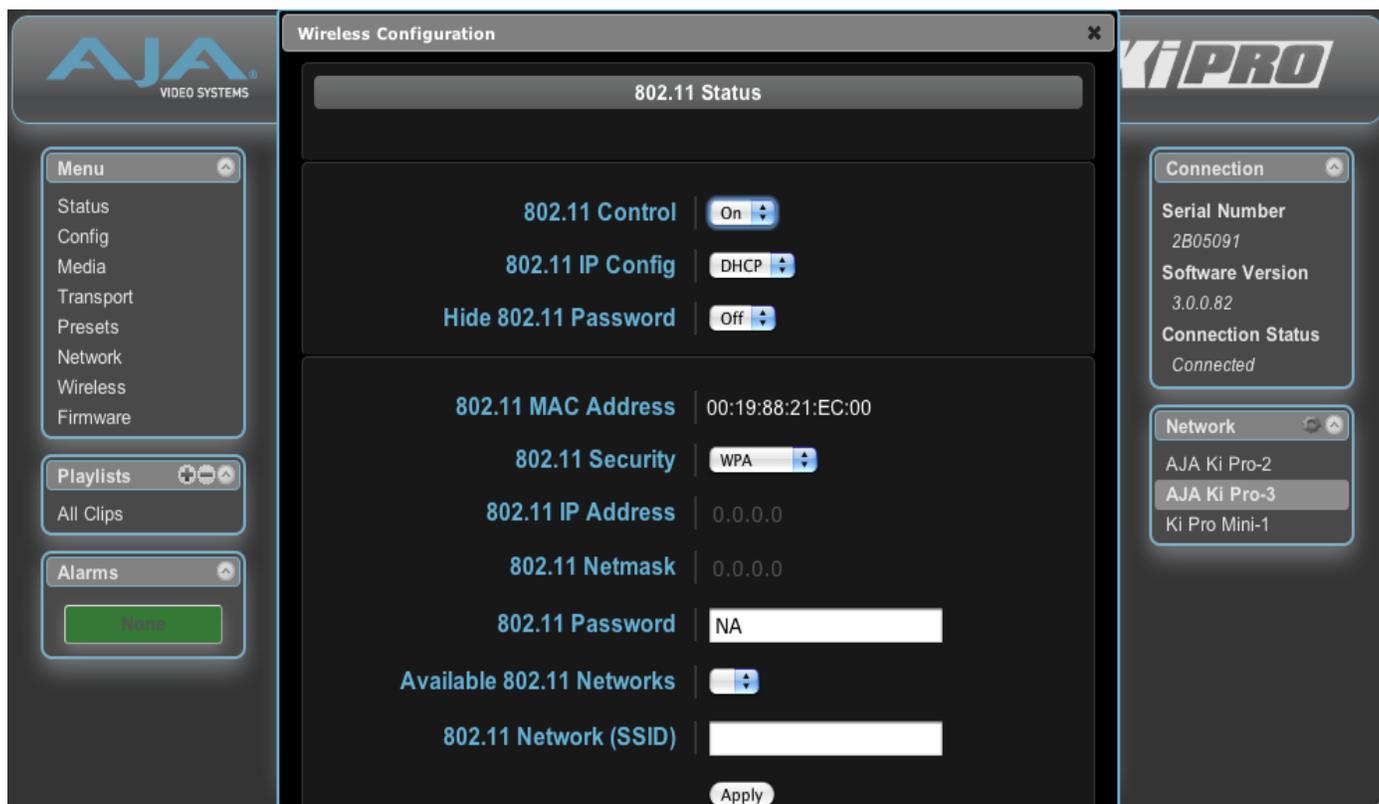
注意：

Ki Pro をバージョンアップするときは、AC 電源またはフル充電したバッテリーのご使用をお勧めします。

ワイヤレス機器の WEB ブラウザ

リモートコントロールのもうひとつのオプションは、正しく設定された 802.11 無線アクセスポイント（Airport Base Station や 802.11 無線ルータ）と通信できる Ki Pro 内蔵の 802.11 無線トランシーバです。

注： Ki Pro は 802.11 トランシーバを内蔵していますが、これは無線アクセスポイントではありません。ワイヤレスブラウザクライアントは、外部無線アクセスポイント（Airport Extreme Base Station など）を介して Ki Pro と通信します。ワイヤレスコントロールを許可すると、内蔵の 802.11 無線通信機が ON になります。802.11b/g を介して Ki Pro をコントロールできるように、パラメータ 53.1 ~ 55.1 を正しく設定してください。



Ki Pro WEB インターフェイス、Wireless Configuration 画面

ワイヤレスコントロールのセキュリティ設定は ON/OFF することができます。さらに、他のデバイスと同じになるように無線セキュリティの種類を選択することができます。WEP、WPA、WPA2 などの一般的な方式がサポートされています。ワイヤレスコントロールを使用するときは、以下の基本手順を実行してください。

1. Ki Pro の 802.11 ワイヤレスコントロールを有効にします。
2. 802.11 IP Config で、DHCP（自動）か Static アドレス（手動で設定）を選びます。
3. Hide 802.11 Password は、ワイヤレス設定が終了するまで OFF にしておきます。

4. 必要に応じて、使用するセキュリティの種類を選択します。接続したいネットワークが使用しているセキュリティのタイプと同じにしてください。
5. Static IP Config を選択している場合は、802.11 IP Address と Netmask を入力します。
6. セキュリティを選択したときは、802.11 Password フィールドにパスワードを入力します。
7. 接続する Available 802.11 無線ネットワークの名前を選択します（通信するアクセスポイントに合わせます）。
8. 802.11 Network SSID を入力します。
9. Apply をクリックすると、変更した設定すべてが有効になります。

802.11 ワイヤレス設定が終わると、iPhone やブラウザコントロールをサポートしている 802.11 無線機器（iPod touch など）から Ki Pro をコントロール可能になります。

ワイヤレス機器からのコントロール

一度 LAN のアクセスポイントをセットアップして Ki Pro がワイヤレス機器と通信可能な状態に設定すれば、接続は簡単です。Mac や PC 上のウェブブラウザを使用するときと同様、ブラウザ装備の iPhone などの無線機器を使って Ki Pro をコントロールできます。コンピュータのブラウザを使用する場合と同様、Ki Pro 内蔵の高性能 WEB サーバによって、Ki Pro の WEB ページを iPhone のブラウザに表示させることができます。標準外のブラウザや互換性のないブラウザを使用する無線機器も多数ありますが、この章では、すべて iPhone または iPod touch を使用した場合を例にして説明します。これらは AJA がサポートしている設定です。

iPhone の WEB ブラウザに Ki Pro の URL を入力するだけで、Ki Pro にアクセスすることができます。標準的なブラウザ表示の機器（ラップトップコンピュータなど）のほとんどで、Ki Pro のネットワークパラメータメニュー（50）で定義した IP アドレスを URL として使用します（ネットワークで Ki Pro にアクセスするためにはパラメータ 50.1 ~ 50.4 を正しく設定する必要があります）。Ki Pro が DHCP を使用している場合は、Ki Pro の正面パネルの Status ボタンを数回押してネットワークステータスを表示させるか、パラメータ 50.2 を表示させることによって IP アドレスを確認できます。

50.1 が Default Addr に設定されている場合の、工場出荷時のデフォルトの固定 IP アドレスは 10.65.74.65 です。10.65.74.65.50.1 が Default Addr に設定されている場合、WEB ブラウザに `http://10.65.74.65` を入力すると、Ki Pro の WEB インターフェイスのメイン画面（Status 画面）が表示されます。

iPhone Ki Pro 画面

iPhone や iPod Touch のような小型携帯機器のブラウザを使用するときは、IP アドレスを URL として使用し、WEB ページのフォーマットを小さい画面表示用に設定することができます。

iPhone または iPod Touch では、下記の URL を使用します。

`http://<Ki Pro の IP アドレス>/iphone.html`

例：Ki Pro が 10.0.7.110 の場合、iPhone に次のように入力します。

`http://10.0.7.110/iphone.html`

この URL を入力すると、下記の Ki Pro コントロールメニューを含め Status 画面が表示されます。

- Status
- Alarms
- Config
- Media
- Playlists
- Transport

これらのページの領域は、前述の WEB ブラウザ画面の領域を小さくしたものです。それぞれのコントロールと値について詳しくは、WEB UI の説明をご覧ください。

iPhone を使って Ki Pro をコントロールするには

- ご使用の iPhone または iPod Touch のソフトウェアが最新のバージョンになっていることを確認してください。これらの機器を最新バージョンのソフトウェアで使用しないと、Ki Pro の無線 UI の反応が遅くなる場合がありますが、トランスポートボタンによる操作が制限されることはありません。
- ご使用の iPhone のホーム画面に、Ki Pro の WEB コントロールを追加することができます。+ ボタンを押してから Add to Home Screen を押してください。
ヒント : Ki Pro をホーム画面に追加する前に、UI の Transport 画面を iPhone で開いてください。Ki Pro の正面パネルのアイコンが、ホーム画面上に作成されます。すべてのボタン類を Ki Pro の正面パネルと同じように iPhone の UI に表示させたいときは、Transport メニューで iPhone を Landscape モードに切り替えます。SELECT Up/Down、ADJUST Up/Down、DELETE CLIP、SLOT ボタンが表示されます。

Status

Status 画面は iPhone メニューの入り口で、ここから他のメニューにアクセスできます。この iPhone 画面には、次のような調整項目と値が表示されます。

- 次のメニューへのアクセスボタン : Status、Config、Media、Alarms、Playlists、Transport。
- ビデオ入力ソース、入力フォーマット、入力タイムコード、収録フォーマット、オーディオ入力ソースなどの I/O ステータス



Ki Pro iPhone インターフェイス、Status 画面

Alarms

Alarms ボタンを選ぶと、Alarms 画面が表示されます。この iPhone 画面には、次のような情報と調整項目が表示されます。

- 次のメニューへのアクセスボタン：Status、Config、Media、Alarms、Playlists、Transport。
- Ki Pro のアラーム状況のリストを赤で表示します。
- アラームがないときは、緑のボックスに None が表示されます。



Ki Pro iPhone インターフェイス、Alarms 画面

Config

Config ボタンを選択すると、Config 画面が表示されます。この iPhone 画面には、次のような調整項目と値が表示されます。

- 次のメニューへのアクセスボタン : Status、Config、Media、Alarms、Playlists、Transport。
- ビデオおよびオーディオ入出力、タイムコード、再生、収録、システムパラメータ。詳しくは、"[Config 画面](#)" (82 ページ) をご覧ください。
- プルダウンメニューから選択できます。

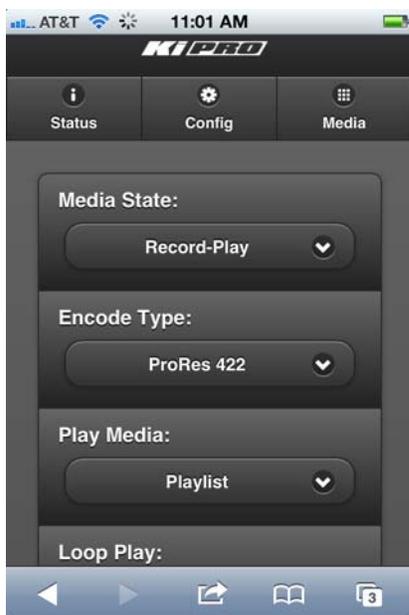


Ki Pro iPhone インターフェイス、Config 画面

Media

Media ボタンを選択すると、Media 画面が表示されます。この iPhone 画面には、次のようなストレージメディアの操作に関する調整項目と値が表示されます。

- 次のメニューへのアクセスボタン: Status、Config、Media、Alarms、Playlists、Transport。
- メディアの動作、フォーマット、ネーミングパラメータ。詳しくは、"[Media 画面](#)" (85 ページ) をご覧ください。
- Config 画面同様、プルダウンメニューから選択できます。



Ki Pro iPhone インターフェイス、Media 画面

Playlists

Playlists ボタンを選択すると、Playlists 画面が表示されます。この iPhone 画面には、現在選ばれている Ki Pro のストレージデバイス上の All Clips のデフォルトリストと、クリップを削除するためのコントロールが表示されます。また、選択したクリップで構成されるユーザプレイリストを作成することもできます。詳しくは、"[Playlists 画面](#)" (95 ページ) をご覧ください。Config などの他の画面と同様、プルダウンメニューでプレイリストなどの選択肢を表示できます。



Ki Pro iPhone インターフェイス、Playlists 画面

Transport

Transport ボタンを選択すると、Transport 画面が表示されます。この iPhone 画面には、ウェブブラウザの UI と同じく、VTR 同様のトランスポートコントロールを表示します。コントロールには以下の項目が含まれます。操作について詳しくは、"[Transport 画面](#)" (88 ページ) をご覧ください。Transport 画面を表示している間、iPhone を横向きにすると、表示を拡大することができます。



横向き



Ki Pro iPhone インターフェイス、Transport 画面

高度な機能

Ki Pro を活用していただくため、いくつかの機能について以下に追加説明を行います。以下のトピックは、本章前半に記載されている情報を展開するものです。

複数の Ki Pro のコントロール

Status 画面をはじめとするメニュー上の 6 つの画面から、同一の LAN 上にある Ki Pro システムすべてを一目で見ることができます。システム名は、画面右側の Network パネルに表示されます。システム名をクリックすると、選ばれた Ki Pro または Ki Pro Mini システムの Status 画面にブラウザが切り替わります。

注： コントロールしている Ki Pro のソフトウェアのバージョンが異なる場合は、表示される画面が異なる場合があります。一般的には、使用する Ki Pro はすべて同じバージョンの最新ソフトウェアで動作させることをお勧めします。また、Ki Pro を確認するにはデフォルトゲートウェイを正しく設定する必要があります。

デフォルトゲートウェイ（パラメータ 50.4）が適切に設定されていないと、他の Ki Pro が表示されません。"No Ki Pros found" が表示された場合は、ゲートウェイの設定を確認してください。

また、デフォルトゲートウェイ（パラメータ 50.4）が適切に設定されていないと、ここで他の Ki Pro を見ることはできません。"No Ki Pros found" が表示された場合は、ゲートウェイの設定を確認してください。

ギャングレコーディング

Ki Pro バージョン 2.0 からは、ギャングコントロール機能で、複数の Ki Pro をひとつのグループとして収録することができます。この機能は、Ki Pro が共通のネットワークの IP アドレスとサブネットマスクを持ち、LAN 接続で Ethernet スイッチやハブを介してホストコンピュータと接続されているとき、WEB UI を介してのみ使用することができます。ギャングレコーディングに使用するすべての Ki Pro のソフトウェアは同一のバージョンにすることを勧めます。

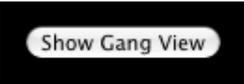
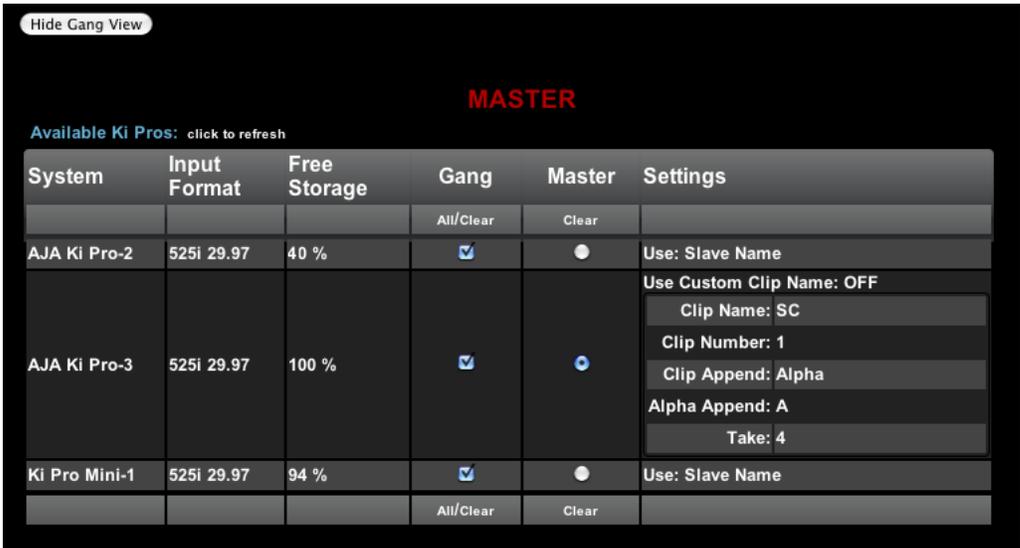
重要事項： WEB UI を介したギャングコントロールは、有線の Ethernet 接続だけが対応しています。802.11 無線接続は対応していません。ギャングコントロールで Ki Pro を使用するときは、802.11 無線接続は無効にしておくことをお勧めします。802.11 無線接続を有効にしてギャングコントロールで Ki Pro を操作すると、WEB UI との通信が遅くなったり、異常が起きることがあります。

例：

"Master" Ki Pro と "Slave" Ki Pro の固定 IP アドレスがそれぞれ 192.168.0.2 と 192.168.0.3 で、サブネットマスクが 255.255.255.0 でネットワークに接続されています。2 台の Ki Pro は、IP アドレスが 192.168.0.1、サブネットマスクが 255.255.255.0 のホストコンピュータに接続されています。ホストコンピュータは Apple's Safari のような WEB ブラウザを使って、ブラウザの URL フィールドに 192.168.0.2 を入力して "Master" Ki Pro にアクセスします。"Master" Ki Pro の WEB UI が表示されます。

ギャングレコーディングの使いかた

Transport 画面を表示すると、画面の左に "Show Gang View" ボタンが表示されます。"Show Gang View" ボタンをクリックすると、"Available Ki Pros" リストが表示されます。使用したい Ki Pro が表示されない場合は、"Hide Gang View" ボタンをクリックし、次に "Show Gang View" ボタンもう一度クリックして、画面を表示しなおします。Ki Pro の情報が再表示されるまで数秒かかります。画面を再表示しても使用したい Ki Pro がリストに表示されない場合は、Ki Pro がネットワークに正しく接続され、適切な IP アドレス等が設定されているか確認してください。

Hide Gang View

MASTER

Available Ki Pros: click to refresh

System	Input Format	Free Storage	Gang	Master	Settings
			All/Clear	Clear	
AJA Ki Pro-2	525i 29.97	40 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	Use: Slave Name
					Use Custom Clip Name: OFF
					Clip Name: SC
					Clip Number: 1
					Clip Append: Alpha
					Alpha Append: A
					Take: 4
AJA Ki Pro-3	525i 29.97	100 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
Ki Pro Mini-1	525i 29.97	94 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	Use: Slave Name
			All/Clear	Clear	

Ki Pro WEB インターフェイス、Transport 画面の Show Gang Control

使用可能な Ki Pro のパラメータが、ギャングコントロールエリアに表示されます。表示されるのは以下の項目です：System、Input Format、Free Storage、Gang、Master、Settings。ギャングに追加可能な Ki Pro が、System 欄に表示されます。Input Format には、各システムが受信しているビデオフォーマット / フレームレートのタイプに関する情報を表示します。Free Storage には、各ユニットのメディアの容量がひと目でわかるように表示されます。Gang では、ギャングへのユニットの追加や削除を実行できます。Master は、その Ki Pro がギャングでコントロールする役割であることを示します。Settings は、Master Ki Pro と Slave Ki Pro のクリップ名に関する情報です。

Ki Pro をギャングに追加するには、Gang 欄のチェックボックスをチェックするだけです。使用可能な Ki Pro をすべてギャングに追加するには、Gang の下にある "All" を選択します。ギャングから削除するには、チェックを外すか、"Clear" を使います。

重要：ひとつのギャングには Master は 1 台だけです。通常は、入力し、WEB UI 上で見ることができる Ki Pro の IP アドレスのユニットが、コントロールする役割のユニットになります。現在 WEB UI で見ることのできる IP アドレスのユニットが選択され、"MASTER" が赤の大文字で WEB ページに表示されます。

Master Ki Pro は、ギャング内の Slave Ki Pro に、収録開始コマンド、停止コマンド、クリップ名の 3 項目を送ります。収録の開始、停止コマンドは、Master Ki Pro のギャン

グ情報の上にある WEB UI の Transport エリアからコントロールします。正面パネルのボタンでコントロールすることもできます (CONFIG パラメータ 35.2 を "Local Only" に設定してある場合)。

Settings エリアでは、各ユニットの Ki Pro のクリップ名を指定します。デフォルトでは、Ki Pro は標準のクリップ名を使用するように設定されています。カスタムのクリップ名は使用しません。まず最初にクリップ名の付け方を選択します。標準のクリップ名を使う場合は、"Use Custom Clip Name" を "OFF" にします。カスタムのクリップ名を付けたいときは、"OFF" をクリックしてプルダウン選択肢の "OFF/ON" で選択をして、"OK" をクリックします。

"OFF" を選択すると、次のパラメータは "Clip Name" になります。"SC" または "Clip" をクリックすると、プルダウン選択肢と "OK" が表示されます。"Clip Number" に、Ki Pro の有効値 (1 ~ 999) を手動で入力し、Enter/Return キーを押します。

注: 選択した後に Enter/Return キーを押さないと、設定値は前に表示されていた値に戻ります。次に "Clip Append" または "Alpha Append" の値をクリックすると、プルダウンの選択肢と "OK" ボタンが表示されます。"Take" は "Clip Number" と同じように操作します。有効値 1 ~ 999 を入力し、Enter/Return キーを押して値を確定します。カスタムクリップ名の付け方については、本マニュアルの「カスタムクリップネーミング」を参照してください。

Slave Ki Pro では、Settings 欄で "Master Name" または "Slave Name" のどちらかを選択します。デフォルトの "Master Name" をクリックすると、プルダウン選択肢 "Master Name" と "Slave Name" および確認のための "OK" ボタンが表示されます。収録時に、すべての Ki Pro でクリップ名を同じにしたいときは、"Master Name" を選択します。Ki Pro ごとにクリップ名を別々に設定したいときは、"Slave Name" を選択します。"Slave Name" を選択すると、収録は各 Ki Pro のパラメータで設定した名前で行われ、Master Ki Pro から送られてきた名前は受け付けません。

バージョン 2.0 では、Ki Pro は収録をすぐに開始することができますが、すべてのユニットで厳密に同じ時間、同じフレームで収録の開始、終了ができるわけではないので注意が必要です。タイムコード発生器の独立した出力、またはタイムコード用の分配アンプを介して、タイムコード発生器から RP-188 または LTC を埋め込んだ SDI で一致したタイムコードを各ユニットに送れば、これは問題ではありません。Final Cut Pro のようなノンリニア編集システムでは、複数のクリップの編集はタイムコードの値でクリップを同期させています。また、Ki Pro はメディアの同時再生には対応していません。収録の開始と停止機能だけが可能です。

注: Master Ki Pro が RS-422 機器でコントロールされているときは、ギャング内の Slave Ki Pro は応答しません。これは、ギャング内の Master Ki Pro が、設定したパラメータでのコントロールの対象外のユニットを、WEB UI や正面パネルのボタンで間違っコントロールするのを防ぐためです。

ギャングレコーディングのまとめ

1. ブラウザメニューで、Transport を選択し、Transport 画面を表示します。
2. ギャングコントロールを見るには、Transport 画面上の Show Gang View をクリックします。このビューには、使用可能な Ki Pro システムが表示されます。
3. システムをグループ化するには、グループ化したい各システムの Gang 欄のチェックボックスをクリックします。

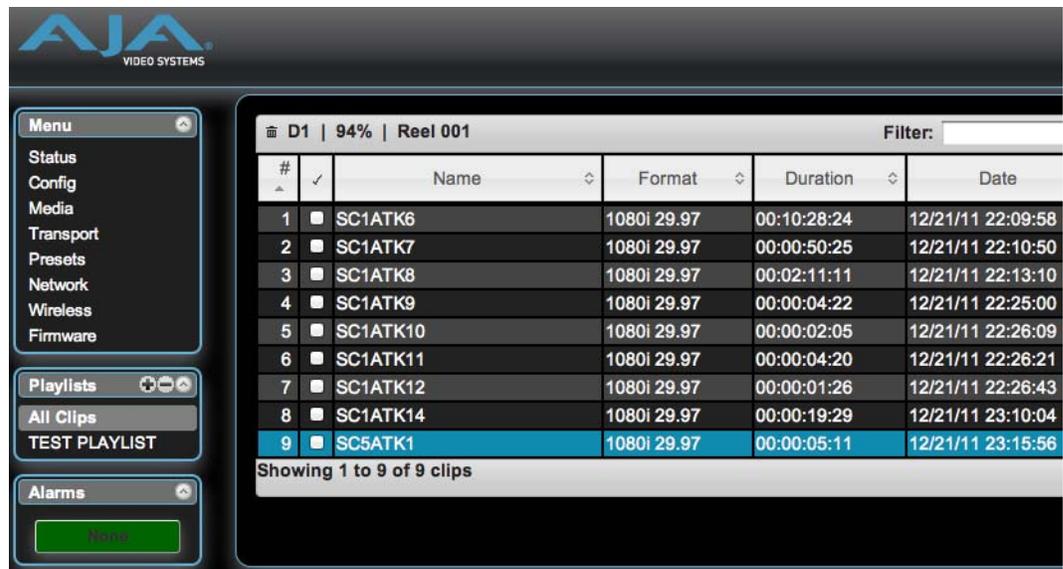
4. 各システムの Settings 欄でクリップ名を Slave Name にするか Master Name にするかを選択します。詳しくは、前述の説明をご覧ください。
5. Master 欄で、ギヤングをコントロールするマスターシステムを 1 つ選びます。
6. マスターシステムの Settings 欄でクリップのネーミング設定をします。
7. 収録開始・停止およびクリップネーミングには、マスターシステムを使用します。

プレイリストの使用 方法

バージョン 3.0 以降、クリップのレビューおよびクリップのプレイリストを作成するためのツールが提供されています。クリップのプレイリストは、ウェブブラウザの Playlists 画面上で管理できます。管理できるプレイリストには、Ki Pro 上のすべてのクリップを表示するデフォルトの All Clips プレイリストも含まれます。

All Clips プレイリストの使用法

Playlists のデフォルト設定は All Clips で、すべてのクリップをリスト表示します。All Clips とは、Ki Pro 上のすべての収録あるいは Ki Pro に送信された有効なファイルすべてのことを意味します。



#	✓	Name	Format	Duration	Date
1	■	SC1ATK6	1080i 29.97	00:10:28:24	12/21/11 22:09:58
2	■	SC1ATK7	1080i 29.97	00:00:50:25	12/21/11 22:10:50
3	■	SC1ATK8	1080i 29.97	00:02:11:11	12/21/11 22:13:10
4	■	SC1ATK9	1080i 29.97	00:00:04:22	12/21/11 22:25:00
5	■	SC1ATK10	1080i 29.97	00:00:02:05	12/21/11 22:26:09
6	■	SC1ATK11	1080i 29.97	00:00:04:20	12/21/11 22:26:21
7	■	SC1ATK12	1080i 29.97	00:00:01:26	12/21/11 22:26:43
8	■	SC1ATK14	1080i 29.97	00:00:19:29	12/21/11 23:10:04
9	■	SC5ATK1	1080i 29.97	00:00:05:11	12/21/11 23:15:56

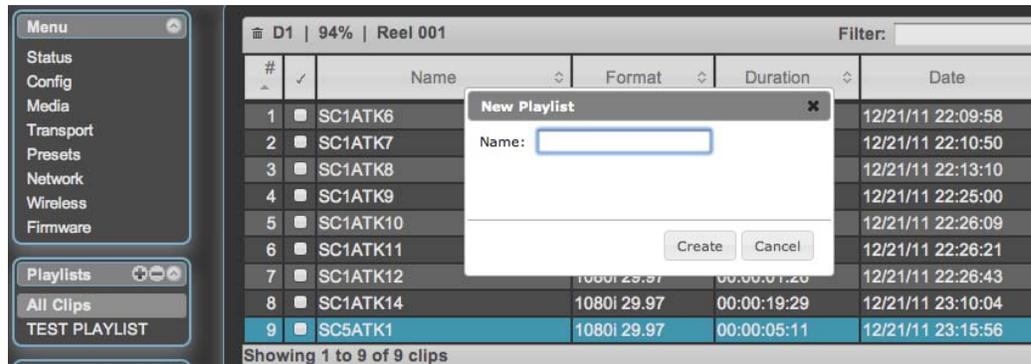
Showing 1 to 9 of 9 clips

Ki Pro WEB インターフェイス、All Clips プレイリスト

リスト上のクリップをダブルクリックするだけで、すばやくそのクリップを頭出しして見ることができます。クリップをダブルクリックして選択すると、リスト上で青くハイライトされ、クリップの最初のビデオフレームが Ki Pro 出力として表示されます。クリップの再生には、WEB UI の Transport ページを開き、Play ボタンを押して再生を始めます。素材にすばやく目を通すには、Media>Play Media>All とアクセスし、レビュー用にクリップを選択してハイライトすると、Ki Pro 出力から再生を続けることができます。

プレイリストの作成

WEB UI の Playlists 部分のリスト上に、"+" と "-" 記号があります。プレイリストの追加には、"+" 記号を使います。"+" 記号をクリックし、新しいプレイリストの名前を入力します。



プレイリストにクリップを追加するには、All Clips リスト上のクリップを選んで青くハイライトさせ、作成したプレイリスト名の上にクリック&ドラッグします。クリップを選択してクリック&ドラッグすると、フィルムストリップのアイコンが表示されます。このアイコンが表示されない場合は、クリップが選ばれていません。クリップをクリック&ドラッグしたリストは緑にハイライトされ、左側に "+" 記号の付いたフィルムストリップのアイコンが表示されるので、クリップの追加が実行中であると分かります。マウスから指を放すと、クリップがプレイリストに追加されます。同様にして、希望のクリップをプレイリストに追加することができます。

いくつかのクリップを一度にプレイリストに移動するには、チェックマークのある欄で、移動したいクリップのチェックマークをチェックしてから、リストをクリック&ドラッグします。

プレイリストを閲覧するには、WEB UI の Playlists エリアのリストをクリックします。



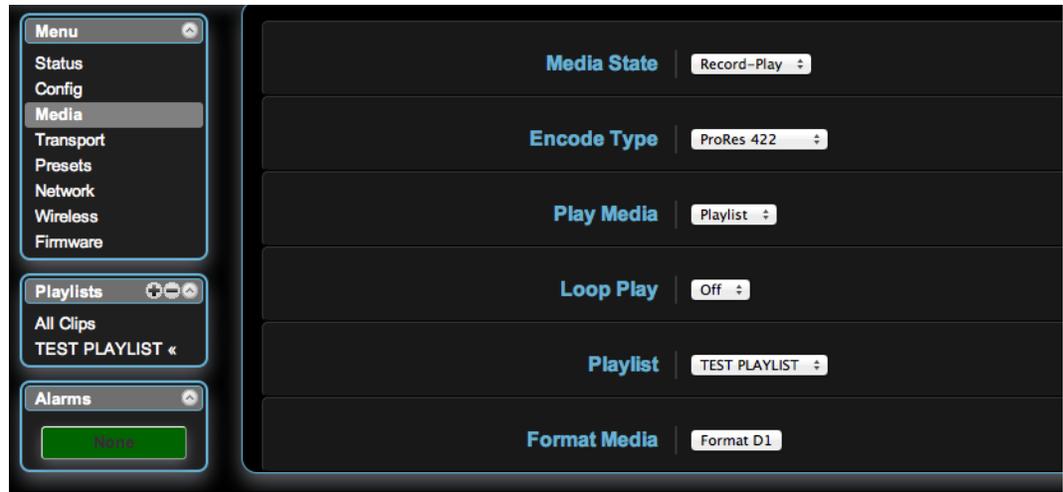
リスト内でクリップの順番を変更するには、クリック&ドラッグします。クリップが選択されたかどうかは、フィルムストリップのアイコンが表示される（一部ブラウザのみ）ので分かります。並び替えが実行されているかどうかは緑のハイライトで分かります。

重要事項: プレイリストの最後尾へはクリップを移動できません。最後尾に移動したいときは、最後尾の一つ前に移動し、次に最後尾のクリップをそのクリップの上に移動します。

複数のプレイリストを作成できます。プレイリストは Ki Pro のメディア上に、ファイルとして、クリップと並んで保存されます。

プレイリストの再生

作成したプレイリストを再生するには、MEDIA メニューのパラメータで、Play Media > Playlist を選択します。(注：既にクリップの閲覧をしていた場合、MEDIA ページに入ろうとすると、"Press Stop" のメッセージが出てから Transport ページが表示されます。STOP ボタンを押して停止してから MEDIA ページに入ってください。)



MEDIA メニューの Playlist パラメータからプレイリストを選択します。プレイリストが選ばれると、WEB UI の Playlists 内で選択されたリストの横に二重の山カッコが表示されます。WEB UI の Transport 部に行くと、プレイリストが頭出しされて、リストの最初のクリップの再生準備が整っています。リスト内を検索したいときは、早送りと巻き戻しボタン、または SELECT Up と Down ボタンを使います。MEDIA メニューのパラメータを使って、リストのループ再生をすることもできます。

プレイリストの管理は WEB UI 経由でのみ可能で、正面パネルからプレイリストの作成や管理は行えません。MENU パラメータ 15.3 Playlist を設定することで、正面パネル UI 上に選択したプレイリストを表示することができます。プレイリストに何を選択したかは、リポート後にリセットされますが、作成したプレイリストはリポート後も残っています。

プリセットの使用方法

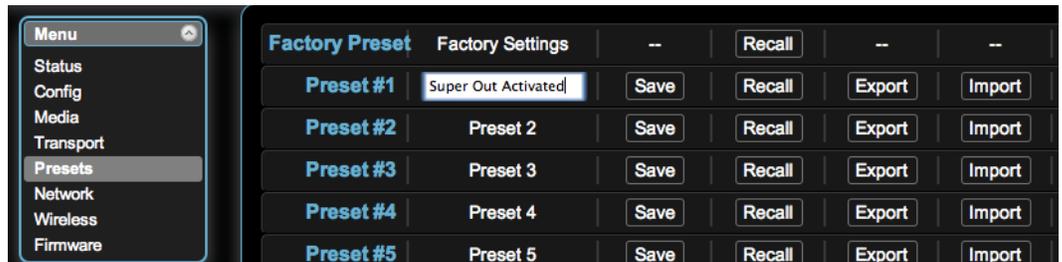
バージョン 3.0 以降、Ki Pro では複数のパラメータの設定をプリセットとして、簡単かつ効率的に設定できるようになりました。プリセット設定を保存し、後で Ki Pro に呼び出すことができます。

プリセットの保存

プリセットを使用する最も簡単な方法は、WEB UI 経由です。WEB UI の Presets ページにはカスタマイズ可能な 20 個のプリセットがあります。

Factory Preset	Factory Settings	--	Recall	--	--
Preset #1	Preset 1	Save	Recall	Export	Import
Preset #2	Preset 2	Save	Recall	Export	Import
Preset #3	Preset 3	Save	Recall	Export	Import
Preset #4	Preset 4	Save	Recall	Export	Import
Preset #5	Preset 5	Save	Recall	Export	Import
Preset #6	Preset 6	Save	Recall	Export	Import
Preset #7	Preset 7	Save	Recall	Export	Import
Preset #8	Preset 8	Save	Recall	Export	Import
Preset #9	Preset 9	Save	Recall	Export	Import
Preset #10	Preset 10	Save	Recall	Export	Import
Preset #11	Preset 11	Save	Recall	Export	Import
Preset #12	Preset 12	Save	Recall	Export	Import
Preset #13	Preset 13	Save	Recall	Export	Import
Preset #14	Preset 14	Save	Recall	Export	Import
Preset #15	Preset 15	Save	Recall	Export	Import
Preset #16	Preset 16	Save	Recall	Export	Import
Preset #17	Preset 17	Save	Recall	Export	Import
Preset #18	Preset 18	Save	Recall	Export	Import
Preset #19	Preset 19	Save	Recall	Export	Import
Preset #20	Preset 20	Save	Recall	Export	Import
Presets #1-20	All	--	--	Export	Import

プリセットをカスタマイズするには、テキストフィールドの 2 つ目の欄をクリックし、プリセット名を付けます。



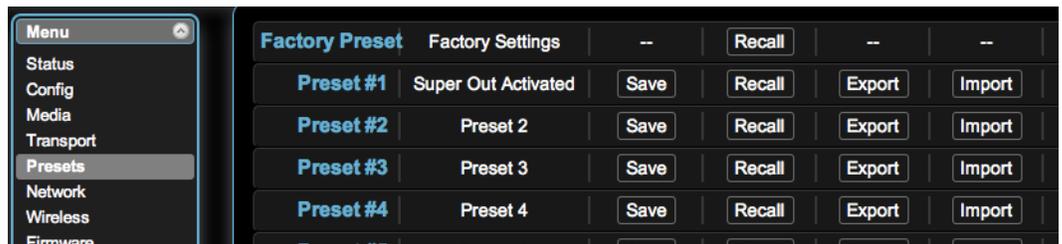
名前を入力したら、Enter を押します。

保存の作業をしないと、プリセットは保存されません。

重要: プリセットを保存する前に、必要なパラメータ設定がすべて完了していることを確認してください。デフォルトでは、すべてのパラメータが保存、呼び出しされます。

プリセットの呼び出し

プリセットを呼び出すには、希望のプリセットの欄にある Recall ボタンを選びます。



プリセットファイルをコンピュータにエクスポートしたり、コンピュータからインポートすることもできます。

注: プリセットは同じタイプのデバイス間でのみ使用することをお勧めします。つまり、Ki Pro のプリセットは別の Ki Pro でのみ使用し、Ki Pro Mini ではご使用にならないください。

プリセットをイネーブルにしていると、いつでも Factory Settings (工場出荷時の設定) を呼び出すことができます。

重要: デバイスをリブートしても、プリセットはリセットされません。他の人が Ki Pro の設定を変更している可能性があるときは、いったん Factory Settings を呼び出してデフォルトに戻してから設定を行い、作業を始めることもできます。

プリセットの使用は WEB UI から行うのが望ましいのですが、正面パネルの UI からでも保存・呼び出しは行えます。

重要: 正面パネル UI からカスタムプリセット名を付けることはできません。プリセットにはデフォルトで "Preset 1"、"Preset 2" などの名前が付けられます。正面パネル UI からプリセットを呼び出すには、CONFIG メニューのパラメータ 91.1 Recall Preset を表示します。ADJUST Up/Down を使ってプリセットを選びます。SELECT Up ボタン

を使ってプリセットを選び、ADJUST Up ボタンを使ってプリセットを呼び出します。プリセットの呼び出しを中止するときは、SELECT Down ボタンを押します。

プリセットを保存するには、CONFIG メニューのパラメータ 92.1 Store Preset を表示します。ADJUST Up/Down を使ってプリセットを選びます。SELECT Up ボタンを使ってプリセットを選び、ADJUST Up ボタンを使ってプリセットを保存します。プリセットの呼び出しを中止するときは、SELECT Down ボタンを押します。

ヒント：CONFIG メニューのパラメータ 91.1 および 92.1 とともに、プリセットを検索中は、先頭の数字が点滅して、今どのプリセットの場所にいるのかが分かります。それぞれのメニューパラメータから抜けるには、SELECT Down ボタンを使用します。

プリセット使用時は、WEB UI を使う方が使い勝手がよく、またより多くのオプションを使用することができます。

ビデオ入力

デジタル : SD/HD-SDI (BNC コネクタ × 1)、SMPTE-259/292/296
HDMI

アナログ : SD/HD コンポーネント (BNC コネクタ × 3) :
SMPTE/EBU N10、Betacam 525 ライン、
Betacam 525J、YPbPr
12 bit A/D、2 倍オーバーサンプリング

ビデオ出力 (すべて同時出力可能)

デジタル : SD/HD-SDI、SMPTE-259/292/296 (BNC コネクタ × 1)
HDMI

アナログ : コンポジット (BNC コネクタ × 1) :
NTSC、NTSCJ、PAL
12 bit D/A、8 倍オーバーサンプリング
SD/HD コンポーネント (BNC コネクタ × 3) :
SD:SMPTE/EBU N10、Betacam 525 ライン、
Betacam 525J、RGB
12 bit D/A、8 倍オーバーサンプリング
HD:YPbPr、RGB
12 bit D/A、2 倍オーバーサンプリング

オーディオ入力

デジタル : 24 bit SDI エンベデッドオーディオ、8 チャンネル、48 kHz
HDMI エンベデッド 2 チャンネル

アナログ : 24 bit A/D、2 チャンネルバランスド (XLR コネクタ × 2)、48 kHz
入力レベル :Line、Mic、Mic + phantom 48 V dc
2 チャンネルアンバランスド (RCA ジャック × 2)

オーディオ出力

- デジタル :** 24 bit SDI エンベデッドオーディオ、8 チャンネル、48 kHz
HDMI エンベデッド 8 チャンネル
- アナログ :** 24 bit D/A、2 チャンネルバランスド XLR コネクタ、48 kHz
2 チャンネルアンバランスド (RCA ジャック × 2)

ネットワーク

- 10/100/1000 Ethernet (RJ45)
802.11b/g ワイヤレストランシーバ
リモートコントロール用エンベデッド WEB サーバ

パネル表示 (UI)

- 2 × 20 文字表示、専用ボタン付き

タイムコード

- LTC タイムコード入力および出力 (BNC コネクタ経由)
SDI エンベデッド RP188 タイムコード

コントロール

- LANC Loop (LANC コネクタ × 2) (バージョン 3.0 以前ではサポートせず)
- Lens Tap: カメラ本体とレンズ間のケーブル接続をインターセプトして、開始 / 停止をコントロールする AJA レンズタップ (オプション) を接続 (現行ソフトウェアでは未対応)
- IEEE-1394a/FireWire 400: コントロールおよびタイムコードデータ用 (バージョン 3.0 以前ではサポートせず)

シリアルポート

RS-422 (スレーブピン配列)、9 ピン (バージョン 2.0 より対応)

コネクタのピン配列は以下の通り :

1 GND
2 TX -
3 RX +
4 GND
5 No Connection
6 GND
7 TX +
8 RX -
9 GND
Shell GND

FireWire

FireWire 800 搭載の Macintosh コンピュータへの接続用 IEEE-1394b、FireWire 800Mb/s コネクタ (ハードドライブとしてマウント) (バージョン 3.0 以前ではサポートせず)

ハードウェアアップコンバージョン - 10bit

Anamorphic: フルスクリーン表示

Pillarbox 4:3:4:3 イメージをセンターに表示 (左右に黒み)

Zoom 14:9:4:3 イメージを 14:9 に拡大 (左右に黒み)

Zoom Letterbox: 拡大して全画面表示

Zoom Wide: 拡大し、さらに水平方向に引き伸ばして 16:9 イメージを生成 (Anamorphic と比較してアスペクト比の変移を抑えます)

ハードウェアダウンコンバージョン - 10bit

Anamorphic: フルスクリーン表示

Letterbox: アスペクト比を維持したまま、上下に黒みを付加して縮小

Crop: スクリーンサイズに合わせてクロップ

ハードウェアクロスコンバージョン - 10bit

1080i から 720P

720P から 1080i

寸法・重さ

高さ :3.25 インチ (8.25 cm)

幅 :9.00 インチ (22.86 cm)

奥行 : 6.12 インチ (15.56 cm)、正面アンテナカバーから背面ハンドル先端まで

重さ :3.7 ポンド (1.67 kg)

温度

動作温度範囲 : 5 °C ~ 40 °C

保存温度 (電源 OFF) : -20 °C ~ 60 °C

電源

電圧 :100 ~ 240 V AC (AC アダプタ使用時)

シャーシ右側の電源コネクタ 12 V DC 入力 : 最小 12 V DC、最大 18 V DC

電流 : 3.3 A (max.)

標準消費電力 : 30 W

索引

数字

10/100/1000 Ethernet LAN 21
10-bit 4:2:2 8
1394a FireWire ポート 21
1394b FireWire ポート 21
802.11 通信機 LED 24
802.11 無線通信 9
802.11 無線トランシーバ 39
9pin コネクタ 23

アルファベット

A

AC アダプタ 9, 24
AC 電源 32
ADJUST ボタン 18, 41
Alarm メニュー 46
Apple Final Cut Studio 7
Apple ProRes 422 7, 13

C

CD 11
Clips 画面 95
Codecs 8
Config 画面 82
CONFIG ボタン 17
CONFIG メニュー 42, 56
CTRL/TC 23

D

D/A (出力) 22
DC12 V 用 AC アダプタ 9
DC 電源 33
Default Addr 80
DELETE CLIP ボタン 18
DHCP 35, 80

E

Ethernet 10/100/1000 8
Ethernet 接続と設定 80
Exo-skeleton 9
Exo-Skeleton にカメラをマウント 28
ExpressCard/34 メモリーカード 7, 25

ExpressCard スロット 20
ExpressCard スロット LED 19

F

FFWD ボタン 17
Final Cut Pro 26
FireWire 23, 24
FireWire 800 ポート 9
FireWire 仕様 119

H

Hard Drive Storage Module 10
HD/SD-SDI 入出力 9, 21
HDMI 21
HDMI 入出力 9
Host 23

I

I frame-only エンコーディング 13
IEEE 1394b 23
IEEE 802.11 通信機インジケータ 24
iPhone または iPod Touch のブラウザ 101
IP アドレス、固定 80

L

LANC 21
Lens Tap 21, 24
Line/Mic レベルスイッチ 21
LTC 入出力 9, 21

M

Media 画面 85
MEDIA ボタン 17
MEDIA メニュー 42, 49

N

Network 画面 92

P

Ping 操作 38
Playlists 画面 95
PLAY ボタン 17

- Q**
QuickTime files 8
- R**
RECORD ボタン 17
REV ボタン 17
RS422 23, 24
RS-422 D コネクタのピン配列 119
RS-422 機器 23
RS422 コントロール 9, 21
- S**
SDI 入出力 22
SELECT ボタン 17, 41
SLOT ボタン 18
SSD ストレージモジュール 10
STATUS ボタン 17
STATUS メニュー 42, 46
STOP ボタン 17
- T**
TCP/IP 情報 35
Transport 画面 88
- U**
Update Firmware 画面 98
URL、Ki Pro 80
- V**
VU メータ 19
- W**
WEB 画面 80
WEB ブラウザからのコントロール 38
Wireless 画面 94
- X**
XLR 電源コネクタ 24
- Y**
YPbPr/RGB ビデオ 21
YUV 22
- 50 音**
- あ**
アップ/ダウン/クロスコンバージョン 8
アナログ 4 チャンネルバランスド/アンバランス
ドオーディオ 23
アナログ 4 チャンネルバランスドオーディオ 23,
24
アナログオーディオ入出力 9
アンバランスドオーディオ 23
インストールの概要 32
オーディオ出力仕様 118
オーディオ入力仕様 117
温度仕様 120
- か**
開梱 11
可変ビットレート (VBR) エンコーディング 13
概要 7
画面説明 80
機能 8
ギャングコントロール 107
ギャングレコーディング 9, 108
クリップの再生 44
クリップの収録 43
ケーブル接続 13, 15
工場設定 79
工場設定のデフォルト IP 38
固定 IP アドレス 36, 80
コネクタ 20
コントロール仕様 118
コンポーネント SD/HD 8
コンポーネントビデオ 22
コンポジットビデオ 21
コンポジットビデオ出力 8
- さ**
サポートページ 20
システム要件 12
正面パネル 16
仕様 117
シリアルポート仕様 119
ストレージ 25
ストレージモジュール (HDD) 9
設置 27
ソフトウェア 9

た

タイムコード仕様 118
単体使用 28
ディスクストレージモジュール LED 20
ディスプレイとインジケータ 19
デフォルトアドレス 80
デフォルト設定 79
電源 32
電源 ON/OFF ボタン 16
電源コネクタ 24
電源仕様 120
登録用紙 11
トランスポートコントロールボタン 17
トランスポートモード 41, 43

な

ネットワーク仕様 118
ネットワーク接続 34

は

ハードウェア 8
ハードウェアアップコンバージョン仕様 119
ハードウェアクロスコンバージョン仕様 120
ハードウェアダウンコンバージョン仕様 119
バランスオーディオ 23
パッケージ 11
パネル図 15
表示 19
ビデオ出力仕様 117
ビデオ入力 117
ビデオ入力仕様 117
複数の Ki Pro 107
ブラウザ画面 80
ブラウザを介したコントロール 9, 79
ヘッドホン音量つまみ 19
ヘッドホンジャック 20
ボタン 16

ま

マニュアル 13
無線通信 9
無線トランシーバ 39
メディアのフォーマット 26
メニューモード 41
モジュール取り外しボタン 19

ら

リムーバブルストレージモジュール 26
ロッドアクセサリキット 10

わ

ワイヤレスのウェブ接続 100